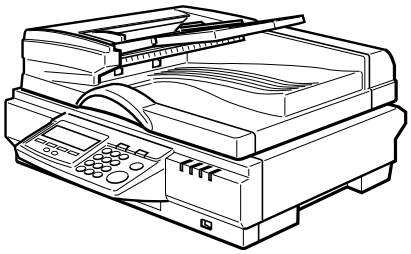
RICOH

IPSiO SCAN 3600DC

使用説明書



1 本機について
2 設置する
3 設定する
4 原稿のセットのしかた
5 ネットワークTWAINスキャナーとして使う
6 メールで送信する
7 共有フォルダーにファイル送信する
8 FTPサーバーにファイル送信する
9 Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用して配信する
10 付録

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。
1. 複製、印刷することが禁止されているもの
（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）
- 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- 日本や外国の郵便切手、印紙

- （関係法律）
  - 紙幣類似証券取締法
  - 通貨及証券模造取締法
  - 郵便切手類模造等取締法
  - 印紙等模造取締法
  - （刑法 第１４８条 第１６２条）

2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの
- 外国の紙幣、貨幣、銀行券
- 株券、手形、小切手などの有価証券
- 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画

- （関係法律）
  - 刑法 第１４９条 第１５５条 第１５９条 第１６２条
  - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3. 著作権法で保護されているもの
- 著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

目次

安全上のご注意 3
表示について 3
表示の例 3
使用上のお願い 6
説明書の紹介 7
冊子で提供される説明書 7
PDF形式で提供される説明書 7
この本の読みかた 8
マークについて 8
略称・総称について 8

1. 本機について

こんな使いかたができます 9
ネットワークTWAINスキャナーとして共有する ... 9
メールの添付ファイルで送信する 10
共有フォルダーにファイル送信する 11
FTPサーバーにファイル送信する 12
Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信をする ... 13
各部の名称 14
画面に表示されるキーなどの選びかた 16
インジケーターの見かた 17
正面のインジケーター 17
ネットワーク用インターフェースのインジケーター ... 18
機能選択と待機画面 18
Ridoc配信待機画面 19
メール/ファイル送信待機画面 19
ネットワークTWAIN待機画面 20
ネットワークTWAIN専用待機画面 20
初期設定画面 20
Ridoc配信/ファイル送信設定時 20
ネットワークTWAIN機能のみの設定時 20

2. 設置する

設置前の確認 21
設置環境を確認する 21
操作部を接続する 23
オプション（別売品）を取り付ける 24
画像プロセッシングユニットを接続する 24
無線LANカードを装着する 25
ネットワークに接続する 26
電源コードを接続する 27

3. 設定する

ネットワークTWAINスキャナーとして使用する準備の概要 29
メール送信を利用する準備の概要 30
ファイル送信（SMB）を利用する準備の概要 31
ファイル送信（FTP）を利用する準備の概要 32
Ridoc配信を利用する準備の概要 33
設定項目一覧 34
ネットワークで使用するための設定をする 40
［ネットワーク］の設定項目 40
［ネットワーク］の設定手順 41
スキャナーの設定をする 45
［スキャナー］の設定項目 45
［スキャナー］の設定手順 48
読取条件を登録する 50
［読取条件］の設定項目 50
［読取条件］の設定手順 52
Webブラウザーを使って設定する 56
本機にアクセスする 56
クライアントPCの動作環境 56
本機へのアクセス手順 57
Webステータスモニターの画面と操作方法 58
［設定］の操作手順例 59
［読取条件］の操作手順 59
［メールアドレス］の操作手順 60
あて名として登録する項目 63
［メールアドレス］の設定項目 63
［ファイル送信パス］の設定項目 64
［FTPサーバー］の設定項目 66
設定内容を確認する 68
確認操作の手順 68
設定のバックアップとリストア（復元） 69
バックアップ/リストアの対象項目 69
バックアップ時の操作手順 69
リストア時の操作手順 70
ソフトウェアをインストールする 72
CD-ROMの構成 72
ネットワークTWAINドライバーをインストールする ... 73
ネットワークTWAINドライバーの動作環境 73
ネットワークTWAINドライバーのインストール手順 ... 73
Ridoc Document Router Ltをインストールする ... 74
Ridoc Document Router Ltの動作環境 74
Ridoc Document Router Ltのインストール手順 ... 74
配信管理ツールのインストール手順 75
Ridoc Desk 2000 Ltをインストールする 76
Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境 76
Ridoc Desk 2000 Ltのインストール手順 76
Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviをインストールする ... 77
Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviについて 77
Ridoc I/Oのインストール手順 77

4. 原稿のセットのしかた

セットできる原稿のサイズと紙厚 79
自動的に読み取れる原稿サイズ 79
注意が必要な原稿について 80
原稿の向きと読取面について 81
原稿の片面だけを読み取る場合 82
原稿の両面を読み取る場合 83
原稿ガラスに原稿をセットする方法 84
ADFに原稿をセットする方法 84

5. ネットワークTWAINスキャナーとして使う

ネットワークTWAINで原稿を読み取る手順の概要 ... 87
Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る ... 88
こんな機能もあります ... 92
ネットワークTWAINスキャナーの機能一覧 ... 92

6. メールで送信する

メール送信の概要 ... 93
送信されるメール内容について ... 94
送信者 ... 94
メールの件名 ... 94
読み取った画像ファイル ... 94
メールの本文 ... 94
原稿をセットする ... 95
原稿のセット場所について ... 95
原稿の向きと読取面について ... 95
メール送信モードについて ... 95
あて先を指定する ... 96
To:を指定する ... 96
Cc:を指定する ... 97
件名を指定する ... 98
読取条件を指定する ... 99
読取条件の詳細を確認する ... 100
送信者を指定する ... 101
読取面を指定する ... 102
送信する ... 103
読み取りを開始する ... 103
ADFに原稿をセットしたとき ... 103
原稿ガラスに原稿をセットしたとき ... 103
送信の確認をする ... 105

7. 共有フォルダーにファイル送信する

登録済みの共有フォルダーへファイル送信する ... 107
ファイル送信（SMB）の手順の概要 ... 107
共有フォルダーを指定する ... 108
ファイル名を指定する ... 109
任意の共有フォルダーにファイルを送信する ... 110
任意ファイル送信の手順の概要 ... 110
［任意ファイル送信入力］を使う ... 110
共有フォルダーに送信されたファイルについて ... 114
保存フォルダー ... 114
ファイル名 ... 114

8. FTPサーバーにファイル送信する

FTPファイル送信の概要 ... 117
FTPサーバーを指定する ... 118
FTPサーバーに送信されたファイルについて ... 120
保存場所 ... 120
ファイル名 ... 120

9. Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用して配信する

Ridoc配信の概要 ... 123
配信先を指定する ... 124

10.付録

こんなときには ... 125
インジケーターの点灯・点滅がいつもと違うとき ... 125
ADFに原稿が詰まったとき ... 126
思いどおりに読み取れないとき ... 127
エラーメッセージが表示されたとき ... 127
本体に関するエラーが表示されたとき ... 128
読取条件に関するエラーが表示されたとき ... 128
Ridoc配信、メール/ファイル送信時に、本体操作画面にエラーが表示されたとき ... 130
Webブラウザーの画面にエラーが表示されたとき ... 132
その他 ... 133
清掃 ... 135
原稿ガラス、ADF原稿ガラス、圧板、ホワイトプレートを清掃するには ... 135
フィードローラーを清掃するには ... 136
原稿ローラーを清掃するには ... 136
原稿コロを清掃するには ... 137
移動・輸送 ... 138
近くに移動するとき ... 138
本機を輸送するとき ... 138
廃棄 ... 140
無線LANの設定をする ... 141
無線LANを使うための設定の概要 ... 141
無線LANを使うための設定手順 ... 141
メールアドレス一括登録/書き出し時のフォーマット ... 146
登録エントリー情報 ... 146
機器タグ情報 ... 147
解像度、読み取り領域とデータサイズの関係 ... 149
ネットワークTWAINドライバー使用時 ... 149
「白黒2値」、「白黒2値（ハーフトーン）」の場合 ... 149
「白黒256値（グレースケール）」の場合 ... 150
「カラー 8色」、「カラー 8色（ハーフトーン）」の場合 ... 150
「カラー 256色」の場合 ... 151
「カラー 1677万色」の場合 ... 151
メール/ファイル送信（SMB、FTP）、Ridoc配信時 ... 152
「白黒:文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」の場合 ... 152
「白黒:グレースケール」の場合 ... 153
「カラー :フルカラー」の場合 ... 153
オプション ... 154
仕様 ... 155
電波障害について ... 156
搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報 ... 157
GPL/LGPL適用ソフトウェアについて ... 157
BSDライセンス適用ソフトウェアについて ... 157
The Apache Software License 適用ソフトウェアについて ... 157
JPEGソフトウェアについて ... 158
TIFFソフトウェアについて ... 159
UCD-SNMPソフトウェアについて ... 160
MD5ソフトウェア使用許諾文について ... 161

索引 ... 162

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は、“分解禁止”を表します)

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
●の中に具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は、“アース線を必ず接続すること”を表します)

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠警告

- アース接続してください。アース接続がされないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因になります。アース接続がコンセントのアース端子にできない場合は、接地工事を電気工事業者に相談してください。
- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因になります。

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

- この機械の上に花瓶、植木鉢、コップ、水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

- 本書で指定している部分以外のカバーやねじは外さないでください。機械内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。機械内部の点検・調整・修理はサービス実施店に依頼してください。
- この機械を改造しないでください。火災や感電の原因になります。

- 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態が見られる場合は、すぐに電源スイッチ（機種によっては主電源スイッチを含みます）を切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてサービス実施店に連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。
- 万一、金属、水、液体などの異物が機械内部に入った場合は、まず電源スイッチ（機種によっては主電源スイッチを含みます）を切り、電源プラグをコンセントから抜いてサービス実施店に連絡してください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

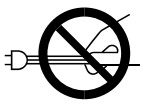
⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

- 本機は約29kgあります。
- 本機を持ち上げるときは、2 人以上で両側面の中央部分にある取っ手を持ち、ゆっくりと体に負担がかからない状態で持ち上げてください。無理をして持ち上げたり、乱暴に扱って落としたりすると、けがの原因になります。
- 長距離を移動するときは、サービス実施店に相談してください。

- 機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 連休等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 電源プラグは年に 1 回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。

- 原稿づまりを処置してカバーを閉じる場合は、手を挟まないよう気をつけてください。けがの原因になります。

使用上のお願い

- 部品は、リコー指定の製品により安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、リコー指定の交換部品をご使用ください。部品の交換はサービス実施店に相談してください。
- 寒い所から暖かい所に移動すると、機械内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、１時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。
- スキャナー内部の温度が上昇すると、故障の原因になります。物を置いたり、立て掛けたりして排気口や吸気口をふさがないようにしてください。
- 通気口などでは排気により暖かいと感じることがありますが、異常ではありません。
- カバーを開けたままにしないでください。けがの原因になります。
- クリップなどの異物がスキャナーの中に入らないようにしてください。
- 原稿読み取り中に電源を切ったり、電源コードを抜かないでください。
- 原稿読み取り中にスキャナーの上で紙を揃えるなど外的ショックを与えないでください。
- 安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国異なります。これらの規制に違反して、本製品および消耗品などを諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。
- 日本国外へ移動された場合は、保守サービスの責任を負いかねますのでご了承ください。

説明書の紹介

冊子で提供される説明書

❖ **かんたんセットアップ**
本機の設置方法について説明しています。

❖ **使用説明書（本書）**
本機の機能や、その機能を使うための設定や操作方法について説明しています。また、困ったときの対処方法なども説明しています。

PDF形式で提供される説明書

補足

❒ PDF形式の説明書を表示するには、Adobe Acrobat Readerが必要です。

❖ **Ridoc Desk 2000 Lt セットアップガイド**
Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境の詳細とインストール方法について説明しています。
Ridoc Desk 2000 Ltのインストール時のセットアップ画面から表示させることができます。

❖ **Ridoc Desk 2000 Lt はじめてガイド**
Ridoc Desk 2000 Ltの機能の概要と、基本的な操作方法について説明しています。
Ridoc Desk 2000 Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

❖ **Ridoc Auto Document リンクガイド**
Ridoc Desk 2000 Ltとともにインストールされる「Ridoc Auto Documentリンク」の基本的な操作方法や機能について説明しています。
Ridoc Desk 2000 Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

❖ **Ridoc Document Router Lt セットアップガイド**
Ridoc Document Router Ltの動作環境の詳細、インストールと初期設定のしかたについて説明しています。
Ridoc Document Router Ltのインストール時のセットアップ画面から表示させることができます。

❖ **Ridoc Document Router Lt 管理者ガイド**
Ridoc Document Router Ltの機能概要と配信サーバーの管理・運用について説明しています。
Ridoc Document Router Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

この本の読みかた

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

※以上は、安全上のご注意についての説明です。

重要

誤って操作をすると、紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

［　］

画面のキーの名称を示します。

【　】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

略称・総称について

次の製品（ソフトウェア）については、総称を使用しています。

製品名	総称
Ridoc Document Router Pro [*1] とRidoc Document Router [*1] およびRidoc Document Router Lt	Ridoc Document Router/Pro/Lt
Ridoc Desk 2000 [*1] とRidoc Desk 2000 Lt	Ridoc Desk 2000/Lt

[*1]　別売になります。

1. 本機について

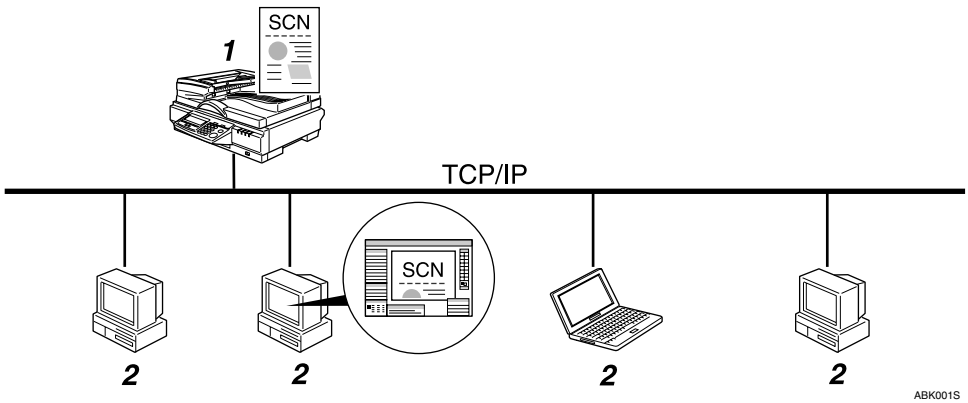
ここでは、本機の多様な使いかたや、各部の名称など、はじめに知っていただきたいことを説明します。

こんな使いかたができます

ネットワークTWAINスキャナーとして共有する

同一LAN上のPCから、SCSIケーブルやUSBケーブルでPCに直接接続されたスキャナーと同じように、本機をTWAIN対応スキャナーとして使用できます。

1台のスキャナーを複数のPCで共有できるため、スキャナー専用PCを用意したり、使用するPCごとにスキャナーを接続しなおすなどの手間がいりません。



1. **本機**

100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線 LAN カードで接続することもできます。

2. **クライアントPC**

ネットワーク TWAIN ドライバーをインストールします。TWAIN 対応アプリケーション（Ridoc Desk 2000 Ltなど）から、スキャナーを使用できます。

処理の流れ

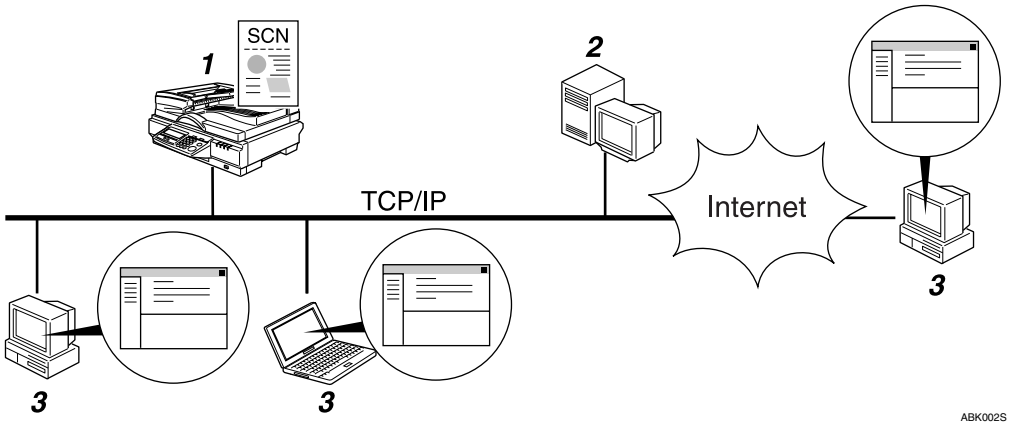
1 「2.クライアントPC」のTWAIN対応アプリケーションの中から、ネットワークTWAINドライバーを介して、読み取りの指示をします。

2 原稿が「1.本機」から読み取られます。

3 読み取った画像データは、「2.クライアントPC」のTWAIN対応アプリケーションの中で加工し、保存します。

メールの添付ファイルで送信する

メールアドレスをあて先として本機に登録することにより、読み取った画像が添付ファイルになったメールを、本機から直接、送信できます。



1. **本機**

100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線 LAN カードで接続することもできます。

2. **SMTPサーバー**

SMTP プロトコルの電子メール送信サーバーです。SMTPサーバーは必ずしも同一LAN上に存在する必要はありません。SMTP の電子メールが使える環境であれば利用できます。

3. **メールクライアント**

電子メールソフト（Outlookなど）から、画像ファイルの添付されたメールを受信します。

処理の流れ

1 **「1.本機」の操作部から、あて先や件名、読取条件の指示をします。**

2 **原稿が「1.本機」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像データを添付ファイルとするメールが、「1.本機」から「2.SMTPサーバー」に送信されます。**

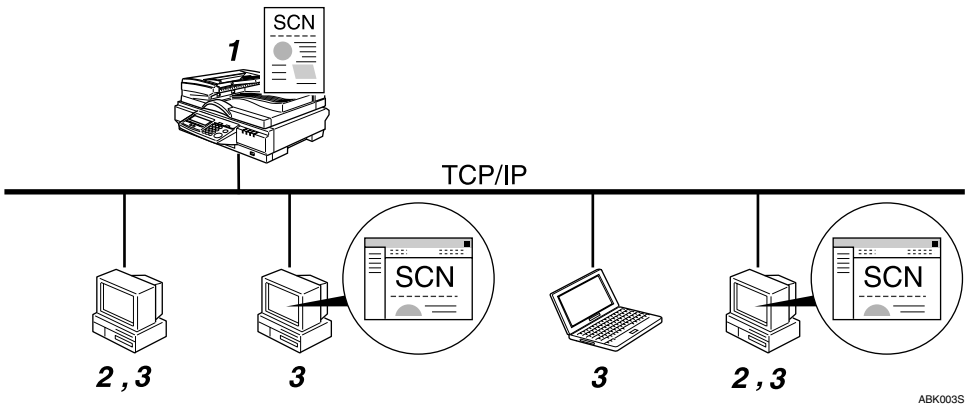
4 **「2.SMTPサーバー」から、各あて先の電子メール受信サーバーにメールが送信され、「3.メールクライアント」で受信できます。**

共有フォルダーにファイル送信する

同一ネットワーク上のPCなどのWindows共有フォルダーをあて先として本機に登録することにより、読み取った画像ファイルを、その共有フォルダーに直接、送信・保存できます。

補足

❒ 共有フォルダーへのファイル送信は、本機の操作画面では、「ファイル送信：SMB」と表記されています。SMBは、Windowsで採用されているファイルやプリンターの共有サービスのためのプロトコルです。



1. **本機**
   100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線 LAN カードで接続することもできます。

2. **共有フォルダーを持つコンピューター**
   あらかじめ共有フォルダーを作成しておきます。共有フォルダーに読み取った画像ファイルが保存されます。

3. **クライアントPC**
   送信の指示を行ったり、共有フォルダーに保存された画像ファイルを閲覧します。送信指示を行う場合は、Webブラウザー（IE）が必要です。

処理の流れ

1 「1.本機」または「3.クライアントPC」から、保存する共有フォルダーや保存ファイル名、読取条件の指示をします。

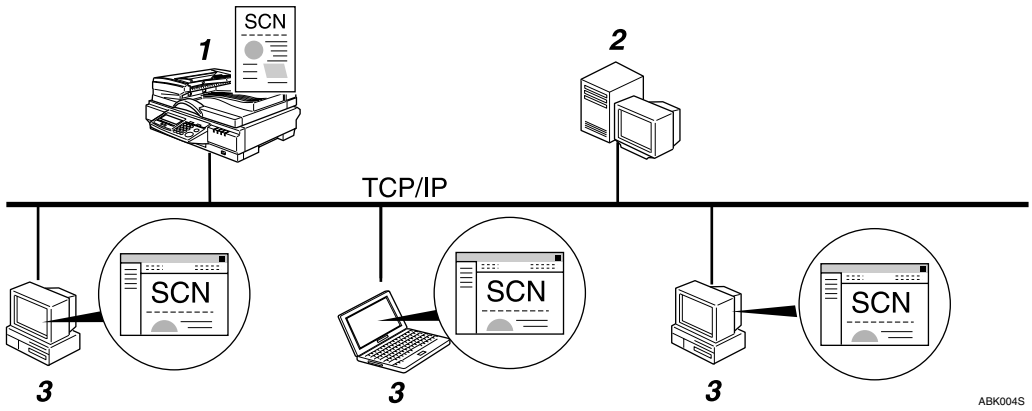
2 原稿が「1.本機」から読み取られます。

3 読み取られた画像データは、指定された「2.共有フォルダー」に送信され、保存されます。

4 保存された画像ファイルは、適時、「3.クライアントPC」から利用できます。

FTPサーバーにファイル送信する

FTPサーバーをあて先として本機に登録することにより、読み取った画像ファイルを、そのFTPサーバーに、送信・保存できます。



1. **本機**

100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線 LAN カードで接続することもできます。

2. **FTPサーバー**

読み取った画像ファイルが保存されます。同一LAN/WAN上のFTPサーバーが利用できます。（プロキシサーバー経由でのアクセスはできません。）

3. **クライアントPC**

FTPサーバーに保存された画像ファイルを閲覧します。FTPサーバーに接続するためには、FTPクライアントツールが必要です。

処理の流れ

1 「1.本機」の操作部から、保存するFTPサーバーやファイル名、読取条件の指示をします。

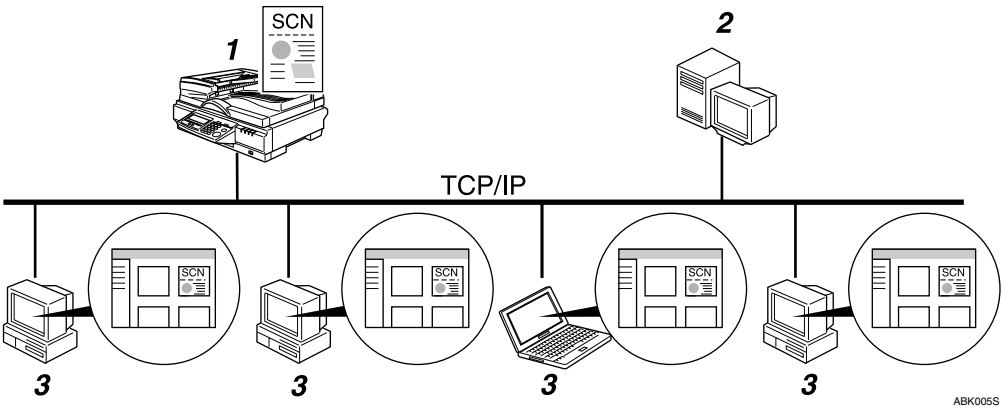
2 原稿が「1.本機」から読み取られます。

3 読み取られた画像データは、指定された「2.FTPサーバー」に送信され、保存されます。

4 保存された画像ファイルは、適時、「3.クライアントPC」のFTPクライアントツールでダウンロードして利用できます。

Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信をする

本機で読み取った画像ファイルを、Ridoc Document Router/Pro/Ltを使って配信できます。



1. **本機**

100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LANカードで接続することもできます。なお、同梱のRidoc Document Router Ltを利用した場合は、本機を2台まで接続できます。

2. **配信サーバー**

Ridoc Document Router/Pro/Ltをインストールした Ridoc Document System用の配信サーバーです。個人あて、フォルダーあて、メールアドレスあて、それらをひとまとめにしたグループあてのアドレス帳と、そのあて先別の文書ファイルを保存・管理しています。

3. **クライアントPC**

配信サーバーに保存された画像ファイルを、Ridoc Desk 2000/Ltを使って閲覧します。また、必要な文書をクライアントPCのハードディスクなどに保存することも可能です。

処理の流れ

1 **「1.本機」の操作部から、あて先や読取条件の指示をします。**

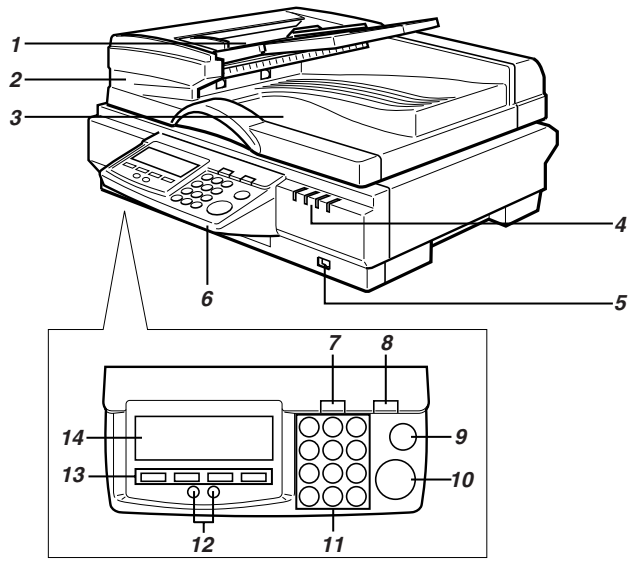
2 **原稿が「1.本機」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像データは、「2.配信サーバー」に送信され、保存されます。**

4 **「2.配信サーバー」は、配信があったことをあて先に指定された相手に通知したり、ローカルハードディスクに保存するなどの処理を設定に従って行います。**

5 **保存された画像ファイルは、適時、「3.クライアントPC」のRidoc Desk 2000/Ltを使って閲覧・利用できます。**

各部の名称



ZDLH310

1. **原稿テーブル**
ADF（自動原稿送り装置）で読み取る原稿をセットします。

2. **ADF（自動原稿送り装置）**
原稿を自動的に送って読み取るときに使用します。また、両面を一度に読み取ることができます。

3. **排紙テーブル**
ADF を使用して読み取りが終わった原稿が排出されます。

4. **インジケーター**
本機の状態を確認することができます。

5. **電源スイッチ**
本機の電源を入れたり切ったりします。

6. **操作部**
本機の設定や操作を行うことができます。

7. **【初期設定】キー**
ネットワークの設定やスキャン条件の設定などを行うときに使います。

8. **【リセット】キー**
電源投入時の画面に戻すときに使います。

9. **【クリア/ストップ】キー**
入力した値をクリアしたり、読み取りを中止したいときに使います。

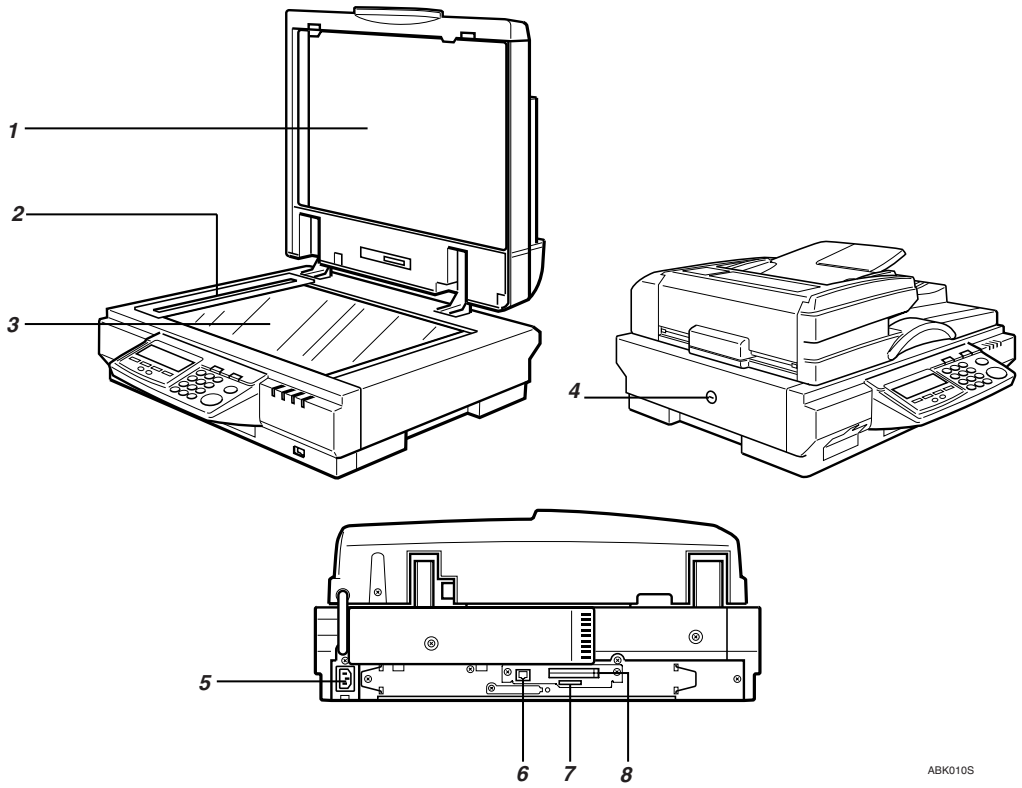
10. **【スタート】キー**
読み取りを開始するときに使います。

11. **テンキー**
数字の入力に使います。

12. **移動キー**
設定内容を選ぶことができます。

13. **ファンクションキー**
画面に表示された項目を選ぶことができます。P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

14. **画面**
設定項目や内容などが表示されます。



1. **圧板**
原稿ガラスにセットした原稿を押さえます。

2. **ADF原稿ガラス**
自動原稿送り時は、ここを通ったときに原稿が読み取られます。

3. **原稿ガラス**
原稿をセットします。

4. **固定スイッチ**
本機を輸送するときなどに内部の読取装置などを固定するスイッチです。

5. **電源コネクター**
電源コードを接続します。

6. **ネットワーク用インターフェース**
ネットワーク（Ethernet）ケーブルを差し込むコネクターです。

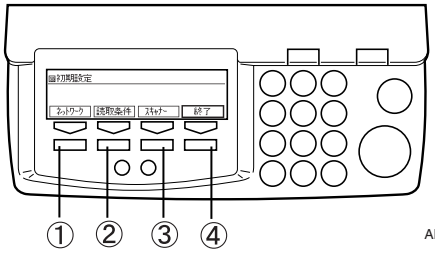
7. **SDカードスロット**
カスタマーエンジニアがメンテナンス時に使用します。

8. **PCカードスロット×2**
PCカードTypeⅡスロットが2基装備されています。オプションの無線LANカードを装着できます。

画面に表示されるキーなどの選びかた

本機の画面は、タッチパネルではありません。画面に表示されるキーや項目などは、ファンクションキーを使って選びます。

例



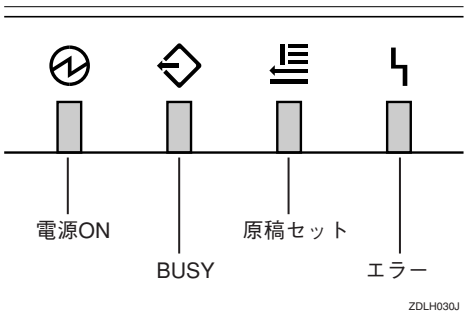
画面に表示されている項目の下にあるファンクションキーを押すと、その項目を選ぶことができます。

- ［ネットワーク］を選ぶときは、①を押します。
- ［読取条件］を選ぶときは、②を押します。
- ［スキャナー］を選ぶときは、③を押します。
- ［終了］を選ぶときは、④を押します。

インジケーターの見かた

正面のインジケーター

本機正面には次のようなインジケーターがあります。



本機が正常な状態のとき、インジケーターは次のようになります。それ以外の状態になった場合はエラーが発生しているので、P.125「インジケーターの点灯・点滅がいつもと違うとき」を参照し、エラーを解除してください。

				内容
◎	◎	◎	◎	電源を入れたり、ハードリセットしたとき (数秒間のみ)
◎	−	−	−	ADFに原稿がなく、読み取っていないとき
◎	−	◎	−	ADFに原稿があり、読み取っていないとき
◎	◎	−	−	読み取ったデータの処理中 (ADFに原稿がないとき)
◎	◎	◎	−	読み取ったデータの処理中 (ADFに原稿があるとき)
○	−	−	−	省電力モード時

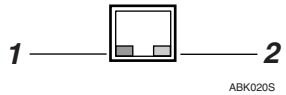
◎：点灯

○：点滅

−：消灯

ネットワーク用インターフェースのインジケーター

本機背面のネットワーク用インターフェースには、ネットワークの状態が確認できるインジケーターが埋め込まれています。



1. **緑色のインジケーター**
ネットワークが正常に接続していると点灯します。

2. **黄色のインジケーター**
データの送受信時に点灯します。

機能選択と待機画面

本機では、

- Ridoc配信　⇒P.13「Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信をする」
- メール送信　⇒P.10「メールの添付ファイルで送信する」
- ファイル送信（SMB）　⇒P.11「共有フォルダーにファイル送信する」
- ファイル送信（FTP）　⇒P.12「FTPサーバーにファイル送信する」
- ネットワークTWAIN　⇒P.9「ネットワークTWAINスキャナーとして共有する」

の各機能を同時に使うことはできません。[機能選択]で、使用する機能をあらかじめ設定して利用します。

❖ **Ridoc配信/TWAIN**
Ridoc配信とネットワークTWAIN機能が利用できます。
メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）はできません。

❖ **ファイル送信/TWAIN**
メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）と、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
Ridoc配信はできません。

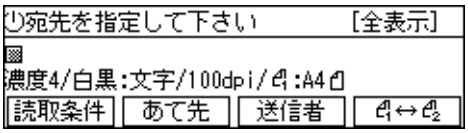
❖ **TWAIN**
ネットワークTWAIN機能が利用できます。
Ridoc配信、メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）はできません。

また、［送信/TWAIN優先設定］によって電源投入時の待機画面が異なります。

		送信/TWAIN優先設定	
		送信	TWAIN
機能選択	Ridoc配信/TWAIN	Ridoc配信待機画面	ネットワークTWAIN待機画面
	ファイル送信/TWAIN	メール/ファイル送信待機画面	ネットワークTWAIN待機画面
	TWAIN	—	ネットワークTWAIN専用待機画面

参照
設定のしかたについては、P.45 「スキャナーの設定をする」を参照してください。

Ridoc配信待機画面

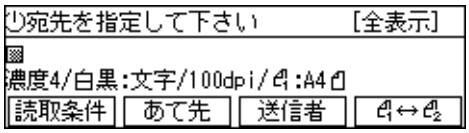


［あて先］を押すと、Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳を利用した配信ができます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

このモードからは、クライアントPCのWebブラウザーから任意ファイル送信はできますが、本機の操作部からのメール送信機能、ファイル送信（SMBおよびFTP）機能は利用できません。

クライアントPCのTWAIN対応アプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「ネットワークTWAIN待機画面」に入り、使い終わると「Ridoc配信待機画面」に戻ります。

メール/ファイル送信待機画面

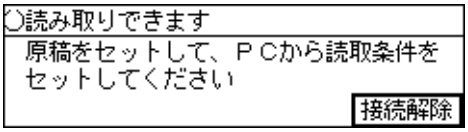


［あて先］を押すと、メール送信とファイル送信（SMBおよびFTP）ができます。また、クライアントPCのWebブラウザーから任意ファイル送信、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

このモードからは、配信サーバーを利用したRidoc配信はできません。

クライアントPCのTWAIN対応アプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「ネットワークTWAIN待機画面」に入り、使い終わると「メール/ファイル送信待機画面」に戻ります。

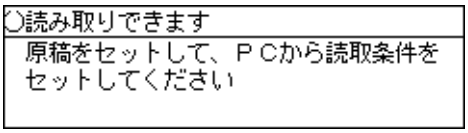
ネットワークTWAIN待機画面



クライアントPCのTWAINアプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動して、本機をTWAINスキャナーとして利用できます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

[機能選択]で、「Ridoc配信/TWAIN」が設定されているときに[接続解除]を押すと、「Ridoc配信待機画面」になります。「ファイル送信/TWAIN」が設定されているときに、[接続解除]を押すと「メール/ファイル送信待機画面」になります。

ネットワークTWAIN専用待機画面



クライアントPCのTWAINアプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動して、TWAINスキャナーとして利用できます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

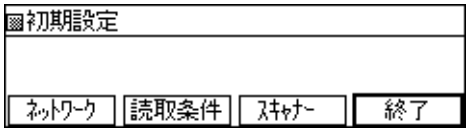
Ridoc配信、メール送信、ファイル送信（SMBおよびFTP）、Webブラウザーからの任意ファイル送信の各機能は利用できません。

初期設定画面

【初期設定】キーを押すと、ネットワークやスキャナー全般の設定や、読取条件の登録が行えます。

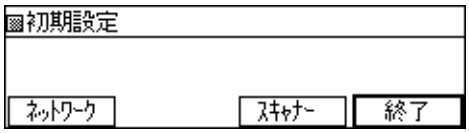
Ridoc配信/ファイル送信設定時

機能選択で「Ridoc配信/TWAIN」または「ファイル送信/TWAIN」を選択している状態で、**【初期設定】**キーを押したときの画面です。



ネットワークTWAIN機能のみの設定時

機能選択で「TWAIN」を選択している状態で、**【初期設定】**キーを押したときの画面です。読取条件は、クライアントPCのアプリケーションからネットワーク TWAIN ドライバーを起動して設定します。



ここでは、本機を使用する前の準備作業である、本機の設置と、各種の設定について説明します。

設置前の確認

設置環境を確認する

⚠警告

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

⚠注意

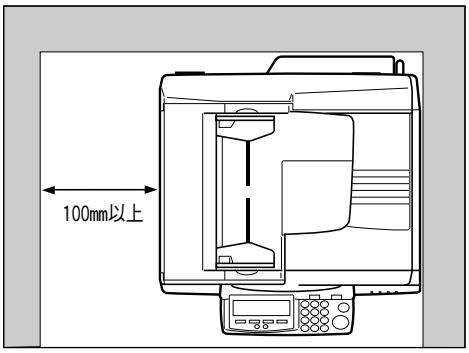
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

水平でがたつきがなく、振動のない場所を選んで設置してください。

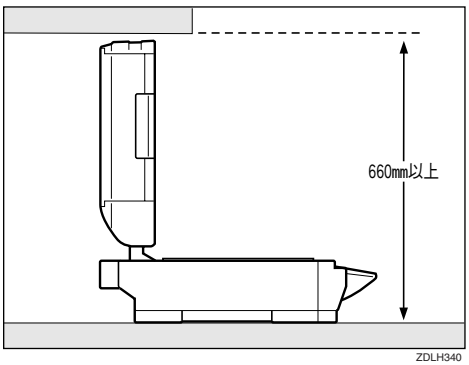
- 設置する台の平面度：前後左右5mm以下

❖ **設置スペース**

次の図のようなスペースを確保できる場所に設置してください。



ZDLH330



ZDLH340

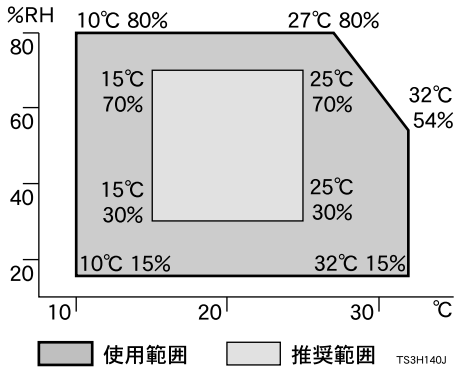
❖ **設置環境**

重要

❒ 故障の原因になりますので、次のような場所に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- エアコンや暖房機などの温風・ふく射熱が直接当たるところ
- ラジオ・テレビなど、他のエレクトロニクス機器に近いところ
- 高温、高湿、低温、低湿になるところ
- 加湿器の近く

温度や湿度が以下の図で示す範囲におさまる場所に設置してください。



重要

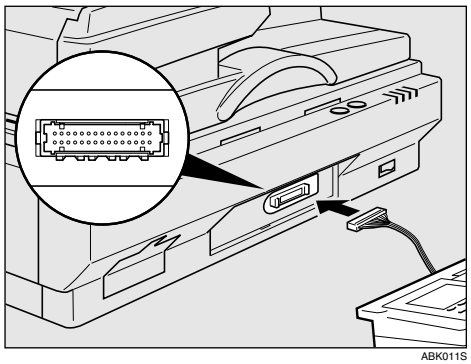
- ❒ 本機の梱包箱や緩衝材は、本機を輸送するときに使用できるように保存してください。
- ❒ 寒い所から暖かい所に移動すると、機械内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、1 時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。

操作部を接続する

補足

❒ ネジの取り外しや固定は、付属の工具で行ってください。

1 **操作部のケーブルを本体のコネクターに差し込みます。**



ABK011S

補足

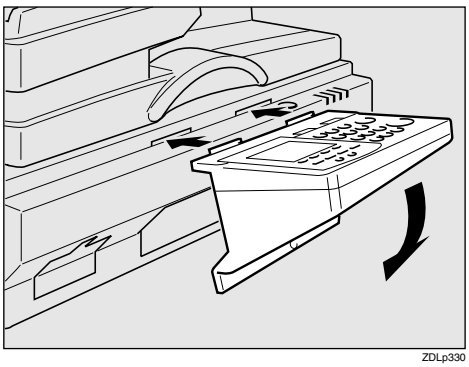
❒ 誤挿入防止のため、コネクターの左右に凸状・凹状のツメがあります。左右の形状を確認して差し込んでください。正しい向きで差し込まないと、破損の原因となります。

❒ 本機と操作部でケーブルを挟まないように注意してください。

❒ 本機を、設置する台の端におくと、差し込みやすくなります。

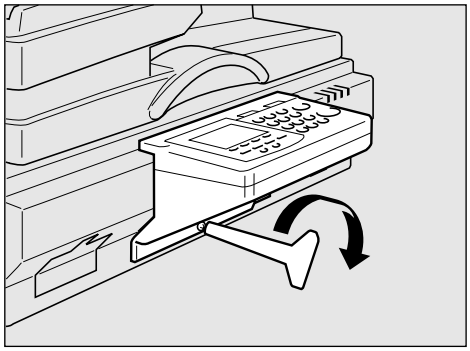
❒ 操作部左下のカバーは開けないでください。中のスイッチが変更されると、動作しなくなる恐れがあります。

2 **操作部のツメを本体に差し込みます。**



ZDLp330

3 **同梱されているネジで固定します。**



ZDLp340

オプション（別売品）を取り付ける

画像プロセッシングユニットを接続する

重要

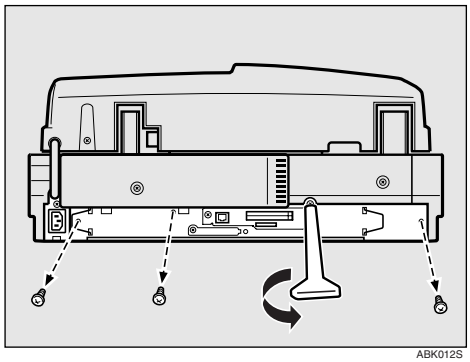
❒ 画像プロセッシングユニットに触れる前に、金属製のものに触れて、身体の静電気を取り除いてください。

補足

❒ ネジの取り外し、固定には付属の工具を使用してください。

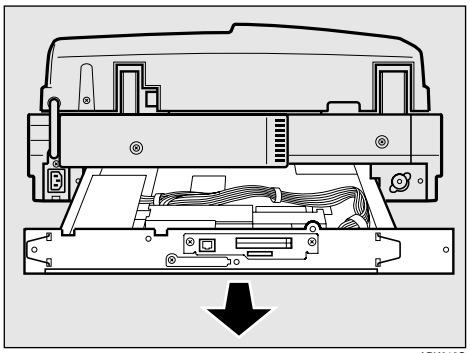
1 本機の電源を切り、電源コードなど本機に接続されているケーブルをすべて抜きます。

2 本体背面下部の4本のネジを取り外します。



ABK012S

3 スキャナーコントロールユニットを引き抜きます。

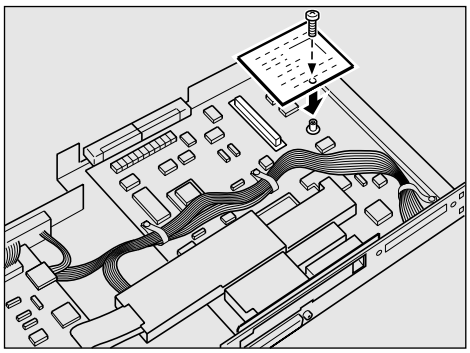


ABK013S

重要

❒ コントロールユニットは重量があるので、落としたりしないよう注意して引き抜いてください。

4 画像プロセッシングユニットの底面のコネクターをスキャナーコントロールユニットのコネクターに接続し、同梱されている1本のネジで固定します。



ABK014S

5 しっかりと接続されていることを確認し、スキャナーコントロールユニット上に金属などの異物がないことを確認します。

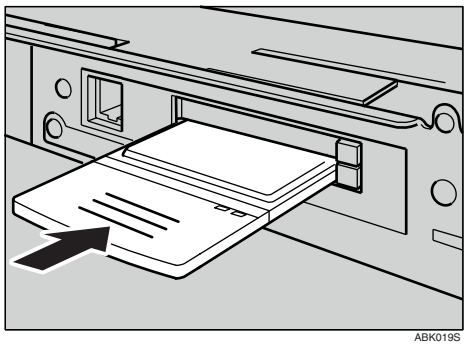
6 スキャナーコントロールユニットを本体に差し込み、4本のネジで固定します。

7 各ケーブルを接続し、電源コードを接続します。

無線LANカードを装着する

1 本機の電源を切ります。

2 本体背面下部のPCカードスロットに、無線LANカードを挿入します。



補足

- ❒ 無線LANカードは、黒いアンテナ部に3本の横線が入っている面を上にして差し込んでください。正しい向きで差し込まないと、破損の原因になります。
- ❒ カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ❒ 挿入するPCカードスロットは、1、2のどちらのスロットでもかまいません。

3 無線LANカードにカバーを取り付けます。

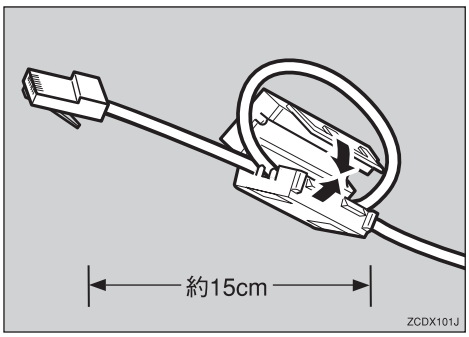
ネットワークに接続する

本機をネットワークに接続する手順について、説明します。

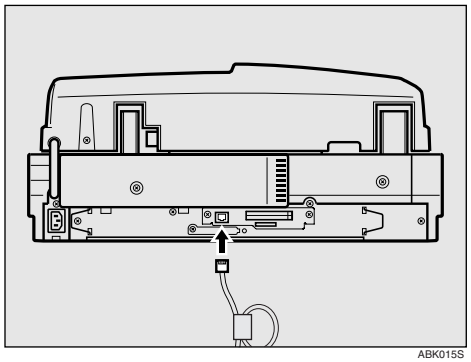
重要

❒ 本機とネットワークは、10BASE-Tまたは100BASE-TXネットワークケーブルを使って接続してください。なお、100BASE-TXネットワークケーブルでネットワークに接続する場合は、カテゴリー5の製品を使用してください。

1 ケーブルをひねってコネクターから約15cmの所に一重の輪を作り、同梱のフェライトコアを取り付けます。



2 フェライトコアを巻き付けた側のコネクターを、本機のネットワーク用インターフェースに接続します。



3 ケーブルのもう一方のコネクターを、ハブ（Hub）などのネットワーク機器に接続します。

電源コードを接続する

本機に電源コードを接続する手順について説明します。

⚠警告

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

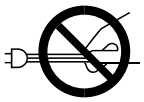
⚠警告

- アース接続してください。アース接続がされないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因になります。アース接続がコンセントのアース端子にできない場合は、接地工事を電気工事業者に相談してください。

⚠警告

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

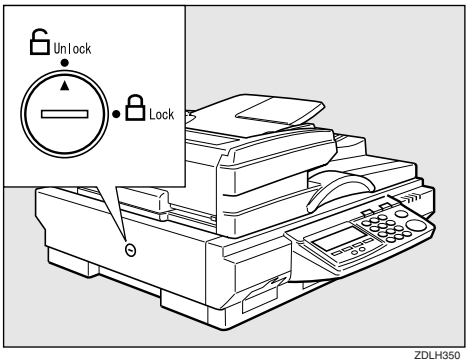
⚠注意



- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

1 **電源スイッチが切れていることを確認します。**

2 **本体左側面の固定スイッチが「Unlock」側になっていることを確認します。**

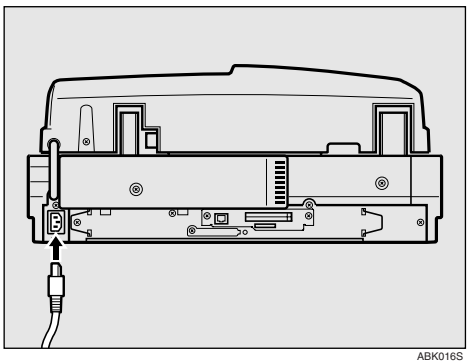


ZDLH350

重要

❒ 固定スイッチが「Unlock」側になっていることを必ず確認してください。解除しないで電源を入れるとスキャンできないだけではなく、故障などの原因となります。

3 **電源コードを本機の電源コネクターに奥までしっかり差し込みます。**

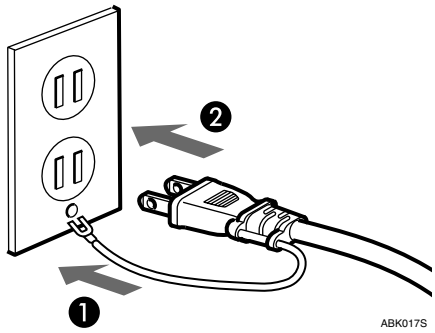


ABK016S

補足

❒ 電源コードは本機に付属されているものを使用してください。

4 アース接続を行い、電源プラグをコンセントに差し込みます。



ABK017S

⚠警告

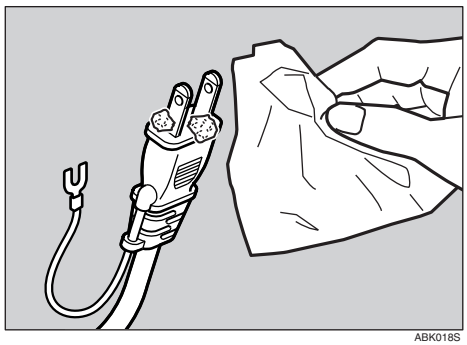
- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因になります。

本機のアース端子は必ずアース対象物に接続してください。アース対象物は次のとおりです。

- コンセントのアース端子
- 接地工事（D種）を行っているアース線

⚠注意

- 電源プラグは年に1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。



ABK018S

電源を切るときは

本機の電源をOFFにするときは、操作部の画面が待機画面になっていることを確認してからOFFにしてください。

初期設定画面のまま、電源をOFFにすると、IPアドレスや読取条件などが工場出荷時の値に戻ることがあります。

また、正面インジケーターの⇔が点灯しているときや、操作部の画面右上に⇔マークが表示されているときに電源をOFFすると、読み取ったデータの処理・送信が正しく行われません。⇔マークの点灯・表示が消えてから、電源をOFFしてください。

ネットワークTWAINスキャナーとして使用する準備の概要

本機をネットワークの共有 TWAIN スキャナーとして利用する場合の準備作業の流れ図を示します。
下線は必須作業です。

本機から［ネットワーク］の設定を行う

⇒ P.40 「ネットワークで使用するための設定をする」

PC [*1] にネットワークTWAINドライバーをインストールする

⇒ P.73 「ネットワークTWAINドライバーのインストール手順」

[*1] ネットワークTWAINスキャナーとして使用するには、PC上にTWAIN対応アプリケーションソフトウェアが必要です。同梱のRidoc Desk 2000 LtもTWAIN対応アプリケーションの1つです。

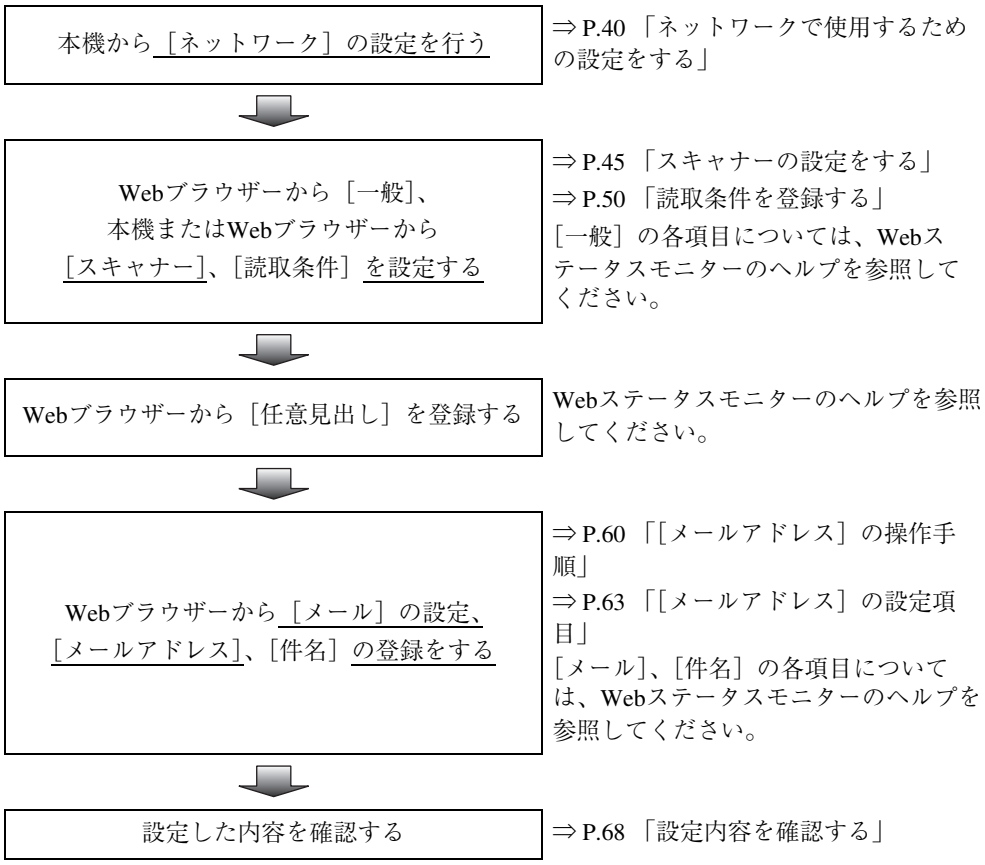
メール送信を利用する準備の概要

メールの添付ファイルとして画像データを送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

参照

設定項目には、①本機の操作部を使って設定する項目、②PCのWebブラウザー（Webステータスモニター）を使って設定する項目、③本機の操作部・PCのWebブラウザーのどちらからでも設定できる項目、があります。詳細は、P.34 「設定項目一覧」を参照してください。

本書では、本機の操作部を使った設定方法を基準にして解説しています。本書に説明のない設定項目の詳細は、Webステータスモニターのヘルプファイルを参照してください。なお、WebステータスモニターへのアクセスのしかたはP.56 「本機にアクセスする」を参照してください。



ファイル送信（SMB）を利用する準備の概要

Windows共有フォルダーにファイル送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

参照

設定項目には、①本機の操作部を使って設定する項目、②PCのWebブラウザーを使って設定する項目、③本機の操作部・PCのWebブラウザーのどちらからでも設定できる項目、があります。詳細は、P.34 「設定項目一覧」を参照してください。

本書では、本機の操作部を使った設定方法を基準にして解説しています。本書に説明のない設定項目の詳細は、Webステータスモニターのヘルプファイルを参照してください。なお、WebステータスモニターへのアクセスのしかたはP.56 「本機にアクセスする」を参照してください。

PCに共有フォルダーを作成する	Windowsのヘルプを参照してください。
↓	
本機から［ネットワーク］の設定を行う	⇒P.40 「ネットワークで使用するための設定をする」
↓	
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒P.45 「スキャナーの設定をする」 ⇒P.50 「読取条件を登録する」 ［一般］の各項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［任意見出し］を登録する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［ファイル送信］の設定、［ファイル送信パス］*1、［ファイル名］の登録をする	⇒P.64 「［ファイル送信パス］の設定項目」 ［ファイル送信］、［ファイル名］の各項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
設定した内容を確認する	⇒P.68 「設定内容を確認する」

*1 本機からファイル送信(SMB)の指示を行う場合は、必須作業となります。Webブラウザーから［任意ファイル送信入力］の指示を行う場合は、事前に［ファイル送信パス］を登録する必要はありません。

ファイル送信（FTP）を利用する準備の概要

FTPサーバーにファイル送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

参照

設定項目には、①本機の操作部を使って設定する項目、②PCのWebブラウザーを使って設定する項目、③本機の操作部・PCのWebブラウザーのどちらからでも設定できる項目、があります。詳細は、P.34 「設定項目一覧」を参照してください。

本書では、本機の操作部を使った設定方法を基準にして解説しています。本書に説明のない設定項目の詳細は、Webステータスモニターのヘルプファイルを参照してください。なお、WebステータスモニターへのアクセスのしかたはP.56 「本機にアクセスする」を参照してください。

本機から［ネットワーク］の設定を行う	⇒P.40 「ネットワークで使用するための設定をする」
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒P.45 「スキャナーの設定をする」 ⇒P.50 「読取条件を登録する」 ［一般］の各項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
Webブラウザーから［任意見出し］を登録する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
Webブラウザーから［ファイル送信］の設定、［FTPサーバー］、［ファイル名］の登録をする	⇒P.66 「［FTPサーバー］の設定項目」 ［ファイル送信］、［ファイル名］の各項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
設定した内容を確認する	⇒P.68 「設定内容を確認する」

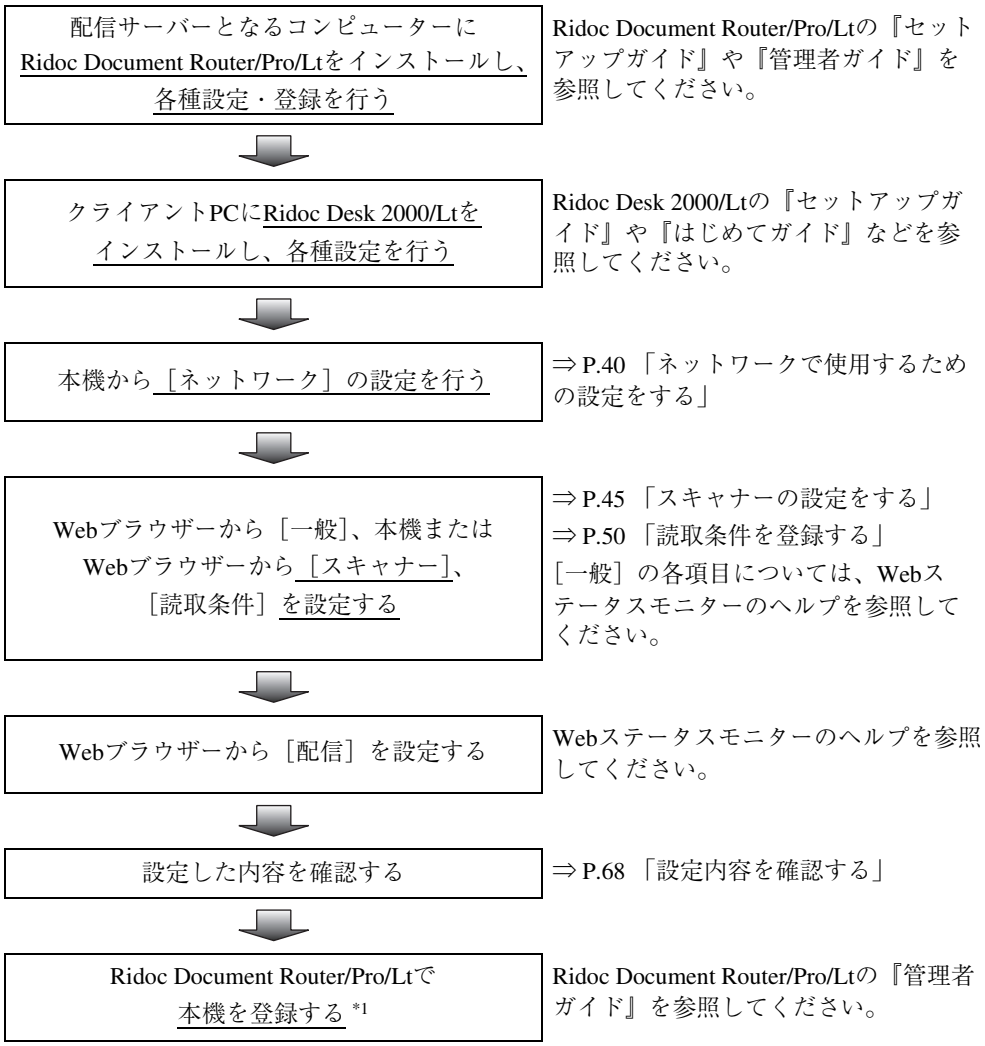
Ridoc配信を利用する準備の概要

Ridoc Document Router/Pro/Ltの配信機能を利用する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

参照

設定項目には、①本機の操作部を使って設定する項目、②PCのWebブラウザーを使って設定する項目、③本機の操作部・PCのWebブラウザーのどちらからでも設定できる項目、があります。詳細は、P.34 「設定項目一覧」を参照してください。

本書では、本機の操作部を使った設定方法を基準にして解説しています。本書に説明のない設定項目の詳細は、Webステータスモニターのヘルプファイルを参照してください。なお、WebステータスモニターへのアクセスのしかたはP.56 「本機にアクセスする」を参照してください。



*1 ［I/O機器設定］でIPアドレスを直接入力してください。

設定項目一覧

本機の設定項目と工場出荷時の値は以下のとおりです。各設定項目の意味と設定のしかたについては、P.40「ネットワークで使用するための設定をする」～ P.56「Webブラウザーを使って設定する」、およびWebステータスモニターのヘルプを参照してください。

重要

- 目的欄の「Ridoc」は、Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用したRidoc配信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- 目的欄の「Mail」は、メール送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- 目的欄の「SMB」は、Windows共有フォルダーへのファイル送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- 目的欄の「FTP」は、FTPサーバーへのファイル送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- 目的欄の「TWAIN」は、ネットワークTWAINスキャナーとして利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- 手段欄の「本機」は、本機の**【初期設定】**キーを使って設定できる項目かどうかを示します。
- 手段欄の「Web」は、クライアントPCのWebブラウザーから本機にログインし、設定できる項目かどうかを示します。
- 「◎」の設定項目は、各機能を利用するために最低限必要な設定項目です。本機を使用する前に必ず設定してください。
- 「○」の設定項目は、必要に応じて設定してください。
- 目的欄が無印の項目は、その機能を使うにあたって、直接関係しない項目です。
- 手段欄の「－」の項目は設定できません。表示のみです。
- 手段欄の「×」の項目は、設定・登録が可能な他の手段で設定してください。
- 「工場出荷時の値」が「(null)」となっている項目は、工場出荷時に何も設定されていません。

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
一般	識別名	RNP****** *1		○	○	○	○	×	○
	コメント	(null)						×	○
	URL名称	RICOH Homepage						×	○
	URL	/cgi-bin/url.cgi/						×	○
	ヘルプURL	/cgi-bin/help.cgi						×	○
ネットワークまたはTCP/IP *2	IPアドレス	11.22.33.44	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	○	○ *4
	サブネットマスク	0.0.0.0	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	○	○
	デフォルトゲートウェイアドレス	0.0.0.0	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3	○	○
	アクセスコントロール	0.0.0.0					○	○	○
	アクセスマスク	0.0.0.0					○	○	○
	ネットワークブート	NONE	○	○	○	○	○	○	○
	配信サーバー IPアドレス	0.0.0.0	◎ *5					—	— *6
	物理アドレス	(製品固有)						—	— *7
	通信速度	自動選択	○	○	○	○	○	○	○
	I/Fの切り替え	Ethernet	○	○	○	○	○	○	○
	電波状態	(表示のみ)						—	—
	通信モード *8	802.11アドホックモード	○	○	○	○	○	×	○
	SSID *8, *9	ASSID	○	○	○	○	○	×	○
	チャンネル *8, *10	11	○	○	○	○	○	×	○
	暗号化 *8	無効	○	○	○	○	○	×	○
	WEP(暗号化)キー *8, *11	(null)	○	○	○	○	○	×	○
SNMP *12	コミュニティー名	public *13	○				○	×	○
		ricoh *14							
		(null) *15							
	アクセスタイプ	read-only *13	○				○	×	○
		read-write *14							
		Not Accessible *15							
	プロトコル	TCP/IP	○				○	×	○
	マネージャー IPアドレス	0.0.0.0						×	—
パスワード	現在のパスワード	(null)						×	○
	新規パスワード	(null)						×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
読取条件 *16	原稿種類	白黒：文字	○	○	○	○		○	○
	解像度	100dpi	○	○	○	○		○	○
	原稿サイズ	自動検知	○	○	○	○		○	○
	濃度	濃度4	○	○	○	○		○	○
	指定色消去	緑	○	○	○	○		○	○
	孤立点除去	しない	○	○	○	○		○	○
	スムージング	しない	○	○	○	○		○	○
	フィルター	なし	○	○	○	○		○	○
	白黒反転	しない	○	○	○	○		○	○
	ファイル形式	シングルページ		○	○	○		○	○
スキャナー	送信/TWAIN優先設定	送信	○	○	○	○	○	○	○
	送信時接続禁止時間	しない	○	○	○	○	○	○	○
	オートクリア時間	しない	○	○	○	○		○	○
	日付設定	（現在の日本時間）	○	○	○	○		○	×
	圧縮設定（2値）	する	○	○	○	○		○	○
	圧縮設定（多値）	標準画質	○	○	○	○		○	○
	機能選択	ファイル送信/TWAIN	○	○	○	○	○	○	○
	アドレス帳自動更新	しない	○	○	○	○		○	○
	単位系設定	mm	○	○	○	○		○	○
	sRGB設定	sRGB2	○	○	○	○		○	○
	読取終了後の動作	設定をクリアする	○	○	○	○		○	○
	追加原稿待ち時間	3（秒）	○	○	○	○		×	○
	枠消去幅	0mm	○	○	○	○		○	○
	言語切り替え *17	日本語						−	×
	ADF薄紙モード	しない	○	○	○	○		○	○
	配信時の1文書最大サイズ	する（1MB）	○					○	○ *6
	見出し選択	かな		○	○	○		×	○
	読取枚数	（表示のみ）						−	×
	読取ページ数	（表示のみ）						−	×
	ADFパッドカウンター	（表示のみ）						−	×
	ピックローラーカウンター	（表示のみ）						−	×
	FIRMWARE	（表示のみ）						−	− *18

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
メール	POPサーバーアドレス	(null)		○				×	○
	POPサーバーポート番号	110		○				×	○
	SMTPサーバーアドレス	(null)		◎				×	○
	SMTPサーバーポート番号	25		○				×	○
	ドメイン名	(null)		◎				×	○
	第一DNSサーバーIPアドレス	(null)		◎				×	○
	第二DNSサーバーIPアドレス	(null)		○				×	○
	第三DNSサーバー IPアドレス	(null)		○				×	○
	認証方法	しない		○				×	○
	認証ユーザー	(null)		◎				×	○
	認証パスワード	(null)		◎				×	○
	送信者初期値	管理者アドレス		○				×	○
	管理者名	(null)		○				×	○
	管理者メールアドレス	(null)		○				×	○
	メール再送信間隔	30		○				×	○
	メール再送信回数	1		○				×	○
	送信メールサイズ制限	しない		○				×	○
	タイムゾーン	GMT+0900		○				×	○
配信	配信サーバー IPアドレス	0.0.0.0	◎ *5					— *19	—
	再配信間隔	しない	○					×	○
	再配信回数	しない	○					×	○
	1文書最大サイズ制限	する（1MB）	○					○ *20	○
ファイル送信	再送信間隔	しない			○	○		×	○
	再送信回数	しない			○	○		×	○
	1文書最大サイズ制限	しない			○	○		×	○
	ファイル名＋時分付け	する			○	○		×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
メールアドレス *21	登録番号	(自動)		○				×	○
	名前	(null)		○				×	○
	キー表示名	(null)		○				×	○
	所属見出し：かな	あ		○				×	○
	所属見出し：英数	ABC		○				×	○
	所属見出し：任意見出し	1		○				×	○
	所属見出し：常用見出し	する		○				×	○
	メールアドレス	(null)		◎				×	○
	送信者として使用	する		○				×	○
	パスワード保護	する		○				×	○
	保護パスワード	(null)		○				×	○
件名 *22	件名	(null)		○				×	○
ファイル送信パス *23	登録番号	(自動)			○			×	○
	ファイル送信パス名	(null)			○			×	○
	キー表示名	(null)			○			×	○
	所属見出し：かな	あ			○			×	○
	所属見出し：英数	ABC			○			×	○
	所属見出し：任意見出し	1			○			×	○
	所属見出し：常用見出し	する			○			×	○
	ファイル送信パス	(null)			◎			×	○
	ログインユーザー名	(null)			◎			×	○
	ログインパスワード	(null)			◎			×	○
	保護パスワード	(null)			◎			×	○
FTPサーバー *23	登録番号	(自動)				○		×	○
	FTPサーバー名	(null)				○		×	○
	キー表示名	(null)				○		×	○
	所属見出し：かな	あ				○		×	○
	所属見出し：英数	ABC				○		×	○
	所属見出し：任意見出し	1				○		×	○
	所属見出し：常用見出し	する				○		×	○
	FTPサーバーアドレス	(null)				◎		×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
FTPサーバー *23	ログインユーザー名	(null)				◎		×	○
	ログインパスワード	(null)				◎		×	○
	PASVモード設定	なし				○		×	○
	保護パスワード	(null)				◎		×	○
ファイル名 *22	ファイル名	(null)			○	○		×	○
任意見出し	任意見出し1	1		○	○	○		×	○
	任意見出し2	2		○	○	○		×	○
	任意見出し3	3		○	○	○		×	○
	任意見出し4	4		○	○	○		×	○
	任意見出し5	5		○	○	○		×	○

*1 ******は物理アドレスの下6桁です。

*2 本機から行うときは［ネットワーク］、Webブラウザーから行うときは［TCP/IP］になります。

*3 ［ネットワークブート］が「NONE」のときは設定必須項目です。「DHCP」のときは入力しないでください。

*4 最初の設定は本機から行ってください。設定後、Webブラウザーから変更が可能です。

*5 Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機の登録を行うと、自動取得されます。Ridoc Document Router/Pro/Ltでの登録が必須作業です。

*6 Webブラウザーからは［配信］で表示します。

*7 Webブラウザーからは［管理情報］-［イーサーネットボード］で表示します。

*8 オプションの無線LANカード使用時の設定です。

*9 ［通信モード］が「インフラストラクチャーモード」および「802.11bアドホックモード」のときの設定です。

*10 ［通信モード］が「アドホックモード」および「802.11bアドホックモード」のときの設定です。

*11 ［暗号化］を「有効」に設定した場合のみ必須項目となります。

*12 最大10件の登録ができます。

*13 コミュニティー名1の工場出荷時の値です。

*14 コミュニティー名2の工場出荷時の値です。

*15 コミュニティー名3～8の工場出荷時の値です。

*16 「デフォルト」を含め4種類の登録ができます。

*17 工場出荷時の値に固定のため、設定できません。

*18 Webブラウザーでは、［状態］に表示されます。

*19 本機からは［ネットワーク］で表示します。

*20 本機からは［スキャナー］で行います。

*21 最大2000件の登録ができます。

*22 最大30件の登録ができます。

*23 最大1000件の登録ができます。

ネットワークで使用するための設定をする

IPアドレスなど、本機をネットワーク上で使うための基本設定を、本機の操作部を使って設定します。

補足

❒ 別売の無線 LAN カードを利用する場合は、P.141「無線LANの設定をする」を参照してください。

［ネットワーク］の設定項目

補足

❒ ここで説明する項目は、クライアントPCのWebブラウザーからも設定できます。（ただし、最初のIPアドレス設定は本機の操作部から行い、Webブラウザーからは変更のみ可能です。）

❖ IPアドレス

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、ネットワーク管理者から割り振られた本機のIPアドレスを、8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ サブネットマスク

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、接続するネットワークのサブネットマスクを8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ デフォルトゲートウェイアドレス

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ アクセスコントロールおよびアクセスマスク

本機をネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントを制限します。アクセスコントロールとアクセスマスクは、組み合わせて設定する必要があります。

- アクセスコントロールは、本機をネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントを制限するときの基準となる値です。
- アクセスマスクは、制限範囲を指定するための値です。アクセスコントロールと照合（論理積）されて、本機をネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントが限定されます。

アクセスコントロールおよびアクセスマスクは「xxx.xxx.xxx.xxx」（8ビット区切りの10進数）の形式で指定します。

補足

❒ 本機の使用を制限しない場合は、工場出荷時の設定のまま使用してください。

❒ アクセスコントロール値をマスクした結果と、ネットワークTWAINスキャナーとして利用しようとしているクライアントのIPアドレスが一致した場合に、アクセスを許可して本機を使用できるようにします。

❒ たとえばアクセスコントロール値を192.168.15.18に設定した場合、アクセス可能なクライアントのIPアドレスは、アクセスマスクに指定した値によって次のように制限されます。（xxxはどんな値でもかまいません。）

アクセスマスクの値	アクセス可能なクライアントのIPアドレス
000.000.000.000	xxx.xxx.xxx.xxx
255.255.000.000	192.168.xxx.xxx
255.255.240.000	192.168.0.xxx ～192.168.15.xxx
255.255.255.000	192.168.15.xxx
255.255.255.240	192.168.15.16 ～192.168.15.31
255.255.255.255	192.168.15.18

❖ ネットワークブート
DHCP環境で起動するかどうかを設定します。IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合は「NONE」、DHCP環境の場合は「DHCP」を選択します。

補足
❒ Ridoc配信機能を使用するときは、DHCP環境であっても、本機のIPアドレスは静的に割り当ててください。なお、その場合も、本項目は「DHCP」を選択し、［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイアドレス］の各項目は入力しないでください。
❒ 本項目の設定を変更したときは、設定終了後に本機の電源をOFF/ONしてください。

❖ 配信サーバー IPアドレス
Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機を登録すると、配信サーバー（Ridoc Document Router/Pro/Lt をインストールしたコンピューター）のIPアドレスが自動的設定されますので、入力しないでください。

❖ 通信速度
ネットワークケーブル接続時のネットワーク通信速度を、「自動選択」、「100Mbps」、「10Mbps」の中から選択します。

❖ I/Fの切り替え
ネットワークへの接続手段を選択します。

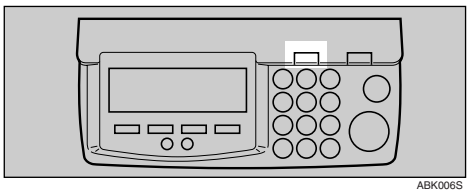
- Ethernet
  ネットワークケーブルにて接続します。
- IEEE802.11b
  オプションの無線LANカードを利用して接続します。

補足
❒ 本項目の設定を変更したときは、設定終了後に本機の電源を OFF/ON してください。

［ネットワーク］の設定手順

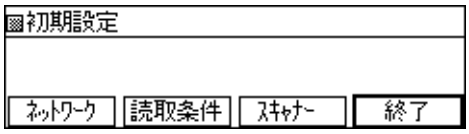
参照
画面に表示される項目の選びかたについては、P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

1 【初期設定】キーを押します。


ABK006S

初期設定画面が表示されます。

2 ［ネットワーク］を押します。

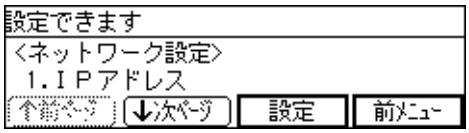


ネットワーク設定の項目選択画面「1.IPアドレス」が表示されます。

3 ご使用のLAN環境に応じて、必要な項目を設定します。

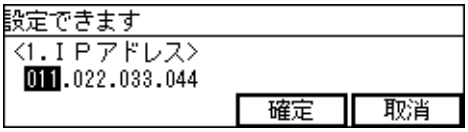
IPアドレスが固定的に割り振られた環境の場合

❶ ［設定］を押します。



「1.IPアドレス」入力画面が表示されます。

❷ **本機のIPアドレスを入力します。**



- 数値は、テンキーで入力します。
- 数値は、3桁ずつ入力します。
  3桁入力したら、**【#】**キーまたは**【▷】**キーを押します。次の3桁が入力できる状態になります。

補足

❒ 間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。入力した3桁の数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

❸ **入力が終了したら、[確定]を押します。**

❶の画面が表示されます。

補足

❒ ［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされ、前画面に戻ります。

❹ **［↓次ページ］を押します。**

ネットワーク設定の次の項目選択画面「2.サブネットマスク」が表示されます。

補足

❒ ［↑前ページ］を押すと、1つ前の画面が表示されます。なお、「1.IP アドレス」のときは、[↑前ページ] を押すことはできません。

❒ ［設定］を押すと、現在表示している項目の設定ができます。

❒ ［前メニュー］を押すと、初期設定画面に戻ります。

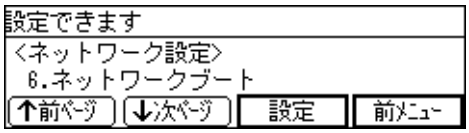
❺ **❶から❹までと同様にして、「2. サブネットマスク」「3. デフォルトゲートウェイアドレス」「4. アクセスコントロール」「5.アクセスマスク」を設定します。**

「6. ネットワークブート」が表示されます。

補足

❒ ネットワークTWAINドライバーを利用できるPCを限定しない場合は、「4. アクセスコントロール」を設定する必要はありませんが、「5. アクセスマスク」が「0.0.0.0」に設定されていることを確認してください。なお、その場合、「アクセスコントロール」はどのような値でもかまいません。

❻ **［設定］を押します。**



❼ **［↓］、［↑］を押して、「NONE」を表示します。**

補足

❒ 現在、設定されている値には、＊が付いています。

❽ **（「NONE」が表示された状態で、）［確定］を押します。**

❻の画面が表示されます。

補足

❒ ［取消］を押すと、前回設定した値（＊印の付いた値）のままになり、前画面に戻ります。

DHCP環境の場合

❶ **［↓次ページ］を3回押します。**

「4.アクセスコントロール」が表示されます。

補足

❒ 「1.IP アドレス」から「3. デフォルトゲートウェイアドレス」は、DHCP サーバーから自動取得するため、設定しません。

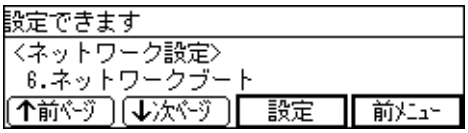
❷「IP アドレスが固定的に割り振られた環境の場合」の❶から❹までと同様にして、「4.アクセスコントロール」「5.アクセスマスク」を設定します。

「6. ネットワークブート」が表示されます。

補足

- ネットワークTWAINドライバーを利用できるPCを限定しない場合は、「4. アクセスコントロール」を設定する必要はありませんが、「5.アクセスマスク」が「0.0.0.0」に設定されていることを確認してください。なお、その場合、「アクセスコントロール」はどのような値でもかまいません。

❸［設定］を押します。



❹［↓］、［↑］を押して、「DHCP」を表示します。

補足

- 現在、設定されている値には、＊が付いています。

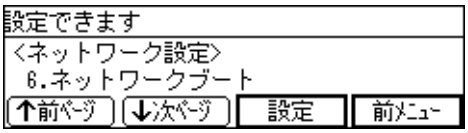
❺（「DHCP」が表示された状態で、）［確定］を押します。

❸の画面が表示されます。

補足

- ［取消］を押すと、前回設定した値（＊印の付いた値）のままになり、前画面に戻ります。

4 ［↓次ページ］を押します。



「7.配信サーバー IPアドレス」が表示されます。

補足

- Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機の登録を行うと、「配信サーバー IPアドレス」は自動取得されます。Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機を登録後、［設定］を押して、配信サーバー IPアドレスを表示させて、登録が行われているか確認できます。確認後は［取消］を押して戻ります。

5 ［↓次ページ］を押します。

「8.物理アドレス」が表示されます。

補足

- 物理アドレス（MACアドレス）は製品ひとつひとつに固有の番号で、変更することはできません。［設定］を押すと、本機の物理アドレスを参照できます。参照後は［取消］を押して戻ります。

6 ［↓次ページ］を押します。

「9.通信速度」が表示されます。

7 ❸の「6.ネットワークブート」と同様にして、「9.通信速度」と次の「10.I/Fの切り替え」を設定します。

［↓］を押すたびに、「自動設定」→「100Mbps」→「10Mbps」の順に変わります。（［↑］を押すと、逆順に変わります。）

重要

- 「Ethernet」から「IEEE802.11b」への切り替えは、本機の操作部からは行わないでください。より詳細な設定が必要となりますので、Webブラウザーから設定してください。⇒ P.141 「無線LANの設定をする」

8 **[↓次ページ] を押します。**

「11.電波状態」が表示されます。

補足

❒ オプションの無線LANカードをインフラストラクチャーモードで利用しているときは、[設定] を押すと無線LANの電波状態が確認できます。確認後は [取消] を押して戻ります。

9 **[前メニュー] を押します。**

設定した値が有効となり、**2**の初期設定画面に戻ります。

10 **[終了] を押します。**

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

補足

❒ [終了] を押さずに [スキャナー] を押すと、続いてスキャナー全般の設定ができます。[読取条件] を押すと、続いて読取条件の登録ができます。

11 **[ネットワークブート] や [I/Fの切り替え] を変更したときは、本機の電源をOFF/ONします。**

設定内容が反映されます。

スキャナーの設定をする

スキャナー全般に関わる設定を行います。

［スキャナー］の設定項目

❖ **送信/TWAIN優先設定**
Ridoc 配信またはメール / ファイル送信機能などの本機からの操作を優先するか、PC からのネットワークTWAIN機能を優先して使用するかの設定です。「TWAIN」を優先にすると、電源投入時の画面はネットワークTWAIN待機画面となり、PCからの指示待ちになります。Ridoc配信やメール/ファイル送信（任意ファイル送信を除く）機能を使うときは、［接続解除］を押します。「送信」を優先にすると、電源投入時の画面は、Ridoc配信またはメール/ファイル送信の待機画面になります。「送信」優先時は、本機から操作をしていないときはいつでも、PC からネットワークTWAINまたは任意ファイル送信を行うことができます。

補足

❒ ［機能選択］で「TWAIN」が設定されている状態では、本項目は灰色で表示され、設定できません。

❖ **送信時接続禁止時間**
本機からの操作時に、クライアントPCからのネットワークTWAINドライバーや［任意ファイル送信入力］に割り込まれないようにする機能で、最後に本機の操作部を触った時点からの禁止時間を設定します。「しない」にすると、即時にネットワークTWAINや［任意ファイル送信入力］からの指示データを取り込みます。設定する場合は、3～30秒の範囲で1秒単位に設定します。

補足

❒ 禁止時間内に、Webステータスモニターから［任意ファイル送信入力］を行ったり、アプリケーションソフトからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「スキャナー使用中のため、設定できません。しばらくしてから設定してください」と画面に表示されます。

❖ **オートクリア時間**
最後に本機の操作部を触った時点から一定時間経過すると、電源投入時の状態に戻すかどうかを設定します。「しない」に設定すると、ユーザーが操作した最後の画面は電源オフまで保持されます。「する」に設定したときは、その時間を10～999秒の範囲で1秒単位に設定します。なお、読み取りが行われた場合は、読取終了後から計時が開始されます。

❖ **日付設定**
本機に内蔵されている時計の日付と時間を設定します。本機の内蔵時計の値は、設定によりファイル名の一部として使われます。

❖ **圧縮設定（2値）**
［原稿種類］に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを指定したときに、読み取った画像データを圧縮して転送するかどうかを設定します。

補足

❒ 圧縮すると、転送データのサイズが小さくなり、一度に処理できる原稿枚数が多くなります。処理できる原稿枚数は、原稿ごとに異なります。

❒ 圧縮しない場合は、原稿の粗密に関係なく、読取サイズや解像度により一定のデータサイズとなります。⇒P.149「「白黒2値」、「白黒2値（ハーフトーン）」の場合」

❖ **圧縮設定（多値）**
［原稿種類］に「白黒：グレースケール」、「カラー：フルカラー」のいずれかを指定したときに、読み取った画像データを圧縮して転送するかどうかを設定します。圧縮する場合は画質（圧縮率と反比例）を設定します。圧縮方式はいずれもJPEGです。

- 標準
  画質・サイズともに標準的な設定です。
- 低画質
  画質の劣化は大きくなりますが、データサイズが小さくなります。
- 高画質
  画質の劣化は小さくて済みますが、データサイズが大きくなります。

- しない
  圧縮しません。画質の劣化はありませんが、データサイズが大きくなります。原稿の粗密に関係なく、読取サイズや色数・解像度により一定のデータサイズとなります。⇒ P.149「解像度、読み取り領域とデータサイズの関係」

補足

❒ 圧縮する場合は、同じ画質（圧縮率）を設定しても、実際の圧縮サイズは原稿により異なりますので、処理できる原稿枚数も異なります。

❖ 機能選択

利用する機能を選択します。

- Ridoc配信/TWAIN
  Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信機能と、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
- ファイル送信/TWAIN
  メール送信と、Windows共有フォルダーへのファイル送信（SMB）、FTPサーバーへのファイル送信、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
- TWAIN
  ネットワーク TWAIN 機能のみが利用できます。

❖ アドレス帳自動更新

Ridoc Document Router/Pro/Ltから取得するあて先や、ファイル送信などのあて先を、[あて先] や [送信者] を押すたびに自動更新するかしないかを選択します。

- [機能選択] で「Ridoc配信/TWAIN」選択時
  本機の [あて先] または [送信者] を押したときに、最新のアドレス帳を配信サーバーから取得するかどうかを設定します。「しない」に設定すると、本機の電源投入時にのみ更新されます。
- [機能選択] で「ファイル送信/TWAIN」選択時
  本機の [あて先] または [送信者] を押したときに、Webステータスモニターで設定したあて名（メールアドレス、ファイル送信パス、FTPサーバー）を更新するかどうかを設定します。「しない」に設定すると、本機の電源投入時にのみ更新されます。

補足

❒ Web ステータスモニターの［メールアドレス］や［ファイル送信パス］や［FTP サーバー］を追加・変更した場合、本項目を「しない」に設定したときは、本機を再起動させないと追加・変更項目が有効になりません。本項目を「する」に設定したときは、Web ステータスモニターの［OK］を押し、本機の［あて先］を押すと、追加・変更したあて先が表示されます。

補足

❒ アドレス帳を頻繁に変更しない場合は、「しない」に設定すると更新にかかる時間を省略でき、[あて先] や [送信者] を押したときの反応を速められます。

❖ 単位系設定

[原稿サイズ] を「任意サイズ」に指定したときの、[開始位置] や [読取エリア] の設定を、mmで行うかinchで行うかを設定します。

❖ sRGB設定

[原稿種類] に「カラー：フルカラー」を指定したときに、スキャナーごとに異なる色再現性に対して、読み取った色を補正し、標準的な色情報として処理するかどうかを指定します。

- しない
  色情報の補正をしません。
- sRGB1
  Windowsに登録されているディスプレイ用のカラー定義を使用して色情報を補正します。紙の地肌も忠実に再現します。
- sRGB2
  独自のカラー定義を使用して色情報を補正します。紙の地肌を低減するように設定されています。

補足

❒ [sRGB設定] を「sRGB1」または「sRGB2」に設定した場合は、[濃度]（⇒ P.51）の設定は無効になります。

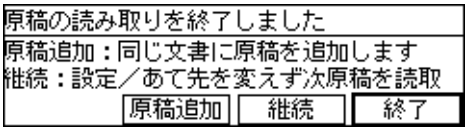
❖ 読取終了後の動作

原稿を読み取ったあとの本機の動作を選択します。

補足

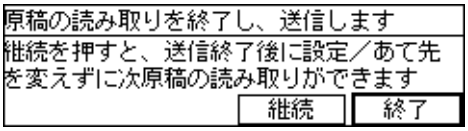
❒ 原稿ガラスから原稿を読み取ったときは、本項目の設定に関わらず、原稿の追加読取が可能です。

- 選択画面を表示する
  ADFから読み取った場合は、読取終了後に次の画面を表示します。



[原稿追加] を押すと、現在の画像ファイルに原稿を追加できます。[継続] を押すと、読み取りを終了して送信/配信を行いますが、セットした読取条件やあて先がそのまま残り、同じ設定で2回目の送信/配信ができます。[終了] を押すと、読み取りを終了して送信/配信し、電源投入時の画面に戻ります。

原稿ガラスから読み取る場合は、すべての原稿を読み取って、[読取終了] を押したあとに、次の画面を表示します。



[継続] を押すと、読み取りを終了して送信/配信を行いますが、セットした読取条件やあて先がそのまま残り、同じ設定で2回目の送信/配信ができます。[終了] を押すと、読み取りを終了して送信 / 配信し、電源投入時の画面に戻ります。

補足

❒ 選択画面を表示する時間をWebステータスモニターの [設定] - [スキャナー] の [追加原稿待ち時間] で設定できます。詳しくはWebステータスモニターのヘルプを参照してください。

❒ Webステータスモニターの [任意ファイル送信入力] から送信の指定を行った場合は、[継続]、[終了] ともに、読み取りを終了してファイル送信を行い、任意ファイル送信の設定がそのまま残ります。[戻る] を押すと、電源投入時の画面に戻ります。

- 設定をクリアする
  読取終了後に選択画面を表示せず、電源投入時の画面に戻り、送信/配信を行います。

補足

❒ Webステータスモニターの [任意ファイル送信入力] から送信の指定を行った場合は、ファイル送信を行ったあと、任意ファイル送信の設定がそのまま残ります。[戻る] を押すと、電源投入時の画面に戻ります。

❖ 枠消去幅

読み取った画像に原稿の影が発生したときに、その影を白い枠で消します。その白い枠の線幅を「0mm」（消去しない）、「1mm」、「2mm」、「3mm」、「4mm」、「5mm」から選択します。

❖ 言語切り替え

本機では「日本語」に固定です。

❖ ADF薄紙モード

ADF（自動原稿送り装置）からの給紙の際、52g/m^2（45kg）以下の薄い紙やA5サイズ以下の小さい紙もより確実に給紙できるようにするか、普通の紙のみを原稿とし、より高速に給紙するかを設定します。

参照

⇒ P.79「セットできる原稿のサイズと紙厚」の補足

❖ 配信時の1文書最大サイズ

Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信時の1文書の最大サイズを制限するかしないか設定します。制限する場合は、1-64MB を1MB単位で設定します。

補足

❒ Webステータスモニターから設定するときは、[設定] - [配信] の中で設定します。

［スキャナー］の設定手順

ここでは、本機の操作部を使っての設定手順を説明します。

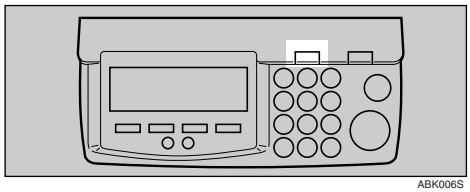
補足

❒ Webブラウザーからも設定できます。

参照

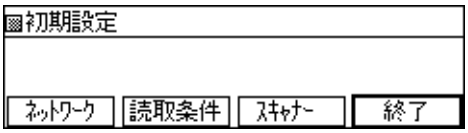
画面に表示される項目の選びかたについては、P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

1 **【初期設定】キーを押します。**



初期設定画面が表示されます。

2 **［スキャナー］を押します。**

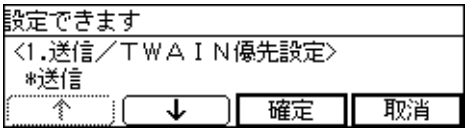


スキャナー設定の項目選択画面「1. 送信/TWAIN優先設定」が表示されます。

3 **［設定］を押します。**

「1.送信/TWAIN優先設定」入力画面になります。

4 **優先させる操作を「送信」または「TWAIN」の中から選択します。**



- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］、［↑］を押して、選択する内容の画面を表示させます。

5 **選択する内容が表示された状態で、［確定］を押します。**

「1.送信/TWAIN優先設定」が設定され、**3**のスキャナー設定の項目選択画面「1. 送信/TWAIN優先設定」に戻ります。

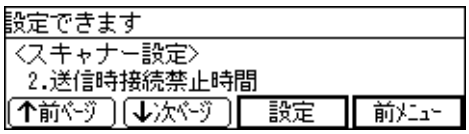
補足

❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

6 **［↓次ページ］を押します。**

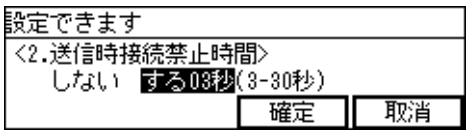
スキャナー設定の項目選択画面「2.送信時接続禁止時間」が表示されます。

7 **［設定］を押します。**



「2. 送信時接続禁止時間」入力画面になります。

8 **PCからの接続禁止時間を設定「しない」、「する」の中から選択します。「する」を選択したときは、テンキーを使って、禁止する時間を入力します。**



- 【◁】または【▷】キーを押して、選択する内容を反転させます。

補足

❒ 数値入力を間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。数値がクリアされますので、正しい値を入力し直してください。

9 **［確定］を押します。**

「2.送信時接続禁止時間」が設定され、**7**のスキャナー設定の項目選択画面「2.送信時接続禁止時間」に戻ります。

補足

❒ ［取消］を押すと、選択・入力した値がキャンセルされ、前画面に戻ります。

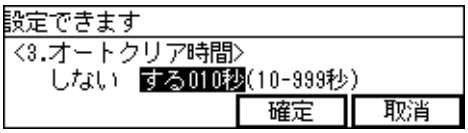
10 [↓次ページ] を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「3.オートクリア時間」が表示されます。

補足

❒ [↑前ページ] を押すと、スキャナー設定画面の 1 つ前の画面が表示されます。なお、「1.送信/TWAIN優先設定」のときは、[↑前ページ] を押すことはできません。

11 **7から10と同様にして、オートクリア時間を設定します。**

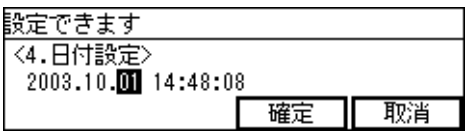


スキャナー設定の項目選択画面「4. 日付設定」が表示されます。

12 [設定] を押します。

「4.日付設定」入力画面になります。

13 **テンキーと【▷】または【◁】キーを使って、現在の日時を入力します。**



補足

❒ 14の [確定] を押したときから、計時を開始します。

❒ 間違えたときは**【クリア/ストップ】**キーを押します。反転している数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

14 [確定] を押します。

計時が開始され、12のスキャナー設定の項目選択画面「4.日付設定」に戻ります。

補足

❒ [取消] を押すと、入力した値がキャンセルされ、前画面に戻ります。

15 [↓次ページ] を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「5.圧縮設定(2値)」が表示されます。

16 **3 から 6 と同様にして、「5. 圧縮設定 (2値)」～「14.ADF薄紙モード」までを設定します。**

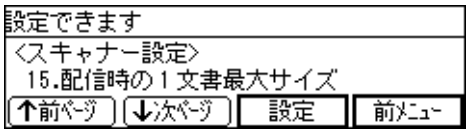
補足

❒ 「13. 言語切り替え」は日本語に固定のため、灰色表示されます。[↓次ページ] で次の項目に進んでください。

スキャナー設定の項目選択画面「15. 配信時の1文書最大サイズ」が表示されます。

17 **7から9と同様にして、「15.配信時の1文書最大サイズ」を設定します。**

18 [前メニュー] を押します。



設定した値が有効となり、2の初期設定画面に戻ります。

19 [終了] を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

補足

❒ [終了] を押さずに [読取条件] を押すと、続いて読取条件の登録ができます。

読取条件を登録する

メール送信、ファイル送信（SMB、FTP）、Ridoc配信時によく使う読取条件をあらかじめ登録しておきます。[デフォルト]、[ユーザー1]～[ユーザー 3]の合計4種の読取条件が登録できます。[デフォルト]は、読取条件を何も指定しなかったときに使われる読取条件です。このほかに、比較的よく使用する読取条件を［ユーザー 1］～［ユーザー 3］に登録しておくと、メール/ファイル送信時やRidoc配信時に［ユーザー1］～［ユーザー 3］のいずれかを指定するだけで済みます。送信時ごとに詳細な指定が不要になります。

［読取条件］の設定項目

❖ 原稿種類

原稿の種類を選択します。選択した原稿の種類に適した設定で、読取時の色数や階調が設定されます。

白黒/グレースケールで読み取る場合は、以下のいずれかの項目を選択します。

- 白黒：文字
  文字を主体とした標準的な原稿の場合に指定します。白黒2値（白か黒のどちらか）で読み取ります。
- 白黒：文字・写真
  文字のほかにグラフや写真が混じった原稿の場合に指定します。白黒 2 値で読み取りますが、誤差拡散モードを使って写真部分は中間調で表現されます。
- 白黒：写真
  白黒写真が主体の原稿の場合に指定します。白黒2値で読み取りますが、ディザパターンを使って、中間調で表現されます。
- 白黒：グレースケール
  白黒写真を主体とした原稿のほか、カラー写真であっても白黒写真として読み取りたい原稿の場合に指定します。白黒256階調で読み取ります。

補足

❒「白黒：グレースケール」を指定すると、一度に読み取れる原稿枚数は少なくなります。

原稿をカラーで読み取る場合は、「カラー：フルカラー」に設定します。

- カラー：フルカラー
  精緻なカラー写真原稿の場合に指定します。カラー 1677万色で読み取ります。

補足

❒「カラー：フルカラー」を指定すると、一度に読み取れる原稿枚数は少なくなります。

❖ 解像度

読み取る解像度を100dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpi、任意解像度から選択します。

補足

❒ 解像度を上げると、一度に読み取れる原稿枚数が少なくなります。

❒ 任意解像度で設定できる範囲は、100dpi～1200dpiで、1dpi単位で設定できます。

❖ 原稿サイズ

原稿を読み取るサイズを、自動検知、A3、A4、A4、A5、A5、11×17、8 1/2×14、8 1/2×13、8 1/2×11、8 1/2×11、5 1/2×8 1/2、5 1/2×8 1/2、B4、B5、B5、任意エリア設定、の中から選択します。

- 自動検知できる原稿サイズは、原稿のセット場所によって異なります。⇒ P.79「自動的に読み取れる原稿サイズ」
- 「任意エリア設定」を選択したときは、次項の［開始位置］および［読取エリア］で読み取る範囲を指定します。

❖ 開始位置

［原稿サイズ］が「任意エリア設定」のときの読取開始位置を、読み取り基準点を0とした縦横の距離寸法で指定します。

補足

❒ インチ単位で指定したいときは、あらかじめ**【初期設定】**の［スキャナー］の［9. 単位系設定］を「inch」に設定しておきます。⇒ P.46「単位系設定」

❖ 読取エリア

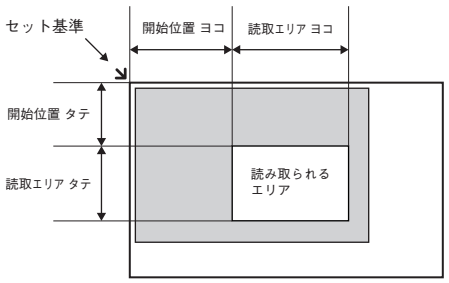
[原稿サイズ]が「任意エリア設定」のときの読取終了位置を、[開始位置]からの縦横の距離寸法で指定します。

補足

- ❒ インチ単位で指定したいときは、あらかじめ**【初期設定】**の［スキャナー］の［9. 単位系設定］を「inch」に設定しておきます。⇒ P.46 「単位系設定」
- ❒ ［開始位置］と［読取エリア］の合計が、縦・横とも、読取可能範囲内に収まるように設定してください。読取可能範囲は、セット場所以外に［原稿種類］と両面/片面の別によっても異なります。

読み取り基準点は原稿のセット場所により、以下の図の位置になります。

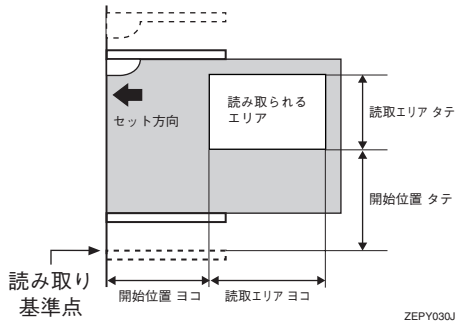
① 原稿ガラスにセットしたとき



TNSY090J

原稿ガラスに原稿をセットした場合、白黒原稿とカラー原稿の両方ともタテは300mm、ヨコは432mmまで読み取りできます。［開始位置］と［読取エリア］の合計が、縦・横ともこの範囲に収まるように設定してください。

② ADFにセットしたとき



ZEPY030J

ADFに原稿をセットした場合、タテは白黒原稿とカラー原稿の両方とも297mmまで読み取りできます。ヨコは片面の白黒原稿(「白黒:文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」)で2000mmまで、片面の「白黒:グレースケール」、「カラー：フルカラー」で630mmまで読み取りできます。両面読み取りでは、白黒原稿とカラー原稿のどちらともタテは297mmまで、ヨコは432mmまでです。［開始位置］と［読取エリア］の合計が、縦・横ともこの範囲に収まるように設定してください。

補足

- ❒ ADFの読み取り基準点は、原稿ガイドをいっぱいに広げたときの、操作パネル側の原稿ガイドの内側となります。

❖ 濃度

原稿を読み取る濃度を、「濃度1」～「濃度7」の7段階から選択します。数字が大きいほど濃くなります。

補足

- ❒ ［sRGB設定］を「する」または「sRGB1」、「sRGB2」に設定すると、濃度の設定は無効になります。

❖ 指定色消去

白黒で読み取るとき（[原稿種類]に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」、「白黒:グレースケール」のいずれかを設定したとき）に、特定の色を読み取らない設定ができます。たとえば、青インクで印刷された用紙に黒字で記入された伝票の黒字記入部分のみを読み取りたいときは、「青」を［指定色消去］に指定します。

補足

- ❒ 原稿の色味によっては消去されない場合があります。

❖ **孤立点除去**
白黒2値で読み取るとき（[原稿種類]に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを設定したとき）に、白地部分にある小さな点を消して読み取ります。

補足

❒「3×3」、「4×4」、「5×5」は、除去する孤立点を検出する範囲（ドット×ドット）を表しています。指定した範囲の枠（1ドット幅）よりも内側に入る孤立点が検出され、除去されます。たとえば「5×5」を指定すると、最大3×3ドットの孤立点が除去されます。

❖ **スムージング**
白黒2値で読み取るとき（[原稿種類]に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを設定したとき）に、原稿中の文字や図形の境目をなめらかにして読み取るかどうかを指定します。

❖ **フィルター**
フィルターを使用して読み取るかどうかを指定します。

- なし
  フィルターを使わずに読み取ります。
- MTF
  境目を強調してくっきりとした画像として読み込みます。
- 平滑化
  画像をぼかして読み取ります。

❖ **白黒反転**
白黒で読み取るとき（[原稿種類]に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」、「白黒:グレースケール」のいずれかを設定したとき）に、原稿の黒い部分を白、白い部分を黒として読み込むかどうかを設定します。

❖ **ファイル形式**
メール送信、Windows共有フォルダーへのファイル送信、FTPサーバーへのファイル送信時の画像ファイル形式を設定します。

補足

❒ Ridoc配信時は、Ridoc Document Router/Pro/Ltの設定に依存します。

- シングルページ
  原稿が複数ページの場合でも、1ページずつのファイルになります。

補足

❒ [原稿種類]で「白黒：グレースケール」または「カラー：フルカラー」を選択し、[圧縮設定（多値）]が「高画質」、「標準」、「低画質」のいずれかに設定されている場合はJPEG形式のシングルページになります。

❒ 上記以外は、シングルTIFF形式で送信されます。

- PDF
  PDF形式で送信します。
- マルチページTIFF
  複数枚の原稿をまとめて、1つのTIFFファイル（マルチページTIFF）にして送信します。

補足

❒ [原稿種類]で「白黒：グレースケール」または「カラー：フルカラー」を選択し、[圧縮設定（多値）]が「高画質」、「標準」、「低画質」のいずれかに設定されている場合はPDF形式で送信されます。

[読取条件]の設定手順

ここでは、本機の操作部を使っての設定手順を説明します。

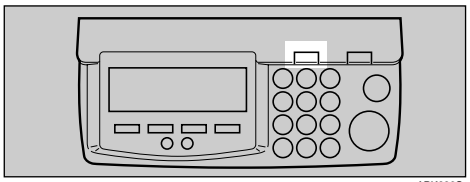
補足

❒ Webブラウザーからも設定できます。

参照

画面に表示される項目の選びかたについては、P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

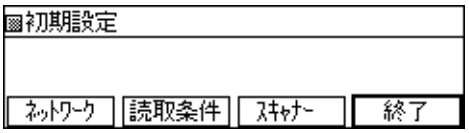
1 【初期設定】キーを押します。



ABK006S

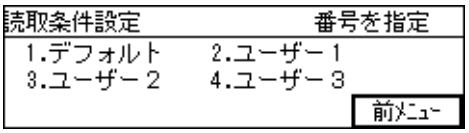
初期設定画面が表示されます。

2 ［読取条件］を押します。



読取条件名の選択画面が表示されます。

3 テンキーの【1】キーを押します。



デフォルト読取条件の項目選択画面「1.原稿種類」が表示されます。

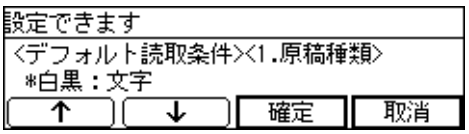
4 ［設定］を押します。

「1.原稿種類」選択画面になります。

補足

❒ 前メニューを押すと、**3**の読取条件名の選択画面に戻ります。

5 原稿種類を選択します。



- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］、［↑］を押して、選択する内容の画面を表示させます。

6 (選択したい内容が表示された状態で、)［確定］を押します。

デフォルトの原稿種類が設定され、**4** のデフォルト読取条件の項目選択画面「1.原稿種類」に戻ります。

補足

❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

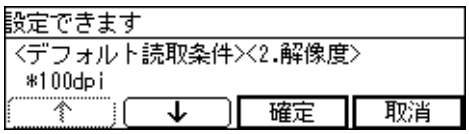
7 ［↓次ページ］を押します。

デフォルト読取条件の項目選択画面「2.解像度」が表示されます。

8 ［設定］を押します。

「2.解像度」選択画面になります。

9 解像度を選択します。



- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］、［↑］を押して、選択する内容の画面を表示させます。

表示された解像度を選択したとき

❶ (選択したい解像度が表示された状態で、)［確定］を押します。

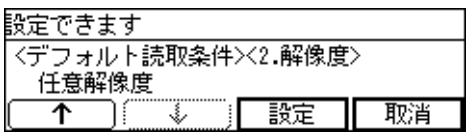
デフォルトの解像度が設定され、**8** のデフォルト読取条件の項目選択画面「2.解像度」に戻ります。

補足

❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

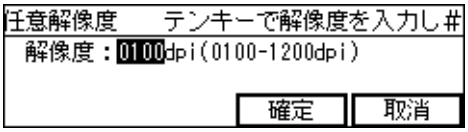
任意解像度を選択したとき

❶「任意解像度」が表示されている状態で、［設定］を押します。



任意の解像度を入力する画面になります。

❷ テンキーを使って、設定する解像度を入力します。



補足

❒ 間違えたときは【クリア / ストップ】キーを押します。

❸［確定］を押します。

デフォルトの解像度が設定され、8 のデフォルト読取条件の項目選択画面「2. 解像度」に戻ります。

補足

❒［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

10［↓次ページ］を押します。

デフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」が表示されます。

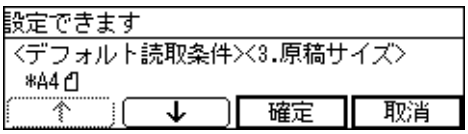
補足

❒［↑前ページ］を押すと、デフォルト読取条件設定画面の 1 つ前の画面が表示されます。なお、「1.原稿種類」のときは、［↑前ページ］を押すことはできません。

11［設定］を押します。

「3.原稿サイズ」選択画面になります。

12 原稿サイズを選択します。



- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］、［↑］を押して、選択する内容の画面を表示させます。

表示された原稿サイズを選択したとき

❶（選択したい原稿サイズが表示された状態で、）［確定］を押します。

デフォルトの原稿サイズが設定され、11 のデフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」に戻ります。

補足

❒［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

任意エリア設定を選択したとき

❶「任意エリア設定」が表示されている状態で、［設定］を押します。

開始位置と読取エリアを入力する画面になります。

❷ テンキーと【▷】や【◁】キーを使って、設定する読取範囲を入力します。

補足

❒ 間違えたときは【クリア / ストップ】キーを押します。各ブロックごとにクリアされます。

❒ ブロック間の移動には、【▷】または【◁】キーのほか【#】キーも使用できます。

❸［確定］を押します。

デフォルトの原稿サイズが設定され、11 のデフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」に戻ります。

補足

❒［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

13 [↓次ページ] を押します。

デフォルト読取条件の項目選択画面「4. 濃度」が表示されます。

14 [設定] を押します。

「4.濃度」選択画面になります。

15 【▷】や【◁】キーを使って、設定したい濃度を反転表示させます。

16 [確定] を押します。

デフォルトの濃度が設定され、14のデフォルト読取条件の項目選択画面「4.濃度」に戻ります。

補足

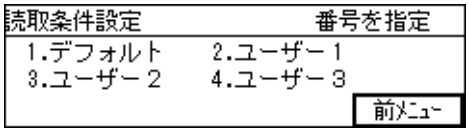
❒ [取消] を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻り、前画面に戻ります。

17 [↓次ページ] を押して、4～7と同様にして、「5.指定色消去」～「10.ファイル形式」を設定します。

18 [前メニュー] を押します。

デフォルトの読取条件が登録され、3の読取条件名選択画面に戻ります。

19 テンキーの【2】キーまたは【3】キーまたは【4】キーを押して、3の読取条件名を「2.ユーザー1」または「3.ユーザー2」、「4.ユーザー3」に変更して、4～18の手順を繰り返します。



20 [前メニュー] を押します。

初期設定画面に戻ります。

21 [終了] を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

Webブラウザーを使って設定する

ここでは、クライアントPCのWebブラウザーを利用して、本機の各設定をする方法を説明します。

重要

❒ 設定を行う前に、本機をネットワーク接続し、本機のIPアドレスを設定します。⇒ P.41「[ネットワーク］の設定手順」

❒ 設定した本機のIPアドレスは、**【初期設定】**キーを押して、［ネットワーク］の［1.IPアドレス］の［設定］で確認できます。確認後、［取消］、**【初期設定】**キーを押して戻ってください。

本機にアクセスする

クライアントPCの動作環境

❖ OS

- Windows 95/98/98 SE/Me/2000/XP（日本語版）
- Windows Server 2003（日本語版）
- Windows NT4.0（日本語版）

❖ Webブラウザー

- Microsoft Internet Explorer 4.0、5.0、5.5、6.0（日本語版）

補足

❒ プロキシサーバーをご使用の場合、本機へのアクセス時にはプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。([ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない]をオンにするか、［例外］欄に本機のIPアドレスを指定してください。)

本機へのアクセス手順

1 クライアントPCのWebブラウザーを起動します。

2 Webブラウザーの［アドレス］欄に「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」(“xxx.xxx.xxx.xxx”は本機のIPアドレス）と入力し、【Enter】キーを押します。

本機にログインし、本機のWebステータスモニターのトップページが表示されます。

補足

❒「Webステータスモニター」は、本機の設定を行ったり本機の状態を監視するためのソフトウェアで、本機に内蔵されています。PCにインストールする必要はありません。

Webステータスモニターの画面と操作方法

（下図は、トップページのメインメニューから［設定］、サブメニューから［読取条件］をクリックした状態の図です。）

1. **ヘッダーエリア**

トップページやヘルプへのリンクボタンがあります。ここをクリックすることにより、どのページが開かれている状態であっても、トップページやヘルプを表示できます。

2. **メインメニュー**

大分類項目があります。最初に、[状態]～[任意ファイル送信入力]の中から項目をクリックします。

3. **サブメニュー**

クリックしたメインメニュー項目に応じたサブメニューが表示されます。サブメニューの中から項目をクリックします。

4. **サブメニュー用のスクロールバー**

サブメニューの一部が表示されていない場合に、スクロールさせて表示します。

5. **作業エリア**

クリックしたサブメニューの項目に応じた入力・参照画面が表示されます。

6. **作業エリア用のスクロールバー**

大きな作業画面では、作業画面の一部が表示しきれない場合があります。縦・横のスクロールバーを使って、作業画面をスクロールさせてください。

重要

- ブラウザーの[戻る]ボタンで前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの[更新]をクリックしてください。メインメニューやサブメニューをクリックしなおすと、入力した内容はクリアされます。
- ブラウザーで設定しているフォントサイズによっては、一部表示がずれることがあります。「中」以下でお使いになることをお勧めします。

［設定］の操作手順例

ここでは、［読取条件］と［メールアドレス］の設定を例にして、Webステータスモニターの［設定］の操作手順を説明します。

［読取条件］の操作手順

1 **メインメニューの［設定］をクリックします。**

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は**4**に進んでください。

2 **ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。**

補足

❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。

❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。[設定]-[パスワード]で変更可能です。

3 **［OK］をクリックします。**

設定画面が表示されます。

4 **サブメニューの［読取条件］をクリックします。**

5 **［ユーザー選択］の［デフォルト］をクリックしてオンにします。**

6 **各項目を入力します。**

補足

❒ 最もよく利用する読取条件を［デフォルト］に登録します。メール/ファイル送信時や Ridoc 配信時に読取条件の指定を省略した場合、ここで［デフォルト］として設定した条件で読み取りが実行されます。

7 [OK] をクリックします。

補足

- [OK] をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから [OK]をクリックしても、設定項目は反映されません。設定を登録・変更したいときは、必ず [OK] をクリックしてから他のページに移動してください。
- [キャンセル] をクリックすると、変更内容は破棄されます。

8 **5の［ユーザー選択］の選択肢を変えながら、必要に応じて6から7を繰り返します。**

［メールアドレス］の操作手順

1 **メインメニューの［設定］をクリックします。**

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

- 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は4に進んでください。

2 **ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。**

補足

- ユーザー名は「ricoh」(半角小文字) に固定です。
- パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。[設定]-[パスワード] で変更可能です。

3 [OK] をクリックします。

設定画面が表示されます。

4 **サブメニューの［メールアドレス］をクリックします。**

5 **新規登録、変更、削除、メールアドレス帳の書き出し、一括登録の各作業別に、次の操作をします。**

新規登録する場合

❶［追加］をクリックします。

❷ 各項目を入力します。

❸［OK］をクリックします。

補足

- ［OK］をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから［OK］をクリックしても、設定項目は反映されません。設定を登録･変更したいときは、必ず［OK］をクリックしてから他のページに移動してください。
- ［キャンセル］をクリックすると、入力内容をクリアします。

変更する場合

❶ 変更したいユーザーを画面に表示し、最左端の白丸をクリックして、ユーザーを選択します。

補足

- ［表示件数］の設定にしたがって画面表示されます。1ページ分（表示件数分）が画面に収まらない場合は、右端のスクロールバーを使ってください。
- ［次へ］をクリックすると次ページを表示し、［前へ］で前ページを表示します。［先頭］で先頭ページ、［末尾］で最後尾のページに移動します。
- ［ページ］に任意の数値を入力して［GO］をクリックすると、任意のページに移動します。

❷［変更］をクリックします。

❸ 変更したい項目を変更します。

❹［OK］をクリックします。

補足

- ［OK］をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから［OK］をクリックしても、変更項目は反映されません。設定を登録･変更したいときは、必ず［OK］をクリックしてから他のページに移動してください。
- ［キャンセル］をクリックすると、変更内容は破棄されます。

削除する場合

❶ 削除したいユーザーを画面に表示し、最左端の白丸をクリックして、ユーザーを選択します。

補足

❒［表示件数］の設定にしたがって画面表示されます。1ページ分（表示件数分）が画面に収まらない場合は、右端のスクロールバーを使ってください。

❒［次へ］をクリックすると次ページを表示し、［前へ］で前ページを表示します。［先頭］で先頭ページ、［末尾］で最後尾のページに移動します。

❒［ページ］に任意の数値を入力して［GO］をクリックすると、任意のページに移動します。

❷［削除］をクリックします。

❸ 確認のダイアログボックスが表示されますので、内容を確認し、よければ［OK］をクリックします。

メールアドレス帳の書き出しをする場合

❶［書き出し］をクリックします。

❷ メールアドレス帳本体を書き出したい場合は、登録エントリー情報の［ダウンロード］をクリックします。

❸「このファイルをディスクに保存する」を選択して［OK］をクリックします。

補足

❒ この画面はOS（Windows）のバージョンによって異なります。［開く］/［保存］などのボタンがある画面のときは［保存］ボタンをクリックします。

「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

❹ 保存場所とファイル名を指定して、［保存］をクリックします。

補足

❒ デフォルトのファイル名は、“識別名_addr.csv”になります。「識別名」にはWebステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字列が入ります。

ダウンロードが完了すると、Webステータスモニターの画面に戻ります。

補足

❒「ダウンロードが完了したときは、このダイアログボックスを閉じる」にチェックが付いていないときは、［閉じる］をクリックして、Webステータスモニターの画面に戻ってください。

❺ 見出し情報をエクスポートする場合は、機器タグ情報の［ダウンロード］をクリックします。

❻ ❸～❹と同様の手順でファイルを保存します。

補足

❒ デフォルトのファイル名は、“識別名_taginfo.csv”になります。「識別名」にはWebステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字列が入ります。

一括登録する場合

制限

❒ CSV形式(カンマ区切り形式)のファイルの内容を取り込むことができますが、現在のメールアドレス帳を上書きします。必要なデータがある場合は、必ず事前に[書き出し]を行い、そのファイルを表計算ソフトやテキストエディターなどで加工するようにしてください。

参照

CSVファイルの形式についてはP.146「メールアドレス一括登録/書き出し時のフォーマット」を参照してください。

❶ メールアドレス帳として取り込むデータを CSV ファイルにして、ローカルディスクまたは共有フォルダー上に用意します。

❷ [取り込み]をクリックします。

❸ [参照]をクリックして、用意したCSVファイルを選択して[開く]をクリックします。

❹ [OK]をクリックします。

一括登録確認のダイアログボックスが表示されます。

❺ [OK]をクリックします。

「アドレス帳を一括登録しました。元の画面に戻るためにブラウザの戻るを押してください。」と表示されます。

❻ Webブラウザーの[戻る]をクリックします。

補足

❒ メールアドレスの画面に戻るには、サブメニューの[メールアドレス]をクリックします。

6 [スキャナー]の[アドレス帳自動更新]を「しない」に設定している場合は、本機を再起動して、追加・変更・削除内容や一括登録内容を本機に反映させます。

補足

❒ [アドレス帳自動更新]を「する」に設定している場合は、[OK]をクリックした時点で本機に取り込まれます。[あて先]または[送信者]を押すと、更新されたメールのあて先が表示できます。⇒ P.46「アドレス帳自動更新」

あて名として登録する項目

ここでは、Webステータスモニターの設定項目のうち、本機のあて名に使われる［メールアドレス］と［ファイル送信パス］、［FTPサーバー］の各項目について解説します。

そのほかの設定項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。

［メールアドレス］の設定項目

最大2000件のメールアドレスを登録できます。

❖ 登録番号

メールアドレスごとに00001 ～ 50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 名前

Web ステータスモニターであて先または送信者を確認するときに判別しやすい名前を、半角20文字（全角10文字）以内で登録します。

❖ キー表示名

本機の操作部で［あて先］または［送信者］を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、［名前］の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 所属見出し

かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、本機を再起動させてください。［メールアドレス］の登録と同時の［任意見出し］の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内での表示順は、登録順です。たとえば、kobayasiさんを所属見出し「か」で登録したあとに、kawaiさんを所属見出し「か」で登録すると、かな見出しの「か」を使うと、kobayasiさん、kawaiさんの順に表示されます。

❖ **常用見出し**
見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足

❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ **メールアドレス**
@を含めて半角128文字以内で、メールアドレスを登録します。

❖ **送信者として使用**
送信者として使用するかどうかを登録します。送信者として登録すると、本機の操作部の［送信者］に表示され、メールの送信者として選択が可能になります。

❖ **パスワード保護**
送信者として指定するとき、本機のテンキーを使ってパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。この項目は、［送信者として使用］を「する」に設定した場合に、有効になります。

❖ **保護パスワード**
4 ～ 8 桁の数字を送信者パスワードとして登録します。この項目は、［パスワード保護］を「する」に設定した場合に、有効になります。

❖ **並び順**
この項目は、変更時のみ表示されます。［あて先］および［送信者］として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに［並び順入れ替え］を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を［移動先］に入力します。

補足

❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるユーザーを、［移動先］を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったユーザーは 6 番目に移動し、以前 6 番目だったユーザーは 7 番目に移動し … と、以前 29 番目だったユーザーが 30 番目になるまで1つずつ移動します。

［ファイル送信パス］の設定項目

最大1000件のWindows共有フォルダーを登録できます。

参照

設定手順については、［メールアドレス］の設定手順と同等のため、P.60 「［メールアドレス］の操作手順」を参照してください。

❖ **登録番号**
共有フォルダーごとに00001 ～ 50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ **ファイル送信パス名**
Web ステータスモニターで送信先を確認するときに判別しやすい名前を、半角 80 文字（全角40文字）以内で登録します。

❖ **キー表示名**
本機の操作部で［あて先］を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、［ファイル送信パス名］の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ **所属見出し**
かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、本機を再起動させてください。［ファイル送信パス］の登録と同時の［任意見出し］の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内の表示順は、登録順になります。

❖ 常用見出し
見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足
❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ ファイル送信パス
保存する Wondows 共有フォルダーのパスを、「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。
(例)
共有フォルダーがあるコンピューター：
File-Server
共有フォルダー名：shared-space
→ ¥¥File-Server¥shared-space

補足
❒ 共有フォルダー名は全角も使用可能ですが、コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、登録する共有フォルダーのコンピューター名は半角で設定してください。なお、共有フォルダー側のOSがWindows 2000/XPまたはWindows Server 2003、Windows NT 4.0のいずれかでコンピューター名が全角の場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。共有フォルダーがあるPCのOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。

❖ ログインユーザー名
共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名¥ユーザー名」の形式で入力します。
(例)
ワークグループ名：abcd
ユーザー名：suzuki
→ abcd¥suzuki

補足
❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。
❒ Windows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、その OS のユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。
❒ クライアント PC 上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード
[ログインユーザー名] に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足
❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト
[ファイル送信パス] 、[ログインユーザー名]、[ログインパスワード] を入力した状態で、[テスト] ボタンをクリックすると、指定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ 保護パスワード
あて先として該当フォルダーを選択したときに、不正アクセス防止のために本機のテンキーを使って入力するパスワードを登録します。4桁以上8桁以内の数字を登録します。

❖ 並び順
この項目は、変更時のみ表示されます。[あて先] として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに [並び順入れ替え] を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を [移動先] に入力します。

補足
❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるフォルダーを、[移動先] を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったフォルダーは6番目に移動し、以前6番目だったフォルダーは 7 番目に移動し …と、以前29番目だったフォルダーが30番目になるまで1つずつ移動します。

［FTPサーバー］の設定項目

最大1000件のFTP接続先を登録できます。

参照

設定手順については、[メールアドレス]の設定手順と同等のため、P.60 「[メールアドレス］の操作手順」を参照してください。

❖ 登録番号

共有フォルダーごとに00001 ～ 50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ FTPサーバー名

Web ステータスモニターで送信先を確認するときに判別しやすい名前を、半角 80 文字（全角40文字）以内で登録します。

❖ キー表示名

本機の操作部で［あて先］を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、[FTPサーバー名]の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 所属見出し

かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、本機を再起動させてください。［FTPサーバー］の登録と同時の［任意見出し］の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内の表示順は、登録順になります。

❖ 常用見出し

見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足

❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ FTPサーバーアドレス

送信するFTPサーバーを「FTPサーバー名¥ディレクトリー名」の形式で、178文字以内で指定します。なお、FTP サーバーのホームディレクトリーに指定したディレクトリーがない場合は、ディレクトリーを作成し、その下に画像ファイルを送信します。

（例1）
FTPサーバー名：ftp.abcd.co.jp
ディレクトリー名：news
→ ftp.abcd.co.jp¥news

（例2）
FTPサーバー名：172.16.3.12
ディレクトリー名：news
→ 172.16.3.12¥news

補足

❒ FTPサーバー名は、IPアドレスでも指定できます。

❒ 「¥ディレクトリー名」は省略できません。必ず指定してください。

❒ ポート番号 21 以外で接続するときは、FTPサーバー名の後に「:」を付けてポート番号（10進数）を付加してください。指定がない場合は、デフォルト値の21番で接続します。

❖ ログインユーザー名

FTPサーバーにログインするためのユーザー名を入力します。

補足

❒ Webステータスモニターでは20文字までとなっていますので、FTPサーバー側で20文字以内で設定してください。

❖ ログインパスワード
［ログインユーザー名］に対応するFTPサーバーのパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足
❒ Webステータスモニターでは14文字までとなっていますので、FTPサーバー側で14文字以内で設定してください。

❖ テスト
［FTP サーバーアドレス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、指定した FTP サーバーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ PASVモード
ファイアウォールやルーターのパケットフィルタリングの設定によって、PORTモードでの接続ができない場合は、PASVモードを「あり」に設定し、制御用の21番ポートのほかにファイアウォールなどが許したデータ転送用のポートを使います。

制限
❒ プロキシサーバー経由でのFTPサーバーへのアクセスはできません。

❖ 保護パスワード
あて先として該当FTPサーバーを選択したときに、不正アクセス防止のために本機のテンキーを使って入力するパスワードを登録します。4桁以上8桁以内の数字を登録します。

❖ 並び順
この項目は、変更時のみ表示されます。［あて先］として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに［並び順入れ替え］を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を［移動先］に入力します。

補足
❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるFTPサーバーを、［移動先］を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったFTPサーバーは6番目に移動し、以前6番目だったFTPサーバーは7番目に移動し…と、以前29番目だったFTPサーバーが 30 番目になるまで 1 つずつ移動します。

設定内容を確認する

設定した内容は、Webブラウザー上（Webステータスモニター）で確認できます。

確認操作の手順

1 メインメニューの［設定の参照］をクリックします。

2 サブメニューから参照したい項目をクリックします。

設定のバックアップとリストア（復元）

読取条件など設定した内容を、ファイルとしてネットワーク上の共有フォルダーに保存できます。なんらかの理由により設定内容が失われた場合に、そのファイルを使って設定内容を元に戻すことができます。また、IPSiOSCAN 3600DCが複数ある場合には、1台分のみ設定し、設定内容をほかのIPSiOSCAN 3600DCにコピーすることもできます。

バックアップ/リストアの対象項目

Webステータスモニターの[バックアップ]を除いた[設定]メニュー内のすべての項目が対象となります。

Web ブラウザーを使わずに、本機の操作部から設定した項目であっても、[設定] メニュー内にある項目であれば、バックアップ/リストアの対象となります。ただし、日付設定のように、Webステータスモニターの[設定]にない項目は対象となりません。

バックアップ/リストアする項目を、個別に選択することはできません。

補足

❒ ほかのIPSiOSCAN 3600DCにコピーするために使う場合は、IPアドレスなどのネットワーク設定もリストアされることに留意してください。

バックアップ時の操作手順

1 **メインメニューの［設定］をクリックします。**

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は**4**に進んでください。

2 **ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。**

補足

❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。

❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。[設定]-[パスワード]で変更可能です。

3 **［OK］をクリックします。**

設定画面が表示されます。

4 サブメニューの［バックアップ］をクリックします。

5 各項目を入力します。

❖ ファイル送信パス

バックアップファイルを保存する共有フォルダーを指定します。「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

❒ 共有フォルダー名は全角も使用可能ですが、コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、保存先のコンピューター名は半角で設定してください。ただし、保存先コンピューターのOSがWindows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0のいずれかの場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。保存先コンピューターのOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。

❖ ログインユーザー名

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名¥ユーザー名」の形式で入力します。

補足

❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。

❒ Windows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。

❒ クライアントPC上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、設定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ バックアップファイル名

保存するバックアップファイルのファイル名を指定します。ファイル名は半角20文字（全角10文字）以内で指定します。

6 ［バックアップ］ボタンをクリックします。

補足

❒ ［キャンセル］をクリックすると、入力内容をクリアします。

「バックアップに成功しました」と表示されます。

7 Windows　のエクスプローラー等を使って、指定した共有フォルダーにバックアップファイルが作成されていることを確認します。

リストア時の操作手順

1 メインメニューの［設定］をクリックします。

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は**4**に進んでください。

2 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。

補足

❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。

❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。[設定]-[パスワード]で変更可能です。

3 [OK] をクリックします。

設定画面が表示されます。

4 サブメニューの [バックアップ] をクリックします。

5 各項目を入力します。

❖ ファイル送信パス

バックアップファイルが保存されている共有フォルダーを指定します。「¥¥ コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

❒ 保存元コンピューターのOSがWindows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0のいずれかの場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。保存元コンピューターのOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IP アドレスでの指定はできません。

❖ ログインユーザー名

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名¥ユーザー名」の形式で入力します。

補足

❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。

❒ Windows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。

❒ クライアントPC上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード

[ログインユーザー名] に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト

[ファイル送信パス] 、[ログインユーザー名]、[ログインパスワード] を入力した状態で、[テスト] ボタンをクリックすると、設定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ バックアップファイル名

保存したバックアップファイルのファイル名を指定します。

6 [リストア] ボタンをクリックします。

補足

❒ [キャンセル] をクリックすると、入力内容をクリアします。

「リストアに成功しました」と表示されます。

7 本機の電源をOFF/ONします。

リストアした内容が反映されます。

ソフトウェアをインストールする

本機をネットワークTWAINスキャナーとして利用するためには、使用するPCにネットワークスキャナードライバー（RICOHネットワークTWAIN ドライバー）をインストールする必要があります。

また、Ridoc配信機能を利用するには、配信サーバーとなるPC上に「Ridoc Document Router Lt」（または「Ridoc Document Router」、「Ridoc Document Router Pro」）をインストールします。配信された画像データを閲覧するためには、クライアントPC上に「Ridoc Desk 2000 Lt」（または「Ridoc Desk 2000」）をインストールします。

CD-ROMの構成

ドライブ	ルート	サブディレクトリー1	サブディレクトリー2	サブディレクトリー3	サブディレクトリー4	説明
CD-ROMドライブ	Setup.exe ほか					自動起動用のインストーラーです。
	DRIVERS	TWAIN	Setup.exe ほか			Windows版ネットワークTWAINドライバーです。
	UTILITY	RDROUTER	RtLaunch.exe ほか			Ridoc Document Router Ltです。
		RIDOCDSK	RDLaunch.exe ほか			Ridoc Desk 2000 Ltです。
	NETWORK	RIDOCIO	ADMIN	DISK1	Setup.exe ほか	Ridoc I/O Adminです。
			NAVI	DISK1	Setup.exe ほか	Ridoc I/O Naviです。
			BMPINST	DISK1	Setup.exe ほか	インストール用のBMPファイルなどです。
	SETUP	main.bmp ほか				自動起動用のBMPファイルなどです。

ネットワークTWAINドライバーをインストールする

ネットワークTWAINドライバーの動作環境

本機をネットワーク TWAIN スキャナーとして利用する PC は、以下の条件を満たしてください。

(「推奨」はカラー1677 万色を読み取るための環境です。)

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 133MHz以上 (Celeron 、Pentium Ⅱ、Ⅲ以上推奨)
- メインメモリー
  OS 最低動作メモリー＋ 8M バイト(128M バイト以上推奨)
- ハードディスク空き容量
  100M バイト以上 (1G バイト以上推奨)
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット256 色以上 (カラー1677 万色以上推奨)
- 対象OS
  Windows 95/98/98 SE/Me/2000/XP、Windows NT 4.0 (Service Pack 5 以降)、Windows Server 2003

制限

❒ Windows Server 2003使用時、プレビュー機能は使用できません。

ネットワークTWAINドライバーのインストール手順

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー &ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後に CD-ROM をセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ [スタート] ボタンから [ファイル名を指定して実行] を開きます。

❷ [名前] に「D:¥Setup.exe」(CD-ROMドライブがD: の場合) と入力し、[OK] をクリックします。

2 [IPSiO SCAN 3600DC]ボタンをクリックします。

TWAINドライバーのインストーラーが起動しますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

インストールを完了したPCでは、TWAIN対応アプリケーションソフトを使って読み取りが可能になります。

補足

❒ インストール終了後、[スタート] メニューの[プログラム] に[RICOH TWAIN for IPSiO SCAN 3600DC] メニューが作成され、ここからヘルプを表示できます。また、「Readme.txt 」には、ネットワークTWAIN スキャナーを使ううえでの注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

Ridoc Document Router Ltをインストールする

Ridoc Document Router Ltの動作環境

Ridoc Document Router Ltをインストールするコンピューター（Ridoc配信サーバー）は、以下の条件を満たしたものを使用してください。

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 200MHz以上（Pentium Ⅱ 350MHz以上を推奨）
- メインメモリー
  64Mバイト以上（128M バイト以上を推奨）
- ハードディスク空き容量
  インストール用に200M バイト以上、文書保存先には500Mバイト以上
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット以上、65,536色以上推奨
- 対象OS
  Windows 95(OSR2以降)/98/98 SE/Me/2000（Service Pack 1以降）/XP、Windows NT 4.0（Service Pack 5 以降）

制限

❒ メールサーバー、Webサーバー、データベース等として使用しているコンピューターにはインストールしないでください。

❒ リモートSCANがインストールされているコンピューターにはインストールできません。

❒ リモートSCAN-Ltがインストールされているコンピューターにインストールすると、リモート SCAN-Lt がアンインストールされます。

❒ すでにRidoc Document Router Ltの配信管理ツールがインストールされているコンピューターにインストールする場合は、Ridoc Document Router Ltの配信管理ツールをアンインストールしてください。

Ridoc Document Router Ltのインストール手順

操作の前に

インストール前の準備やインストール手順の詳細については、『Ridoc Document Router Lt セットアップガイド』を参照してください。

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー &ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたまま Windows を起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］ボタンから［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 ［スキャンデータ配信ソフトRidoc Document Router Lt］ボタンをクリックします。

Ridoc Document Router Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 ［Ridoc Document Router Lt］ボタンをクリックします。

補足

❒ ［セットアップガイド］ボタンをクリックすると、『セットアップガイド』（PDF形式）が表示されます。

❒ ［Acrobat Reader］ボタンをクリックすると、Adobe Acrobat Readerがインストールされます。

Ridoc Document Router Ltのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

配信管理ツールのインストール手順

クライアント PC に、配信管理ツールをインストールして、クライアントPCから配信サーバーを管理することができます。

補足

❒ Ridoc Document Router Ltがすでにインストールされている配信サーバーには、配信管理ツールを個別にインストールする必要はありません。

1 **「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。**

「スキャナードライバー &ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］ボタンから［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 **［スキャンデータ配信ソフトRidoc Document Router Lt］ボタンをクリックします。**

Ridoc Document Router Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 **［配信管理ツール］ボタンをクリックします。**

配信管理ツールのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

Ridoc Desk 2000 Ltをインストールする

Ridoc Desk 2000 Ltは、本機のRidoc配信機能で配信された画像データやその他のイメージファイル、アプリケーションソフトで作成したファイルなど、多様なデータを1つの文書として管理･印刷することができるソフトウェアです。また、TWAINにも対応していますので、本機のネットワークTWAINドライバーを使って読み取りを行う場合にも利用できます。

Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境

Ridoc Desk 2000 Ltをインストールするクライアントは、以下の条件を満たしてください。

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 133MHz以上 （Pentium 266MHz以上を推奨）
- メインメモリー
  48Mバイト以上（128M バイト以上を推奨）
- ハードディスク空き容量
  インストール用に70M バイト以上、文書保存先には50Mバイト以上（200Mバイト以上を推奨）
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット以上、65,536色以上推奨
- 対象OS
  Windows 95(OSR2以降)/98/98 SE/Me/2000（Service Pack 1以降）/XP、Windows NT 4.0（Service Pack 5 以降）

Ridoc Desk 2000 Ltのインストール手順

1 **「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。**

「スキャナードライバー &ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］ボタンから［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 **［個人文書管理ソフトRidoc Desk 2000 Lt］ボタンをクリックします。**

Ridoc Desk 2000 Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 **［Ridoc Desk 2000 Lt］ボタンをクリックします。**

補足

❒ ［セットアップガイド］ボタンをクリックすると、『セットアップガイド』（PDF形式）が表示されます。

❒ ［Acrobat Reader］ボタンをクリックすると、Adobe Acrobat Readerがインストールされます。

Ridoc Desk 2000 Ltのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviをインストールする

Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviについて

「Ridoc I/O Admin」は、IPアドレスを持つネットワーク上の複数のスキャナーやプリンターを効率よく管理するためのユーティリティーソフトです。必要に応じて管理者用コンピューターにインストールします。

「Ridoc I/O Navi」は、IPアドレスを持つネットワーク上の複数のプリンターやスキャナーを有効に使いこなすためのユーティリティーソフトです。必要に応じてクライアントPCにインストールします。

	Ridoc I/O Admin	Ridoc I/O Navi	本機のWebステータスモニター
管理対象	ネットワーク上の複数のスキャナーやプリンター	ネットワーク上の複数のスキャナーやプリンター	本機
スキャナーに関する管理項目	• 識別名の変更 *1 • IPアドレスの変更 *1 • 状態の表示	• 状態の表示	識別名やIPアドレスの変更、状態の表示のほか、多岐にわたる詳細項目の管理が可能⇒ P.34 「設定項目一覧」
インストール	管理者用PCにインストールする	各クライアントPCにインストールする	不要

*1 本機の場合、Ridoc I/O Adminのイーサネットボード設定ツールは利用できません（識別名およびIPアドレスは変更できません）。他のI/O機器の識別名、IPアドレスの変更は可能です。

Ridoc I/Oのインストール手順

1 **「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。**

「スキャナードライバー &ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］ボタンから［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 **［Ridoc I/O Admin］ボタンまたは［Ridoc I/O Navi］ボタンをクリックします。**

Ridoc I/O AdminまたはRidoc I/O Naviのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

補足

❒ インストール終了後、［スタート］ボタンの［プログラム］に、［Ridoc I/O Admin］または［Ridoc I/O Navi］メニューが作成され、ここから各ヘルプを表示できます。また、「Readme」には、各ソフトウェアを使ううえでの注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

4. 原稿のセットのしかた

ここでは、読み取る原稿を本機にセットする方法を説明します。

原稿ガラスまたはADFに原稿をセットできます。複数の原稿を連続して読み取りたいときは、ADFを使用すると便利です。

セットできる原稿のサイズと紙厚

原稿セット先		原稿サイズ	原稿紙厚(四六判)
原稿ガラス		A3(297mm×420mm)、11×17(DLT 279×432mm)まで	制限なし
ADF	片面	❖ **定型サイズ** 最大:A3⊏、11×17⊏ 最小:A5⊏ ❖ **不定形サイズ** 最大:297mm×2000mm（白黒読み取り時）、297mm×630mm（カラー読み取り時） 最小:105mm×128mm	41～128g/m^2(35～110kg)
	両面		52～105g/m^2(45～90kg)

補足

❒ ネットワークTWAINドライバーを使って、原稿サイズがA5、または原稿紙厚が52g/m^2(45kg)以下の原稿をADFから読み取らせる場合は、TWAINドライバーの［セット場所］を「ADF（薄紙）」に変更してください。詳しくはTWAINドライバーのヘルプを参照してください。

❒ メール送信・ファイル送信（SMBおよびFTP）・Ridoc配信時、原稿サイズがA5、または原稿紙厚が52g/m^2(45kg)以下の原稿をADFから読み取らせる場合は、[スキャナー]の[ADF薄紙モード]を「する」に設定してください。

自動的に読み取れる原稿サイズ

本機が自動的にサイズを検知して読み取れる原稿サイズは以下のとおりです。

制限

❒ 複数原稿を自動的に読み取る場合は、定形同一サイズのものをセットしてください。

❖ 原稿ガラスにセットしたとき

- A3⊏(297mm×420mm)
- B4⊏(257mm×364mm)
- A4⊏(210mm×297mm)
- A4⌷(297mm×210mm)
- B5⊏(182mm×257mm)
- B5⌷(257mm×182mm)

❖ ADFにセットしたとき

- A3⊏(297mm×420mm)
- B4⊏(257mm×364mm)
- A4⊏(210mm×297mm)
- A4⌷ ⌷(297mm×210mm)
- B5⊏(182mm×257mm)
- B5⌷(257mm×182mm)
- A5⊏(148mm×210mm)
- A5⌷(210mm×148mm)

補足

❒ カラー画像データのときは、上記の条件に当てはまっていても読み取れないことがあります。詳しくは、ネットワークTWAINドライバーのヘルプ、またはCD-ROMの中のReadme.txtを参照してください。

注意が必要な原稿について

次のような原稿を読み取るときは、ここで説明されていることにしたがって、注意してセットしてください。

❖ サイズを読み取りにくい原稿

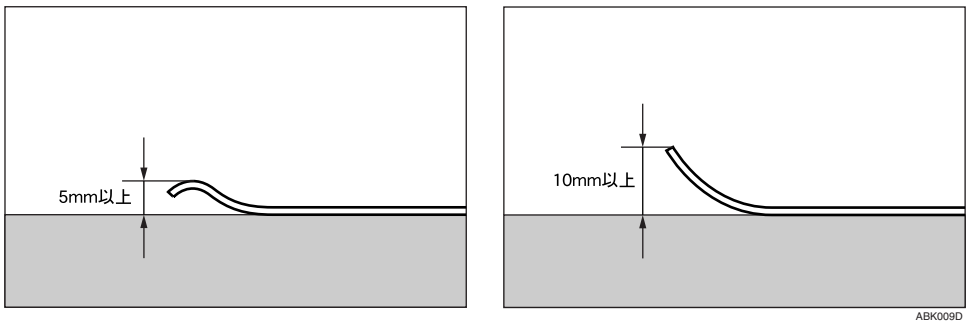
次のような原稿はサイズを読み取りにくいため、「自動検知」を設定しても正しいサイズが選択されないことがあります。手動で用紙を選択してください。

- 付せんやインデックスなど、はみ出た部分のある原稿
- OHP フィルムやトレーシングペーパー（第二原図用紙）などのように透明度の高い原稿
- 文字や絵柄部などが多く、全体に黒っぽい原稿
- 部分的にベタ部がある原稿
- 周囲にベタ部がある原稿

❖ ADFにセットできない原稿

次のような原稿をADFにセットすると、紙づまり、原稿破損、白スジ、黒スジの原因になることがあります。原稿ガラスにセットしてください。

- ステープラーの針やクリップのついた原稿
- 穴、破れのある原稿
- そり、折れ、しわのある原稿
- はり合わせた原稿
- 感熱紙、アート紙、銀紙、カーボン紙、導電性の用紙などのように表面が加工された原稿
- ミシンがけ原稿
- インデックスや付せんなど、はみ出た部分のある原稿
- トレーシングペーパー（第二原図用紙）などのようにすべりにくい原稿
- 登記簿などに使われるような薄くてやわらかい原稿
- 官製はがきのような厚い原稿
- 本などのようにとじてある原稿
- OHP フィルムやトレーシングペーパー（第二原図用紙）などのように透明度の高い原稿
- 修正液やインクなどが完全に乾いていない原稿
- 下図のように先端のカールが大きい原稿

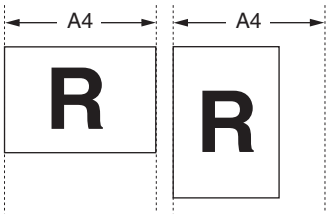


原稿の向きと読取面について

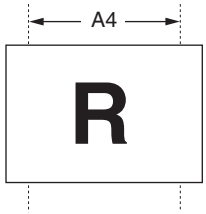
原稿は縦横どちらの向きにセットすることもできますが、パソコンのディスプレイで原稿の天地（上下）を正しく表示するには、原稿に応じて向きを変えてセットしたり、セットした向きを指定する必要があります。

セット方向は原稿の幅がA4の長辺（297mm）以内のときと、それより広いときで異なります。

- 幅がA4の長辺（297mm）以内の原稿



- 幅がA4の長辺（297mm）より広い原稿

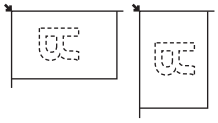
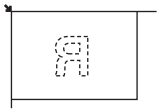
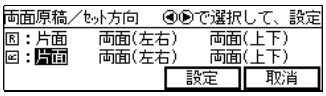
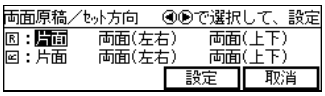


補足

❒ 原稿の両面を読み取る場合は、ADFを使用します。

原稿の片面だけを読み取る場合

原稿の幅がA4（297mm）以内のときと、それより広いときでセット方法が異なります。

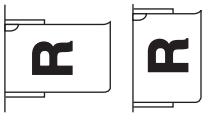
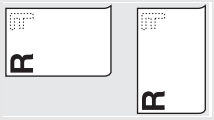
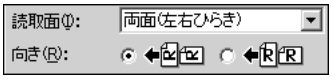
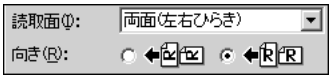
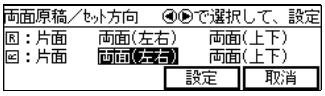
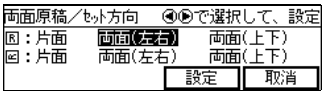
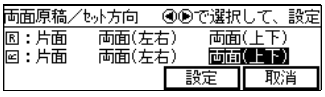
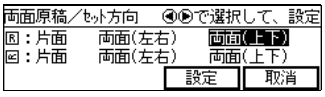
原稿の幅	A4以内	A4より広い
原稿ガラスへのセットのしかた ⇒P.84「原稿ガラスに原稿をセットする方法」	原稿の上辺が原稿ガラスの左側になるようにセットします。 	原稿の上辺が原稿ガラスの奥側になるようにセットします。 
ADFへのセットのしかた ⇒P.84「ADFに原稿をセットする方法」	原稿の上辺から先にセットします。 	原稿の上辺が奥側になるようにセットします。
ネットワークTWAINドライバー使用時の設定	［向き］を←にします。 ADFの場合は、［読取面］を「片面」にします。 **補足** ❒［セット場所］には、「ADF」または「コンタクトガラス」*1を設定します。	［向き］を←にします。 ADFの場合は、［読取面］を「片面」にします。 **補足** ❒［セット場所］には、「ADF」または「コンタクトガラス」*1を設定します。
メール送信・ファイル送信（SMBおよびFTP）・Ridoc配信時の設定	の［片面］を選択します。  **補足** ❒ 初期値がこの設定になっているので、変更の必要はありません。	の［片面］を選択します。 

*1 コンタクトガラス：原稿ガラスから読み取る場合に選択します。

原稿の両面を読み取る場合

原稿の両面を読み取る場合は、ADFに原稿をセットします。

原稿の幅がA4（297mm）以内のときと、それより広いときでセット方法が異なります。

原稿の幅	A4以内	A4より広い
ADFへのセットのしかた ⇒P.84 「ADFに原稿をセットする方法」	原稿のおもて面を上にし、上辺から先にセットします。 	原稿のおもて面を上にし、上辺が奥側になるようにセットします。
	原稿のとじ方が左右開きの場合 	原稿のとじ方が左右開きの場合
ネットワークTWAINドライバー使用時の設定	［向き］を←、［読取面］を「両面（左右ひらき）」、［セット場所］を「ADF」にします。 	［向き］を←、［読取面］を「両面（左右ひらき）」、［セット場所］を「ADF」にします。 
メール送信・ファイル送信（SMBおよびFTP）・Ridoc配信時の設定	の［両面（左右）］を選択します。 	の［両面（左右）］を選択します。 
	原稿のとじ方が上下開きの場合 	原稿のとじ方が上下開きの場合
ネットワークTWAINドライバー使用時の設定	［向き］を←、［読取面］を「両面（上下ひらき）」、［セット場所］を「ADF」にします。 	［向き］を←、［読取面］を「両面（上下ひらき）」、［セット場所］を「ADF」にします。
メール送信・ファイル送信（SMBおよびFTP）・Ridoc配信時の設定	の［両面（上下）］を選択します。 	の［両面（上下）］を選択します。 

原稿ガラスに原稿をセットする方法

重要

❒ ADFを閉じるときは､指を挟まないようにご注意ください。

❒ 電源を入れる前に原稿をセットしておくと、原稿ガラス自動検知機能は働きません｡原稿は、電源を入れてからセットしてください。

1 ADFを上げます。

補足

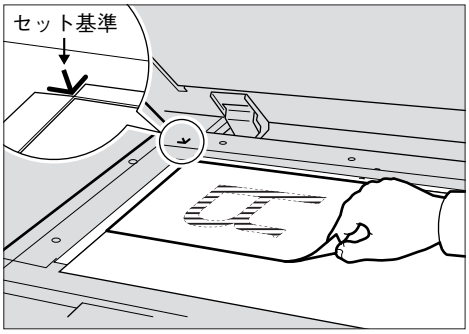
❒ ADFの開閉で原稿サイズを検知しますので、30度以上の角度で確実に開けてください。

2 読み取る面を下にし、左奥のセット基準およびスケールに合わせて原稿をセットします。

重要

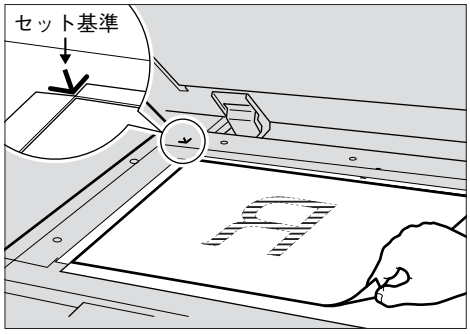
❒ 原稿ガラスは強く押さないでください。局部的に強い力がかかると破損する可能性があります。

① 幅がA4以内の原稿をセットする場合



TNSY021J

② 幅がA4より広い原稿をセットする場合



TNSY023J

この方向でセットしたときは、一般に、送信時に原稿セット方向の設定を変更する必要があります。⇒ P.82「原稿の片面だけを読み取る場合」

3 ADFを静かに閉めます。

ADFに原稿をセットする方法

ADFには、一度に複数枚の原稿をセットすることができます。本書では、ADFにセットできるシート状の原稿を「シート原稿」と呼びます。ADFにセットした原稿は、片面だけでなく両面を読み取ることができます。

❖ ADFに原稿をセットするときの注意

- ADF にセットできない原稿については、P.80「ADFにセットできない原稿」を参照してください。

重要

❒ セットできない原稿を ADF にセットすると､原稿が詰まったり､破損するなどの原因となることがあります。このような原稿は原稿ガラスにセットしてください。

- ADF の上限表示を超えないようにセットしてください。
- 自動的に検知できる原稿サイズについては、P.79「自動的に読み取れる原稿サイズ」を参照してください。
- 重送（複数枚の原稿が重なったまま一度に送られること）されないようにするため原稿をパラパラとほぐしてからセットしてください。

1 **原稿ガイドを原稿サイズに合わせます。**

2 **読み取る面を上（両面を読み取るときはおもて面を上）にし、原稿をそろえてセットします。**

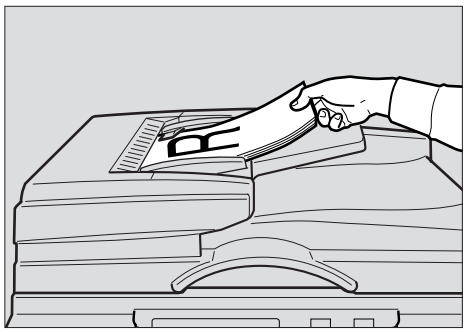
原稿をセットする向きと設定についてはP.82 「原稿の片面だけを読み取る場合」とP.83「原稿の両面を読み取る場合」を参照してください。

補足

❒ 読み取り幅（タテ方向の長さ）が同じなら異なる長さの原稿をセットすることができます。

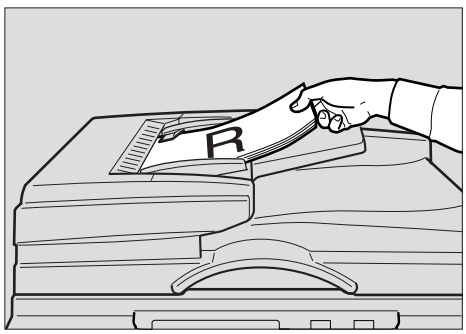
❒ 原稿はセットした上のページから順に読み取られます。

① 幅がA4以内の原稿をセットする場合



ZEPY010J

② 幅がA4より広い原稿をセットする場合



ZEPY020J

補足

❒ 原稿の両面を読み取るときは、セット方向にかかわらず、原稿セット方向の設定を変更する必要があります。⇒ P.83「原稿の両面を読み取る場合」

5. ネットワークTWAINスキャナーとして使う

この章では、TWAIN対応アプリケーションとしてRidoc Desk 2000 Ltを使った読み取りの基本的な操作を説明します。また、ネットワークTWAINスキャナーのおもな機能を紹介します。

ネットワークTWAINで原稿を読み取る手順の概要

ネットワーク上のPCから、本機をTWAIN入力機器として使用して、画像を読み込むときの手順の流れを示します。

TWAIN対応アプリケーションソフトを起動する	アプリケーションによってメニュー名が異なります。 ⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」❶
対応TWAINドライバーを選択する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」❷～❺
対応TWAINドライバー（スキャナーコントロールダイアログ）を起動する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」❻
選択したネットワークTWAINドライバーを使う機器が複数ある場合は、使用する機器を選択する	⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」❼～❽
原稿をセットする	⇒ P.79 「原稿のセットのしかた」
読取条件を設定する	⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」❿～⓫
TWAINドライバーの［スキャン］ボタンをクリックする	⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」⓬
イメージを保存する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」⓭
TWAIN対応アプリケーションを終了する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.88 「Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る」⓮

Ridoc Desk 2000 Ltで原稿を読み取る

ここでは、ネットワークTWAINドライバーの使用例として、Ridoc Desk 2000 Ltを使って、スキャナーから1枚の原稿を読み取る方法を、P.87「ネットワークTWAINで原稿を読み取る手順の概要」に沿って説明します。

補足

- Ridoc Desk 2000 Ltを使用中に、パソコンのキーボードの【F1】キーを押すと、ヘルプが表示されます。操作がわからないときに、ご利用ください。
- イージースキャン機能については、Ridoc Desk 2000 Ltのヘルプを参照してください。

1 **[スタート]ボタンから［プログラム］をポイントし、[RICOH Ridoc Desk 2000]から［Ridoc Desk 2000］をクリックします。**

Ridoc Desk 2000 Ltが起動します。

2 **[ツール]メニューの［スキャナー設定］をクリックします。**

［スキャナー設定］ダイアログボックスが表示されます。

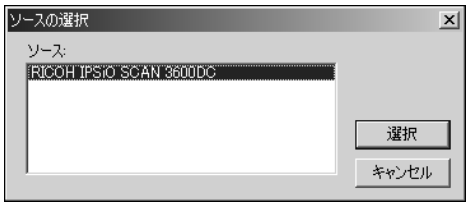
補足

- ［スキャナー入力画像の保存ファイル形式］グループで選択されているファイル形式でRidoc Desk 2000 Ltに保存されます。必要に応じて設定を変更してください。

3 **［スキャナー選択］をクリックします。**

［ソースの選択］ダイアログボックスに、クライアントPCにインストールされているTWAINドライバーが表示されます。

4 **［RICOH IPSiO SCAN 3600DC］をクリックし、［選択］をクリックします。**

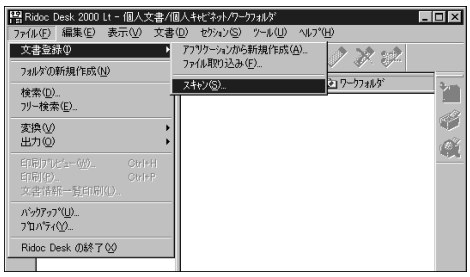


［ソースの選択］ダイアログボックスが閉じられ、本機のネットワークTWAINドライバーが選択されました。

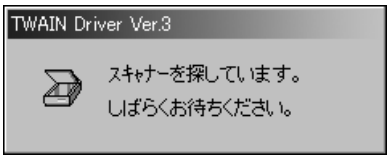
5 **［スキャナー設定］ダイアログボックスの［OK］をクリックします。**

［スキャナー設定］ダイアログボックスが閉じます。

6 **［ファイル］メニューの［文書登録］をポイントし、［スキャン］をクリックします。**



Ridoc Deskビューアが開き、選択したネットワークTWAINドライバーに対応するスキャナーの検索が行われます。



しばらくすると、ネットワークTWAINドライバーでスキャナーを操作するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを「スキャナーコントロールダイアログ」と呼びます。

補足

- タイトルバーには、ドライバーのバージョンとスキャナー名IPSiO SCAN 3600DC、続いて（ ）内に識別名が表示されます。複数のIPSiO SCAN 3600DCを接続している場合は、識別名によって目的のスキャナーかどうか確認します。目的のスキャナーと異なる場合は、手順**7**に進んでください。スキャナーを変更する必要がない場合は、手順**9**に進んでください。
- 識別名は、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定できます。工場出荷時の値は、RNP******（****** は本機の物理アドレスの下6桁）です。

7 ［スキャナー選択］をクリックします。

［スキャナー選択］ダイアログボックスが表示されます。

8 ［スキャナー名］で目的のスキャナーを選択し、［OK］をクリックします。

補足

- 目的のスキャナーがリストに表示されない場合は、本機がネットワークに正しく接続され、IPアドレスなどが正しく設定されているかどうか、使っているPCのIPアドレスがアクセスコントロールで使用制限されていないかどうかを確認してください。それでもリストに表示されない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

ダイアログボックスが閉じ、目的のスキャナーが選択されます。

9 原稿をセットします。

原稿ガラスかADFに、読み取る原稿をセットします。原稿のセット方法については、P.79「原稿のセットのしかた」を参照してください。

10 読取条件を設定します。

❶ ［読取モード］から任意のアイコンをクリックして選択します。

原稿の種類や読み取る目的に応じて、アイコンを選択します。読み取りモードはユーザー登録が可能ですが、次の4つはあらかじめ登録されています。

- 「標準」は、文字を主体とした標準的な原稿を読み取るのに適しています。
- 「写真」は、写真や、濃淡のある図版などが含まれる原稿を読み取るのに適しています。
- 「OCR」は、読み取った後、OCR（自動文字認識）アプリケーションで変換処理を行うのに適しています。
- 「ファイリング」は、ファイリングアプリケーションなどで利用するのに適しています。

補足

- ここでは、「簡単画面」で簡便に設定する方法を説明しています。より詳細な条件設定をしたいときは、［詳細］をクリックすると「詳細画面」に切り替わります。「詳細画面」については、ネットワークTWAINドライバーのヘルプを参照してください。

❷ **必要に応じて、[原稿] グループの設定を変更します。**

参照

[原稿] グループの設定については P.82 「原稿の片面だけを読み取る場合」やP.83「原稿の両面を読み取る場合」、およびネットワークTWAINドライバーのヘルプを参照してください。

補足

❒ アプリケーション内でADFから読み取る原稿枚数を指定できる場合で、セットした原稿のうちの何枚かだけを読み取るときは、[セット場所] で「ADF（プレフィードoff）」を選択してください。このような場合に「ADF」を選択すると、読み取り後に原稿がADF内に1枚残ってしまいますが、「ADF（プレフィードoff）」を選択すると、読み取った原稿が正しく排紙されます。

11 読み取り領域を指定したいときは、以下の手順を行います。

補足

❒ 読み取り領域を指定しない場合は、手順12に進みます。

制限

❒ Windows Server 2003ではプレビュー機能が使用できません。

❶ **[プレビュー] をクリックします。**

セットした原稿が読み取られ、[プレビュー] ウィンドゥが表示されます。プレビューの読み取り領域は、一点鎖線で囲まれて表示されます。

❷ **をクリックし、一点鎖線の辺や頂点をドラッグして読み取り領域を指定します。**

新たに領域を指定し直す場合は、囲みの外を一度クリックし、改めて新しい領域の対角線をドラッグします。

補足

❒ プレビューの詳細については、ネットワークTWAINドライバーのヘルプを参照してください。

❒ 読み取りの解像度によっては、読み取り領域の大きさが制限される場合があります。解像度と読み取り領域の関係については、P.149「解像度、読み取り領域とデータサイズの関係」を参照してください。

❸ **[閉じる] をクリックします。**

[プレビュー] ウィンドゥが閉じます。

12 [スキャン] をクリックします。

補足

❒ スキャナーコントロールダイアログの[スキャナーの[スタート]キーで開始] にチェックが入っているときは、[スキャン] をクリックしたあと、本機の**【スタート】**キーを押します。

原稿が読み取られてRidoc Deskビューアのウィンドウに表示され、スキャナーコントロールダイアログが自動的に閉じます。

補足

❒ 読み取ったイメージは回転や切り抜きなどの編集をしたり、編集した状態を印刷することができます。編集や印刷の操作についてはRidoc Desk 2000 Ltのヘルプを参照してください。

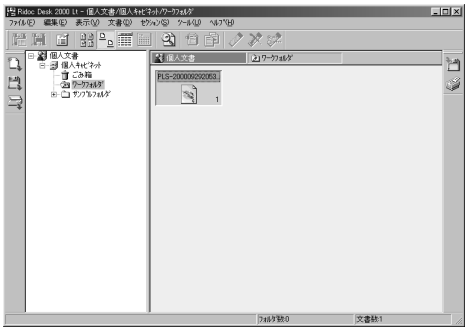
13 読み取ったイメージをRidoc Desk 2000 Ltに保存します。

❶ [ファイル] メニューの [終了] をクリックします。

[文書情報の入力] ダイアログボックスが表示されます。

❷ **文書名を入力し、[OK] をクリックします。**

Ridoc Desk 2000 Ltにイメージが保存され、Ridoc Deskビューアが閉じます。



補足

❒ ？？保存されたイメージをファイルとして書きだすこともできます。詳しくは、Ridoc Desk 2000 Ltのヘルプを参照してください。

14 Ridoc Desk 2000 Ltを終了します。

❶ [ファイル] メニューの [Ridoc Deskの終了] をクリックします。

Ridoc Desk 2000 Ltが終了します。

こんな機能もあります

ここでは、ネットワークTWAINスキャナーが持つ多彩な機能のいくつかを紹介します。

参照

それぞれの機能の詳細やその他の機能については、ヘルプを参照してください。

ネットワークTWAINスキャナーの機能一覧

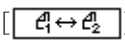
項目名	設定内容	説明
読取モード	標準／写真／OCR／ファイリング／ユーザー追加	読取条件の呼び出し設定と新規登録ができます。
向き	標準／90度回転	原稿のセットする向きに合わせることにより、イメージを自動で回転する機能です。両面原稿の場合は、読取面と合わせて指定します。
ソフトウエア両面（読取面）	←	両面原稿を片面ずつ読み込んでページをソートすることができます。自動両面原稿送りをすると読み込みに時間がかかりますが、この機能を使うと、すばやい読み込みが可能となります。
２５６カラー（色/階調）	←	24bitカラーのデータを8bitに減色し、データサイズを小さくします。
スタンプ	日付／文字列／カウントアップ／カウントダウン	読み取ったイメージに左記内容を追加できます。また、日付等に使用する文字のサイズや書体の変更も可能です。
ＩＣＭ（カラーマッチング）	←	ICMを設定すると、モニタープロファイルに合わせカラーデータをマッチングさせます。
傾き自動補正	←	原稿の傾きを検出して、その補正を行います。傾きが補正されたイメージデータが取得できます。
スキャナーの［スタート］キーで開始	←	装置（本機）のスタートボタンで、読取を開始します。
スキャナー選択	←	ネットワークに接続している同一機種のスキャナーが一覧表示されます。使用するスキャナーを、必要に応じて切り替えることができます。
プレビュー	←	読み込むイメージを、読み込みを実行する前に確認できます。条件の変更による読み込みイメージの変化を、瞬時に確認することができます。

6. メールで送信する

ここでは、読み取ったイメージをメールの添付ファイルとして送信する機能の使いかたについて説明します。

メール送信の概要

メールで送信するための手順を流れ図で示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、「[あて先]［To:］の指定」のみが必須となります。

原稿をADFまたは原稿ガラスにセットする	⇒ P.95 「原稿をセットする」
［あて先］［To:］の指定をする	⇒ P.96 「To:を指定する」
［Cc:］の指定をする	⇒ P.97 「Cc:を指定する」
［件名］の指定をする	⇒ P.98 「件名を指定する」
［読取条件］の指定をする	⇒ P.99 「読取条件を指定する」
［送信者］の指定をする	⇒ P.101 「送信者を指定する」
[] の指定をする	⇒ P.102 「読取面を指定する」
本機の**【スタート】**キーを押す	⇒ P.103 「読み取りを開始する」
Webブラウザーで送信の確認をする	⇒ P.105 「送信の確認をする」

送信されるメール内容について

送信者

- メール送信時に、本機から［送信者］の指定を行った場合は、指定されたユーザーが送信者になります。

補足

❒ 送信者として本機に表示するには、［設定］-［メールアドレス］の［送信者として使用］を「する」にします。

- ［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」に設定し、メール送信時に本機から送信者の指定を行わなかったときは、登録した管理者が送信者になります。

補足

❒ ［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「しない」に設定した場合は、メール送信時に［送信者］を指定してください。

メールの件名

- メール送信時に、本機から［件名］の指定を行った場合は、指定した件名がメールの件名になります。
- メール送信時に、［件名］の指定を行わなかった場合は、メールに件名は付きません。（メールソフトによって「no subject」等になります。）

読み取った画像ファイル

読み取った画像データはメールの添付ファイルになります。ファイル名は、“SDOC0001.拡張子”で、「シングルページ」形式で複数枚の原稿を送信した場合は、“SDOC0002.jpg”、“SDOC0003.jpg”のように、順次カウントアップした複数のファイルが添付されます。

補足

❒ 画像ファイルは、［読取条件］の［ファイル形式］で設定した形式で送信されます。⇒ P.52「ファイル形式」

メールの本文

メールには、読み取った画像データがファイルとして添付されるだけでなく、次のような情報が本文として送信されます。

補足

❒ 本文の変更はできません。

❖ **冒頭文**

1行目に「このメールは、『識別名』（機器モデル名）から送信されたものです。」という文章が入ります。

補足

❒ 「識別名」には、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字が入ります。

❒ 「機器モデル名」には、自動取得した本機のプロダクトIDが入ります。

❖ **読み取り日時**

2行目には、スキャンを実行した年月日時刻が「2003.09.01 15:00:00 +0900」のような形式で入ります。

補足

❒ 年月日時刻は、**【初期設定】**キーの［スキャナー］の［4.日付設定］で合わせます。

❒ 「+0900」は、GMT（グリニッジ標準時）からの差異時間で、Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［タイムゾーン］で設定した文字が入ります。

❖ **問い合わせ先**

Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」に設定した場合、［管理者メールアドレス］に登録したメールアドレスが問い合わせ用に3行目に入ります。

［送信初期値］が「なし」に設定されていて、管理者メールアドレスが登録されていない場合は、問い合わせ先は省略されます。

原稿をセットする

参照

ADF（自動原稿送り装置）や原稿ガラスへの原稿のセットの方法や、原稿としてセットできる用紙などについては、P.79「原稿のセットのしかた」を参照してください。

原稿のセット場所について

本機の配信/送信機能を利用するときは、セット場所（ADF/原稿ガラスの別）を指定する必要がありません。

ADFに原稿がセットされているときはADF、原稿ガラスに原稿がセットされているときは原稿ガラスから、原稿が読み取られます。両方にセットされている場合は、ADFの原稿を読み取ります。

原稿の向きと読取面について

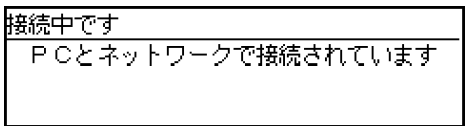
本機の配信 / 送信機能を利用時の原稿の向きや読取面の片面/両面の別は、本機の［ ］で指定します。原稿の向きとセット方法についてはP.81 「原稿の向きと読取面について」、［ ］の操作方法については、P.102「読取面を指定する」を参照してください。

メール送信モードについて

メール送信・ファイル送信機能を使う場合は、［機能選択］で「ファイル送信/TWAIN」を設定します。⇒P.18 「機能選択と待機画面」

また、クライアントPCがネットワークTWAINスキャナーとして利用しているとき、および任意ファイル送信入力を利用しているときは、メール送信･ファイル送信機能は使えません。メール送信・ファイル送信機能が使用できる状態になってから、原稿をセットしてください。

- 本機の画面に「PC とネットワークで接続されています」と表示されている場合は、クライアント PC からネットワーク TWAIN 機能で読取中です。



- 本機の画面に「読取できます。原稿をセットして、PC から読取条件をセットしてください」と表示されている場合は、ネットワークTWAIN機能の待機画面です。［接続解除］を押して、メール/ファイル送信待機画面にします。

参照

⇒P.20「ネットワークTWAIN待機画面」

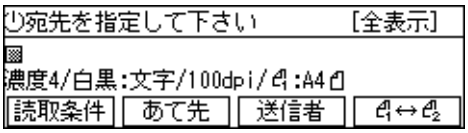
- 本機の画面2行目にファイル送信パス名が表示されている場合は、［任意ファイル送信入力］の待機画面です。［戻る］を押して、メール/ファイル送信待機画面にします。

あて先を指定する

あて先の指定をします。登録してある中から、100 件まで同時に送ることができます。Cc で送る相手先と、送信メールの件名もここで指定できます。

To:を指定する

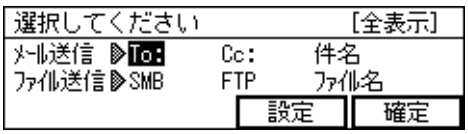
1 **［あて先］を押します。**



補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、あて先を更新します。⇒ P.46「アドレス帳自動更新」

2 **［To:］が選択されていることを確認して、［設定］を押します。**



補足

❒ ［To:］が選択されていないときは、【▷】または【◁】キーで反転状態にします。

メールのあて先が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信相手を反転状態にし、［選択］を押します。**

選択したあて先にチェックが付きます。

4 **複数の人に送信する場合は、続けて別の送信相手を反転状態にして［選択］を押します。**

補足

❒ あて先から外したいときには、該当の送信相手を反転状態にして、［選択解除］を押します。

見出しを使ってあて先を検索する

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

❒ Web ステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

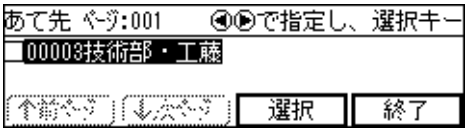
❷ 【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。

該当の所属見出しに含まれるあて先が表示されます。

補足

❒ 各あて先の所属見出しは、Web ステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［所属見出し］で設定します。

❸ 目的のあて先を反転状態にし、[選択]を押します。



補足

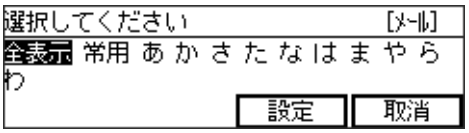
- 複数のあて先を指定したいときは、❸を繰り返します。
- あて先から外したいときには、該当のあて先を反転状態にして、[選択解除]を押します。
- 他の所属見出しからも選択したいときは、❶から繰り返します。

見出しを「全表示」に戻す

❶ 【./*】(見出し)キーを押します。

見出しが表示されます。

❷ 【◁】または【▷】キーを使って[全表示]を反転状態にし、[設定]を押します。



5 あて先をすべて選択し終えたら、[終了]を押します。

2の送信選択画面に戻ります。

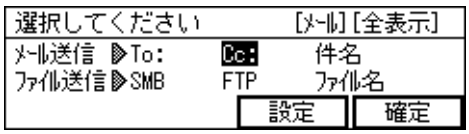
補足

- 続いてCc:や件名の指定をしない場合は、[確定]を押します。「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したあて先が表示されています。複数のあて先を指定したときは、【▷】または【◁】キーで表示されていないあて先を確認できます。

Cc:を指定する

直接の送り先ではないが、メールでやりとりしていることやそのメールの内容を知らせておきたい相手がいる場合は、Cc:に指定します。同時に指定できる送り先は、To:とCc:を合わせて100件以内となります。

1 【▷】または【◁】キーを使って、[Cc:]を反転状態にして、[設定]を押します。



あて先が表示されます。

2 「To:を指定する」の**3**から**4**の手順と同様にして、Cc:を指定します。

3 Cc:をすべて選択し終えたら、[終了]を押します。

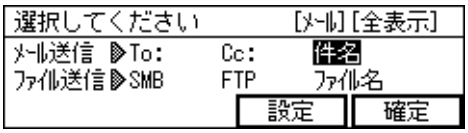
1の送信選択画面に戻ります。

補足

- 続いて件名の指定をしない場合は、[確定]を押します。「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したあて先(To:)が表示されています。複数のあて先(To:)を指定したときは、【▷】または【◁】キーで表示されていないあて先を確認できます。

件名を指定する

1 **【▷】または【◁】キーを使って、[件名]を反転状態にして、[設定]を押します。**



件名が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーや[↓次ページ]、[↑前ページ]を押して、目的の件名を反転状態にし、[選択]を押します。**

選択した件名にチェックが付きます。

補足

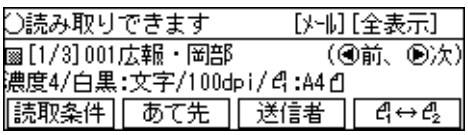
- 別の件名を[選択]すると、前に選択した件名は解除されます。
- 件名の指定を解除したいときは、選択した件名を反転状態にし、[選択解除]を押します。

3 **[終了]を押します。**

1の送信選択画面に戻ります。

4 **[確定]を押します。**

「読み取りできます」画面が表示されます。2行目に指定したあて先が表示されています。



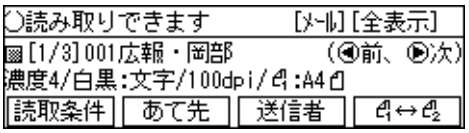
補足

- 複数のあて先（To:）を指定したときは、【▷】または【◁】キーで、表示されていないあて先を確認できます。

読取条件を指定する

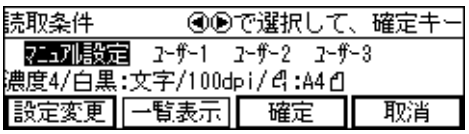
読取条件の指定ができます。指定を省略した場合は、[読取条件] で [デフォルト] として登録した条件で読み取られます。

1 **[読取条件] を押します。**



読取条件選択画面が表示されます。

2 **登録済みの読取条件で読み取るか、個別に指定するかを選択します。**



参照

設定されている読取条件の詳細を確認できます。⇒P.100「読取条件の詳細を確認する」

補足

- [デフォルト] で登録した読取条件で読み取りを行いたいときは、[取消] を押します。
- [ユーザー 1] ～ [ユーザー 3] に登録された内容の一部を直接変更することはできません。一部のみを変更して読み取りたいときは、一度、元になる条件を [ユーザー 1] ～ [ユーザー 3] の中から選択し、[確定] を押し、取り込みます。その後、変更したい項目のみを [マニュアル設定] で変更します。

登録済みの読取条件を使う場合

❶ 【▷】または【◁】キーで、[ユーザー 1]、[ユーザー 2]、[ユーザー 3] のいずれかを反転状態にし、[確定] を押します。

「読み取りできます」画面に戻り、指定した読取条件が3行目に表示されます。

個別に設定する場合

❶ 【▷】または【◁】キーで、[マニュアル設定] を反転状態にし、[設定変更] を押します。

読取条件設定画面が表示されます。

❷ 【▷】または【◁】キーや [↓次ページ]、[↑前ページ] を使って、設定を変更したい項目を反転状態にし、[設定] を押します。

参照

設定項目の詳細については、P.50「[読取条件] の設定項目」を参照してください。

❸ 【▷】または【◁】キーを使って、指定したい内容を反転状態にし、[確定] を押します。

補足

- [取消] を押すと、選択がキャンセルされ、現在設定されている内容に戻り、前画面に戻ります。
- [解像度] で [任意解像度] を選択した場合と、[原稿サイズ] で [任意エリア設定] を選択した場合は、テンキーを使って数値を入力します。

❹ 設定したい項目の数だけ、❷と❸を繰り返します。

❺ 各項目の設定が終わったら、[前メニュー] を押します。

読取条件選択画面に戻ります。

❻ [確定] を押します。

「読み取りできます」画面が表示されます。3行目には、設定された読取条件が表示されています。

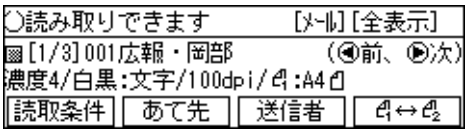
読取条件の詳細を確認する

指定した読取条件の詳細が確認できます。

補足

❒ マニュアル設定を行う前であれば、[マニュアル設定]を選択するとデフォルトの読取条件の確認ができます。マニュアル設定後は、設定した［マニュアル設定］の確認になります。

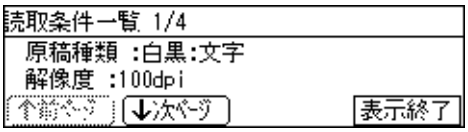
1 **［読取条件］を押します。**



読取条件選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、詳細を確認したい読取条件名を反転状態にし、［一覧表示］を押します。**

3 **[↓次ページ]や[↑前ページ]を押して、読取条件の各項目と設定内容を表示させます。**



4 **確認が終わったら、［表示終了］を押します。**

5 **［取消］または［確定］を押します。**

補足

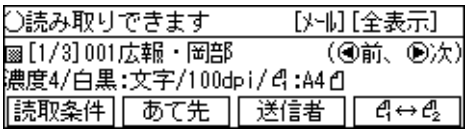
❒ [確定]を押すと、確認した読取条件が指定されます。参照だけで指定しないときは［取消］を押します。

1の「読み取りできます」画面に戻ります。

送信者を指定する

Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［送信者として使用］を「する」で登録したユーザーを、本機の操作画面の［送信者］に表示し、送信者として指定できます。Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」にして、［管理者メールアドレス］を登録した場合は、送信者の指定を省略すると、管理者メールアドレスで送信されます。［送信者初期値］を「なし」に設定した場合は、送信者の指定を必ず行ってください。

1 **［送信者］を押します。**



送信者選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を使って、送信者として指定したいユーザーを反転状態にし、［選択］を押します。**

補足

- ❒ 別のユーザーを［選択］すると、前に選択したユーザーは解除されます。
- ❒ 送信者の指定を解除したい場合は、選択したユーザーを反転状態にして、［選択解除］を押します。
- ❒ Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］で［パスワード保護］を「する」に設定したユーザーを指定すると、パスワード入力を求める画面が表示されます。テンキーを使って、設定したパスワードを入力してください。
- ❒ 見出しを使って送信者を検索することもできます。⇒ P.96「見出しを使ってあて先を検索する」

3 **［終了］を押します。**

「読み取りできます」画面に戻ります。

読取面を指定する

読み取る原稿が片面か両面かを指定したり、セットした原稿の向きを指定して、送信されたイメージが正しい向きでPC上に表示されるようにします。

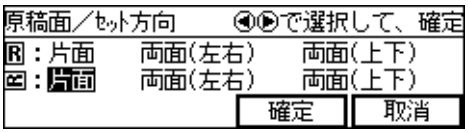
参照

原稿の向きと設定については、P.82「原稿の片面だけを読み取る場合」およびP.83「原稿の両面を読み取る場合」を参照してください。

1 **[↔] を押します。**

原稿面の選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、原稿のセット状態に合わせた項目を反転状態にし、[確定] を押します。**



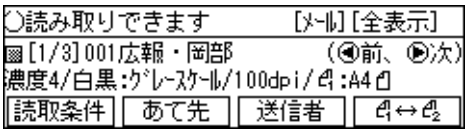
「読み取りできます」画面に戻ります。

送信する

読み取りを開始する

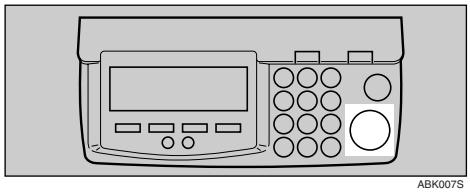
ADFに原稿をセットしたとき

1 **「読み取りできます」画面になっていることを確認します。**



「宛先を指定して下さい」画面の場合は、あて先が指定されていません。あて先を指定して、「読み取りできます」画面にします。

2 **本機の【スタート】キーを押します。**

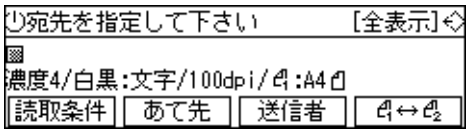


ADFから原稿が読み取られます。

補足

- ❒ 読み取りを中止したいときには**【クリア/ストップ】**キーを押します。
- ❒ **【初期設定】**キー - [スキャナー] - [読取終了後の動作] が「選択画面を表示する」に設定されている場合は、原稿を追加して送信する（[原稿追加]）か、読み取りを終了して送信するがあて名や読取条件などの指定は残す（[継続]）か、読み取りを終了し送信する（[終了]）かの選択画面が表示されますので選択してください。設定された時間内に選択しない場合は［終了］します。

読み取りが正常に終了すると、電子メール送信サーバー（SMTPサーバー）への送信が開始されます。送信中は、マークが画面右上に表示されます。



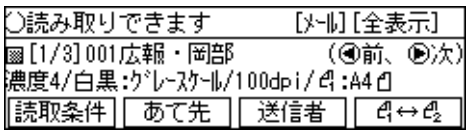
補足

- ❒ マークが表示されている間は、本機の操作ができません。
- ❒ マークが表示されている間は、本機の電源をOFFにしないでください。

電子メール送信サーバー（SMTP サーバー）への送信が終了すると、 マークが消え、メール / ファイル送信の待機画面になります。

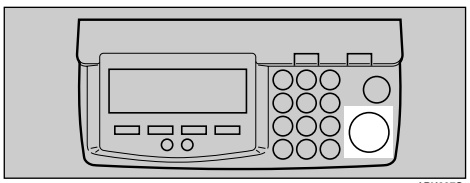
原稿ガラスに原稿をセットしたとき

1 **「読み取りできます」画面になっていることを確認します。**



「宛先を指定して下さい」画面の場合は、あて先が指定されていません。あて先を指定して、「読み取りできます」画面にします。

2 **本機の【スタート】キーを押します。**



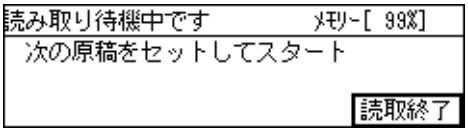
スキャナーの原稿ガラスから原稿が読み取られます。

補足

❒ 読み取りを中止したいときには本機の【クリア/ストップ】キーを押します。

1枚目の原稿の読み取りが正常に終了すると、「読み取り待機中です」の画面が表示されます。

3 続けて原稿を読み取るときには、原稿ガラスに次の原稿をセットし、本機の【スタート】キーを押します。



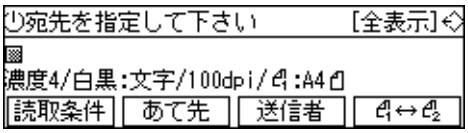
4 必要なだけ、3を繰り返します。

5 読み取りを終了するときは、[読取終了]を押します。

補足

❒ 【初期設定】キー - [スキャナー] - [読取終了後の動作] が「選択画面を表示する」に設定されている場合は、送信後にあて先や読取条件などの指定を残す（[継続]）か、残さない（[終了]）かの選択画面が表示されますので選択してください。設定された時間内に選択しない場合は [終了] します。

読み取りが正常に終了すると、電子メール送信サーバー（SMTPサーバー）への送信が開始されます。送信中は、⇔マークが画面右上に表示されます。



補足

❒ ⇔マークが表示されている間は、本機の操作ができません。

❒ ⇔マークが表示されている間は、本機の電源をOFFにしないでください。

電子メール送信サーバー（SMTP サーバー）への送信が終了すると、⇔ マークが消え、メール / ファイル送信の待機画面になります。

送信の確認をする

クライアントPCのWebブラウザーを使って、送信状態の確認ができます。

1 **Webブラウザーを起動して、［アドレス］欄に本機のIPアドレスを入力します。⇒ P.57「本機へのアクセス手順」**

補足

❒ 本機のIPアドレスは、本機の**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［IPアドレス］で確認できます。

Webステータスモニター画面になります。

2 **メインメニューの［管理情報］をクリックします。**

3 **サブメニューの［送信情報］をクリックします。**

4 **送信種別や日時、送信先、文書名などから、該当の行を探し、［結果］欄を確認します。**

補足

❒ 送信情報は、最大20件分が表示されます。20件を超えた場合は、古いものから順に削除されます。また、送信情報は本機の電源OFFにより、クリアされます。

❒ ［結果］欄には、「待機中」、「配信中」、「完了」、「不達」のいずれかが表示されます。

❒ なんらかの理由で送信ができなかった場合は、［結果］欄に「不達」と表示されます。

❒ メール送信時には、［送信種別］欄に「メール」、Windows共有フォルダーへのファイル送信時には「ファイル送信」、FTPサーバーへのファイル送信時には「FTP送信」、Ridoc配信時には「配信」と表示されます。

❒ ［原稿］欄には、送信した原稿枚数が表示されます。

7. 共有フォルダーにファイル送信する

ここでは、読み取った画像ファイルを、同一ネットワーク内のWindows共有フォルダーに送信する手順を説明します。登録済みの共有フォルダーへ送信する場合と、任意の共有フォルダーに送信する場合に分けて説明します。

登録済みの共有フォルダーへファイル送信する

Webステータスモニターで登録したWindows共有フォルダーへ、本機の操作部からファイル送信します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「ファイル送信（SMB）の手順の概要」の流れ図の右に書かれているページを参照してください。

ファイル送信（SMB）の手順の概要

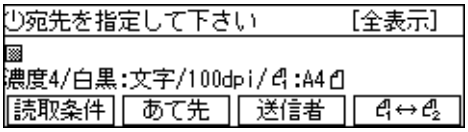
本機の操作部を使って、登録済みのWindows共有フォルダーにファイル送信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の［SMB］の指定のみが必須となります。

原稿をADFまたは原稿ガラスにセットする	⇒ P.95 「原稿をセットする」
［あて先］［SMB］の指定をする	⇒ P.108 「共有フォルダーを指定する」
［ファイル名］の指定をする	⇒ P.109 「ファイル名を指定する」
［読取条件］の指定をする	⇒ P.99 「読取条件を指定する」
[ ] の指定をする	⇒ P.102 「読取面を指定する」
本機の【スタート】キーを押す	⇒ P.103 「読み取りを開始する」
Webブラウザーで送信の確認をする	⇒ P.105 「送信の確認をする」

共有フォルダーを指定する

あて先として、登録してあるWindows共有フォルダーの中から1件のみ選択できます。

1 ［あて先］を押します。

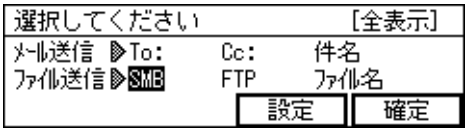


補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、あて先を更新します。⇒ P.46「アドレス帳自動更新」

送信選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、「ファイル送信」の［SMB］を反転状態にして、［設定］を押します。**



登録されている共有フォルダー名が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信したいフォルダーを反転状態にし、［選択］を押します。**

選択したフォルダーにチェックが付きます。

補足

❒ 別のフォルダーを［選択］すると、前に選択したフォルダーは解除されます。

見出しを使ってあて先を検索する

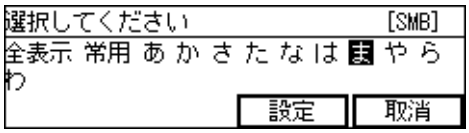
❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

❒ Webステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

❷ 【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。

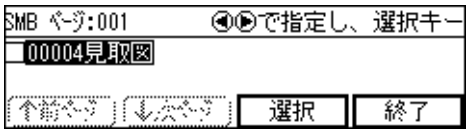


該当の所属見出しに含まれるフォルダーが表示されます。

補足

❒ 所属見出しは、Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信パス］の［所属見出し］で設定します。

❸ 【▷】または【◁】キーを使って目的のフォルダーを反転状態にし、［選択］を押します。



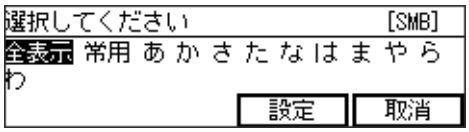
選択したフォルダーにチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

❷ 【◁】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。



4 ［終了］を押します。

保護パスワードの入力画面になります。

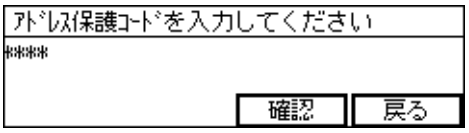
5 **本機のテンキーを使って、パスワードを入力します。**

補足

- Webステータスモニターの[設定]-[ファイル送信パス]の［保護パスワード］で設定した4～8桁の数字を入力します。

入力した数字は＊で表示されます。

6 **［確認］を押します。**



送信選択画面に戻ります。

補足

- 続いて、ファイル名の指定をしない場合は、［確定］を押します。「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したフォルダー名が表示されています。

ファイル名を指定する

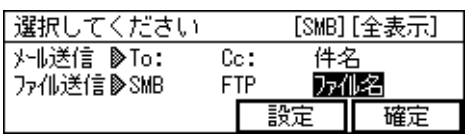
登録してあるファイル名の中から1件のみ指定できます。ファイル名の指定を省略したときは、「DOC」を指定したことになります。

1 **送信選択画面が表示されていることを確認します。**

補足

- 表示されていない場合は、[あて先]を押します。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、［ファイル名］を反転状態にして、［設定］を押します。**



ファイル名が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、指定したいファイル名を反転状態にし、［選択］を押します。**

選択したファイル名にチェックが付きます。

補足

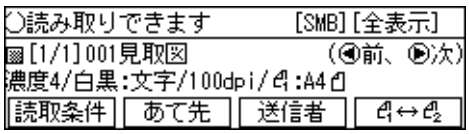
- 別のファイル名を［選択］すると、前に選択したファイル名は解除されます。
- ファイル名の指定を解除したい場合は、選択したファイル名を反転状態にして、［選択解除］を押します。

4 **［終了］を押します。**

送信選択画面に戻ります。

5 **［確定］を押します。**

「読み取りができます」画面が表示されます。

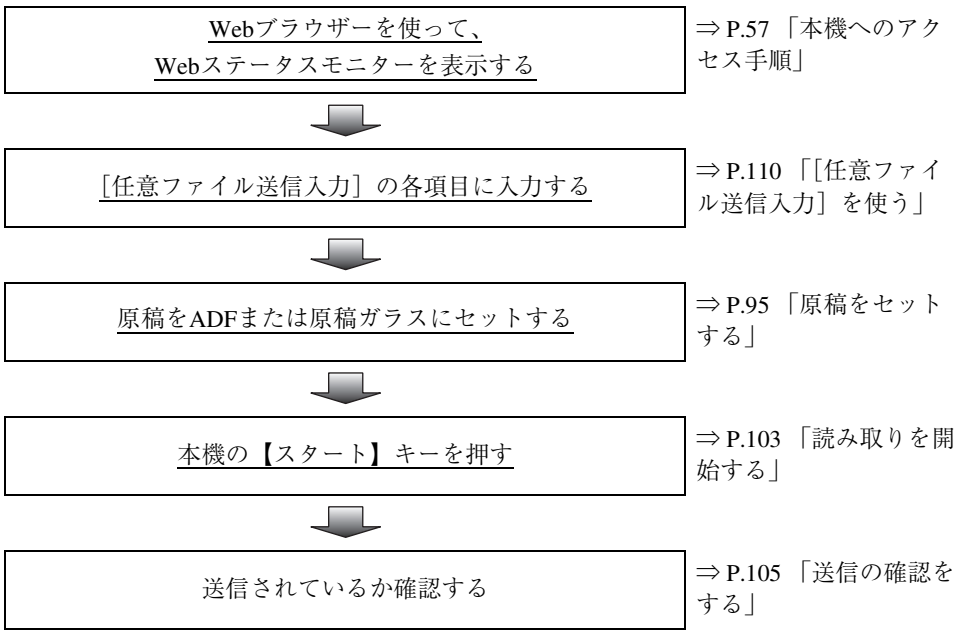


任意の共有フォルダーにファイルを送信する

ここでは、同一LAN上の任意のWindows共有フォルダーに画像ファイルを送信する手順について説明します。原稿のセットのしかたや送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「任意ファイル送信の手順の概要」の流れ図の右に書かれているページを参照してください。

任意ファイル送信の手順の概要

同一ネットワーク上の任意の Windows 共有フォルダーに画像ファイルを送信する手順の流れを示します。下線は必須作業項目です。



［任意ファイル送信入力］を使う

Webブラウザーを使って、同一ネットワーク上の任意のWindows共有フォルダーに、任意の読取条件でファイル送信ができます。

1 **Webブラウザーを起動して、［アドレス］欄に本機のIPアドレスを入力します。⇒ P.57 「本機へのアクセス手順」**

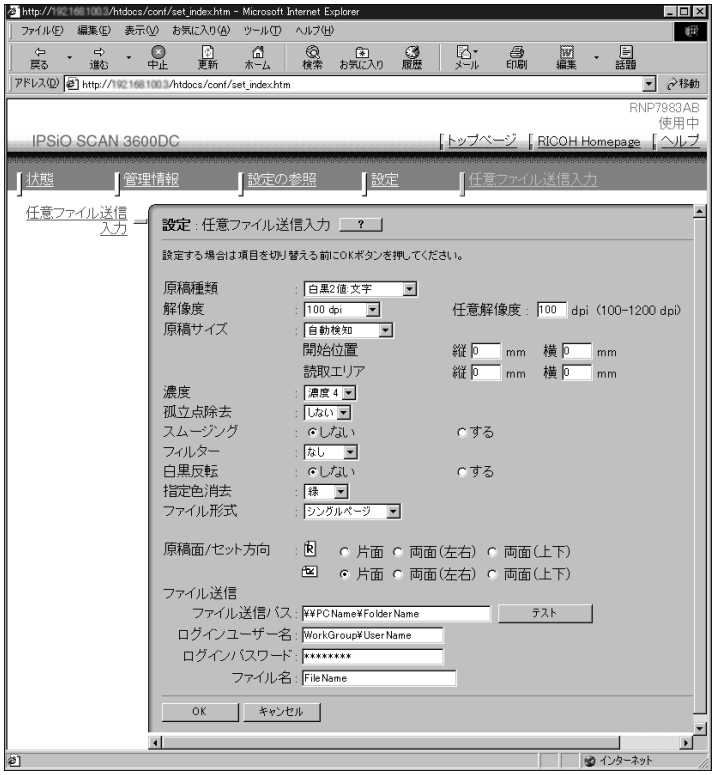
補足

❒ 本機のIPアドレスは、本機の**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［IPアドレス］から確認できます。

Webステータスモニター画面になります。

2 メインメニューの［任意ファイル送信入力］をクリックします。

任意ファイル送信入力画面になります。



3 ［原稿種類］から［ファイル形式］までの読取条件を指定します。

参照

指定する項目の詳細については、P.50 「［読取条件］の設定項目」を参照してください。

4 ［原稿面/セット方向］を指定します。

参照

指定する項目の詳細については、P.81 「原稿の向きと読取面について」を参照してください。

5 ［ファイル送信］の各項目を指定をします。

❖ ファイル送信パス

送信するフォルダーを「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

- ❒ コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、送信先のコンピューター名は半角で設定してください。なお、送信先のOSがWindows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0のいずれかでコンピューター名が全角の場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。送信先のOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。
- ❒ 現在、任意ファイル送信入力の指定に使っているPC内のフォルダーに送信したい場合も、あらかじめそのフォルダーを書き込み可能な共有フォルダーに設定しておく必要があります。また、［ファイル送信パス］のコンピューター名（またはIPアドレス）は省略できません。

❖ ログインユーザー名

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で入力します。

補足

- ❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。
- ❒ Windows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。
- ❒ クライアント PC 上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

- ❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、指定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を入力します。半角で20文字、全角なら10文字まで入力できます。

補足

- ❒ Windowsのファイル名として入力できない文字（¥/:＊?”<>|および先頭の「.」やスペース）は使用できません。

6 ［OK］をクリックします。

「任意ファイル送信入力を設定しました。もう一度入力するためには、任意ファイル送信入力をクリックしてください」と表示され、指定が本機に転送されます。

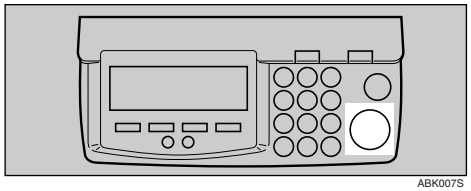
本機の画面は「読み取りできます」画面になります。

補足

- ❒ Webブラウザーから入力したファイル送信パスの区切り記号「¥」は、本機の操作画面では「/」で表示されます。

7 原稿をセットします。

8 本機の【スタート】キーを押します。



原稿が読み取られます。

補足

❒ 読み取りを中止したいときには本機の**【クリア/ストップ】**キーを押します。

参照

原稿ガラスにセットしたときは、P.103 「原稿ガラスに原稿をセットしたとき」を参照してください。

読み取りが正常に終了すると、共有フォルダーへのファイル送信が開始されます。ファイル送信中は、⇔マークが画面右上に表示されます。

補足

❒ ⇔マークが表示されている間は、本機の操作ができません。

9 本機の［戻る］を押します。

メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面になります。

補足

❒ 続けて［任意ファイル送信入力］の条件を変更して送信したい場合も、［戻る］を押して、メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面に戻してください。メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面に戻らずに、新たな［任意ファイル送信入力］を行おうとすると、「スキャナー使用中のため、設定できません。しばらくしてから設定してください」と表示されます。

共有フォルダーに送信されたファイルについて

ここでは、Windows 共有フォルダーに送信された画像データのファイル名や格納場所について説明します。

保存フォルダー

ファイル送信時に、送信する共有フォルダーを指定しますが、指定した共有フォルダー配下に本機の識別名と同じ名前のサブフォルダーが作られ、画像ファイルが保存されます。

- 例1
  指定フォルダー：¥¥PCname¥Folder
  本機の識別名：RNP6219DA
  →保存されるフォルダー：
  ¥¥PCname¥Folder¥RNP6219DA

補足

❒ 本機の「識別名」は、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定します。

ファイル名

Windows 共有フォルダーにファイル送信された画像データのファイル名は、次のようになります。なお、［ファイル名］未選択のときは「DOC」を選択したときと同様になります。

補足

❒ ［任意ファイル送信入力］からファイル送信するときは、ファイル名を未指定にはできません。登録済みファイル名とは別に任意のファイル名を指定できますので、必ず指定してください。

❖ 読取時刻付き

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「する」に設定した場合は、「ファイル名年月日時分秒（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例2
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image030916130721(0001).TIF
  image030916130721(0002).TIF
  image030916130721(0003).TIF
  image030916130721(0004).TIF
- 例3
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC030916130721(0001).PDF

❖ 読取時刻なし

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合は、「ファイル名（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例4
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image(0001).TIF
  image(0002).TIF
  image(0003).TIF
  image(0004).TIF
- 例5
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC(0001).PDF

参照

ファイル形式と拡張子については、P.52「ファイル形式」を参照してください。

補足

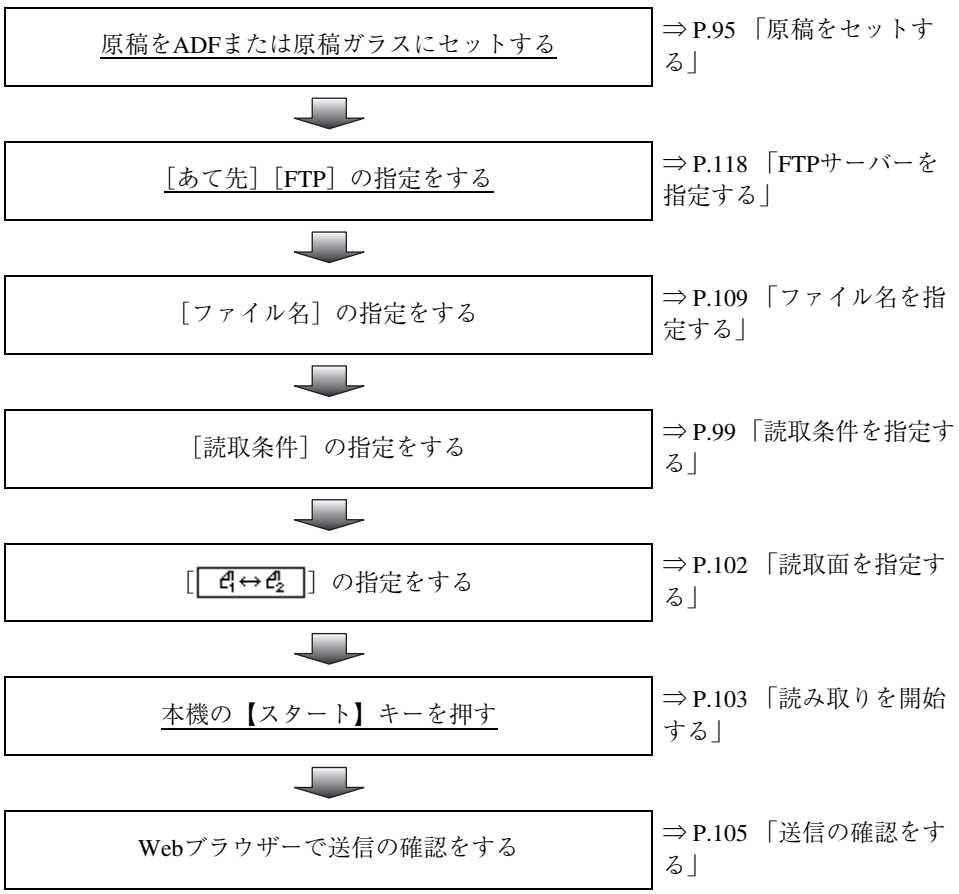
- 例2～5のファイルは、例1の共有フォルダー内に送信されます。
- Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合、同じファイル名を指定（未指定も含む）し、拡張子が同じになったときは、画像データファイルは上書きされますのでご注意ください。

8. FTPサーバーにファイル送信する

ここでは、読み取った画像ファイルを、FTPサーバーにファイル送信する手順を説明します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「FTPファイル送信の概要」の流れ図の右に書かれているページを参照してください。

FTPファイル送信の概要

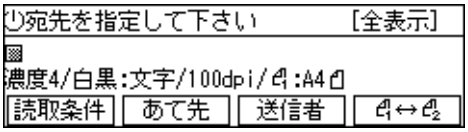
登録済みのFTPサーバーにファイル送信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の［FTP］の指定のみが必須となります。



FTPサーバーを指定する

あて先として、登録してあるFTPサーバーの中から1件のみ選択できます。

1 **［あて先］を押します。**

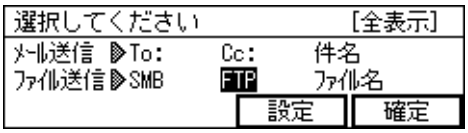


補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、アドレス帳を更新します。⇒ P.46「アドレス帳自動更新」

送信選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、「ファイル送信」の［FTP］を反転状態にして、［設定］を押します。**



登録されているFTPサーバー名が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信したいFTPサーバーを反転状態にし、［選択］を押します。**

選択したFTPサーバーにチェックが付きます。

補足

❒ 別のFTPサーバーを［選択］すると、前に選択したFTPサーバーは解除されます。

見出しを使ってあて先を検索する

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

❒ Webステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

❷ 【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。

該当の所属見出しに含まれるFTPサーバー名が表示されます。

補足

❒ 所属見出しは、Webステータスモニターの［設定］-［FTPサーバー］の［所属見出し］で設定します。

❸ 【▷】または【◁】キーを使って目的のFTPサーバーを反転状態にし、［選択］を押します。

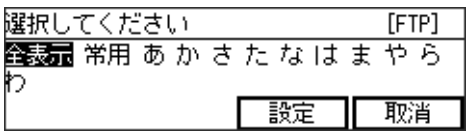
選択したFTPサーバーにチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

❷ 【◁】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。



4 **［終了］を押します。**

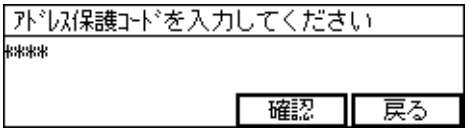
保護パスワードの入力画面になります。

5 **本機のテンキーを使って、パスワードを入力します。**

補足

❒ Webステータスモニターの［設定］-［FTPサーバー］の［保護パスワード］で設定した4～8桁の数字を入力します。

6 **［確認］を押します。**



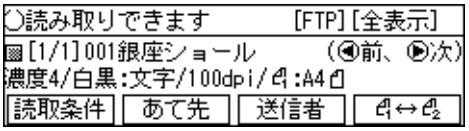
送信選択画面に戻ります。

補足

❒ 続いてファイル名の指定をするときは、P.109「ファイル名を指定する」を参照してください。

7 **［確定］を押します。**

「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したFTPサーバー名が表示されています。



FTPサーバーに送信されたファイルについて

ここでは、FTPサーバーにファイル送信された画像データのファイル名や格納場所について説明します。

保存場所

ファイル送信（FTP）時に、登録済みのFTPサーバー名を指定しますが、登録されたFTPサーバー配下のフォルダーの配下に、本機の識別名と同じ名前のサブフォルダーが作られ、画像ファイルが保存されます。

- 例1
  指定FTPサーバー：¥¥FTPserver¥Folder
  本機の識別名：RNP6219DA
  →保存される場所：
  ¥¥FTPserver¥Folder¥RNP6219DA

補足

❒ 本機の「識別名」は、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定します。

❒ FTPサーバーに指定したディレクトリーがない場合は、自動作成します。

ファイル名

FTPサーバーにファイル送信された画像データのファイル名は、次のようになります。なお、［ファイル名］未選択のときは「DOC」を選択したときと同様になります。

❖ 読取時刻付き

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「する」に設定した場合は、「ファイル名年月日時分秒（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例2
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image030916130721(0001).TIF
  image030916130721(0002).TIF
  image030916130721(0003).TIF
  image030916130721(0004).TIF
- 例3
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC030916130721(0001).PDF

❖ 読取時刻なし

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合は、「ファイル名（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例4
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image(0001).TIF
  image(0002).TIF
  image(0003).TIF
  image(0004).TIF
- 例5
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC(0001).PDF

参照

ファイル形式と拡張子については、P.52「ファイル形式」を参照してください。

補足

❒ 例2～5のファイルは、例1のフォルダー内にファイル送信されます。Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］の［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合、同じファイル名を指定（未指定も含む）し、拡張子が同じになったときは、画像データファイルは上書きされますのでご注意ください。

9. Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用して配信する

ここでは、読み取った画像ファイルを、Ridoc Document Router/Pro/Ltの機能を利用して配信する手順を説明します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「Ridoc配信の概要」の流れ図の右に書かれているページを参照してください。

Ridoc配信の概要

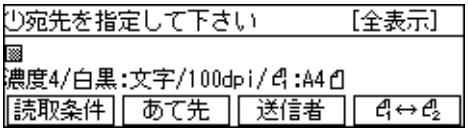
Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳および配信機能を利用して、本機で読み取った画像ファイルを配信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の指定のみが必須となります。

*1 配信されるイメージデータのファイル形式・圧縮形式は、Ridoc Document Router/Pro/Ltで設定したファイル形式・圧縮形式になります。

配信先を指定する

Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳を使って、最大100件まで同時に指定ができます。

1 **［あて先］を押します。**

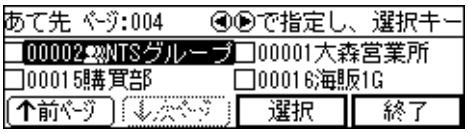


補足

- ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、Ridoc Document Router/Pro/Ltの最新のアドレス帳を読み込みます。⇒ P.46「アドレス帳自動更新」

Ridoc Document Router/Pro/Ltに登録してあるあて先（個人、グループ、フォルダー、メールアドレス先の各名称）が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、配信したいあて先を反転状態にし、［選択］を押します。**



選択したあて先にチェックが付きます。

補足

- グループあて先には、マークが付きます。
- 選択済みのあて先を解除したいときには、該当のあて先を反転状態にして、［選択解除］を押します。

見出しを使ってあて先を検索する

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

- Ridoc Document Router/Pro/Ltで設定した見出しが表示されます。

❷ 【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。

該当の所属見出しに含まれるあて先名が表示されます。

補足

- 所属見出しは、Ridoc Document Router/Pro/Ltで設定します。

❸ 【▷】または【◁】キーを使って目的のあて先を反転状態にし、［選択］を押します。

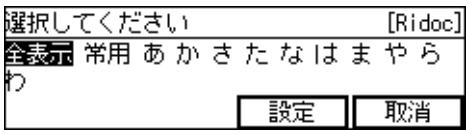
選択したあて先にチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

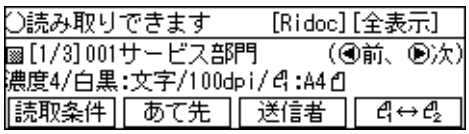
❷ 【◁】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。



3 **必要なだけ2を繰り返して配信先をすべて指定します。**

4 **［終了］を押します。**

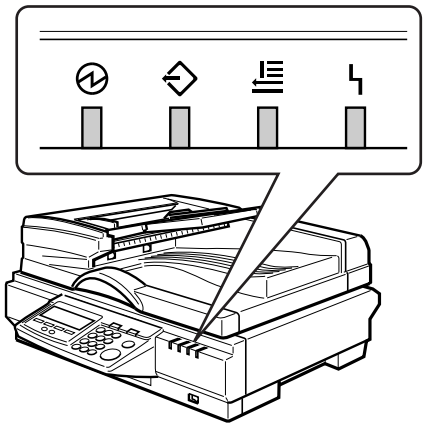
「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定した配信先名が表示されています。複数指定した場合は、【▷】または【◁】キーを使って確認ができます。



こんなときには

インジケーターの点灯・点滅がいつもと違うとき

ここでは、本機正面右のインジケーターの点灯・点滅・消灯の意味と対処方法について説明します。



				エラーの内容	対象方法
◎	−	−	◎	ADFまたはADFのカバーが正しく閉じられていません。	ADFまたはADFのカバーを閉めてください。
◎	−	○	◎	原稿がADFの中に詰まっています。	詰まった原稿を取り除いてください。
◎	−	◎	◎	原稿がADFに正常に送られていません。	正しく送られなかった原稿を取り除いてください。
○	○	○	○	システムエラー	サービス実施店に連絡してください。

◎:点灯

○:点滅

−:消灯

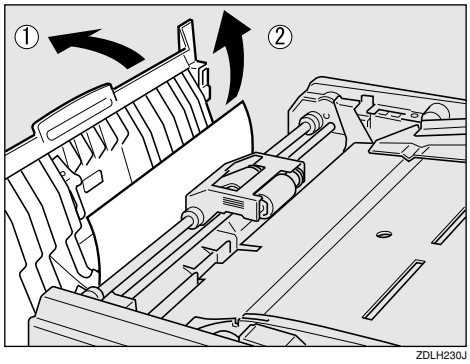
補足

❒ ここで示されていない点灯や点滅が発生しているときは、本機の電源スイッチを切ってからもう一度電源スイッチを入れてください。それでもエラーが消えない場合は、エラーの内容をサービス実施店に連絡してください。

ADFに原稿が詰まったとき

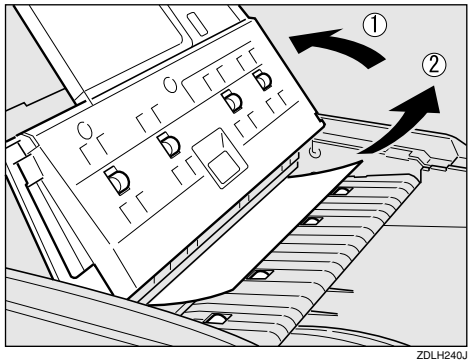
ADFに原稿が詰まったときは、以下の手順で原稿を取り除いてください。

1 ADFのカバーを開き、原稿が詰まっている場合は取り除きます。



ZDLH230J

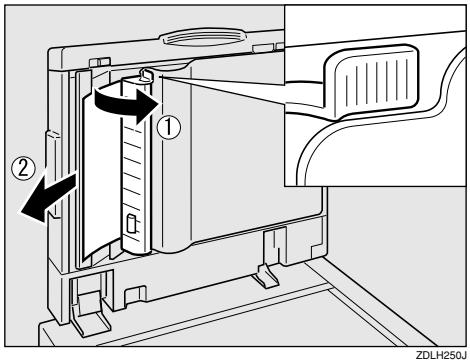
2 原稿テーブルを開き、原稿が詰まっている場合は取り除きます。



ZDLH240J

3 ADFを開きます。

4 緑色のつまみを下げ、原稿が詰まっている場合は取り除きます。



ZDLH250J

思いどおりに読み取れないとき

状態	原因・対処方法・参照先
読み取ったイメージが汚れる	• 原稿ガラス、ADF原稿ガラス、圧版または原稿ローラーが汚れています。 • 原稿ガラス、ADF原稿ガラス、圧版または原稿ローラーを清掃してください。⇒ P.135「清掃」
イメージがゆがむ、ずれる	• 読み取り中に原稿が動きました。読み取り中は原稿を動かさないでください。 • 原稿が原稿ガラスから浮き上がっていました。原稿を原稿ガラスに十分押し当ててください。
イメージの上下が逆に読み取られる	• 原稿が上下逆にセットされていました。原稿の向きを正しくセットしてください。⇒ P.81 「原稿の向きと読取面について」
イメージが読み取れない	• 原稿の表と裏が逆にセットされていました。正しくセットしてください。 • 原稿ガラスにセットするときは、読み取りたい面を下に向け、ADFにセットするときは、読み取りたい面を上に向けてください。

エラーメッセージが表示されたとき

ここでは、本機の操作パネルに表示されたエラーメッセージを、読取条件に関するエラー、本体に関するエラー、Ridoc配信/ファイル送信機能に関するエラーに分類して、原因や対処方法を記載しています。また、Webブラウザーに表示されるエラーメッセージについても、原因や対処方法を記載しています

補足

❒ ここで示されていないエラーメッセージが表示された場合は、本機の電源スイッチを切ってから、もう一度電源スイッチを入れてください。それでもメッセージが消えないときは、エラー内容とエラー番号をサービス実施店に連絡してください。

参照

ネットワークTWAINスキャナーとして使用しているときに、パソコンにエラーメッセージが表示された場合は、ネットワークTWAINドライバーのヘルプを参照してください。

本体に関するエラーが表示されたとき

メッセージ	原因・対処方法・参照先
カバーオープン ADF左カバーを閉めてください。	• ADFの左カバーが開いています。ADFの左カバーを閉じてください。
原稿ミスフィード ADFの中の原稿を取り除いてください。	• ADFに原稿が詰まっています。詰まっている原稿を取り除いてください。
エラー発生中 SC4xxx 電源を入れ直し、再度エラーが発生する場合には、サービスにご連絡ください。	• 本機が正しくネットワークに接続されているか確認してください。 • 冬季に本機を外から居室の暖かいところへ移動するなどして、結露した可能性がある場合は、電源を入れずに1時間以上放置し、機械を温度になじませてください。原稿ガラスの曇りが取れた後も、内部のレンズやミラーの曇りは残っていますので、上記時間が必要です。原稿ガラスの曇りがなくなったら電源を入れて放置すると待ち時間が短縮されます。 • 電源を入れ直します。それでもエラーが発生する場合には、エラー表示とエラー番号をサービスにご連絡ください（「SC4xxx」がエラー番号です。エラーの種類によって表示される番号が異なります）。

読取条件に関するエラーが表示されたとき

メッセージ	原因・対処方法・参照先
原稿サイズがわかりません 原稿がセットされていることを確認して 原稿サイズを設定してください。 ［確認］	原稿ガラスに原稿がセットされていません。またはセットされていますが、原稿サイズを自動検知できませんでした。 • 原稿がセットされていないときはセットしてください。 • 原稿サイズはADFの開閉で検知されますので、30度以上の角度で確実に開けてください。 • 小さいサイズや海外で使われているサイズなど自動的にサイズを検知できないサイズがあります。詳しくはP.79「自動的に読み取れる原稿サイズ」を参照してください。

メッセージ	原因・対処方法・参照先
1文書最大サイズを超えました 読み取りを中止して画像データを破棄します。 ［確認］	1枚目の原稿の読み取りができませんでした。 • 読取条件の［原稿種類］を見直してください。白黒原稿に対して「フルカラー」が設定されていませんか。また、グラフにのみカラーが使われている原稿であれば「白黒2値：文字・写真」で充分です。 • 読取条件の［解像度］を見直してください。必要以上に高解像度が指定されている場合は、解像度を下げてください。一般に、文字の読み取りであれば100dpi～200dpiで充分です。 • ［原稿種類］が「白黒2値：文字」、「白黒2値：文字・写真」、「白黒2値：写真」のときは、設定の［スキャナー］の［圧縮設定（2値）］を「する」、「白黒：グレースケール：、「カラー：フルカラー」のときは［圧縮設定（多値）］の画質を、圧縮率が高くなるように変更してください。 • メール送信時はWebステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信メールサイズ制限］、Ridoc配信時はWebステータスモニターの［設定］-［配信］の［1文書最大サイズ制限］、ファイル送信（SMB/FTP）時はWebステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］の［1文書最大サイズ制限］を大きくします。
1文書最大サイズを超えました 送信：読取り済みのデータを送信します。 破棄：画像データを破棄します。 ［送信］［破棄］	2枚目以降の原稿の読み取りができませんでした。 • ［送信］を選択すると、読み取りを終了した原稿のデータを送信されます。マークが消えてから、もう一度、**【スタート】**キーを押して、残りの原稿を読み取ります。 • ［破棄］を選択した場合は、送信されません。読取条件や圧縮方法を変更して1回で送信できるようにするか、原稿を分割して再送信してください。

Ridoc配信、メール/ファイル送信時に、本体操作画面にエラーが表示されたとき

メッセージ	原因・対処方法・参照先
(Ridoc配信機能を使用時に) あて先のアドレス帳を更新中です しばらくお待ちください	[スキャナー]の[アドレス帳自動更新]で「する」に設定している場合、[あて先]を押すと配信サーバー(Ridoc Document Router/Pro/Ltをインストールしたコンピューター)からあて先/送信者の情報を取得してアドレス帳を更新します。これは常に最新のあて先情報を使用できるようにするためです。あて先/送信者の登録数やネットワークの状態により時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。
(Ridoc配信機能を使用時に) アドレス帳の更新に失敗しました もういちど実行しますか。 [はい][いいえ]	配信サーバー(Ridoc Document Router/Pro/Ltをインストールしたコンピューター)からアドレス帳(あて先や送信者のリスト)の情報を取得できませんでした。[はい]をクリックしてもう一度実行してみてください。 同じメッセージが表示されるときは以下の原因が考えられます。 • 配信サーバーが起動していません。または、配信サーバーのサービスが開始されていません。 • 配信サーバーの空きディスク容量が不足したため、配信サーバーが一時停止しています。
サーバーと通信できません サーバーの動作状況や接続を確認してください。 [確認]	• ファイル(SMB)送信の指定を行ったときは、指定したWindows共有フォルダーがあるコンピューターの電源が遮断されていないか確認してください。 • Ridoc配信時は、Ridoc Document Router/Pro/Ltがインストールされているコンピューター(配信サーバー)の電源が遮断されていないか確認してください。 • [任意ファイル送信入力]でファイル送信したときは、Webブラウザーの[戻る]ボタンをクリックして、[ログインパスワード]を入力し[テスト]ボタンをクリックしてみてください。“ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください”と表示された場合は、[ファイル送信パス]が間違っています。なお、[任意ファイル送信入力]では、[テスト]ボタンで指定したファイル送信パスに接続できるか確認してから、ファイル送信してください。

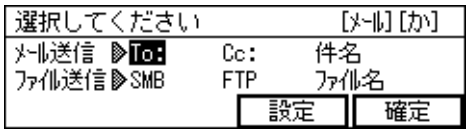
メッセージ	原因・対処方法・参照先
画像の送信に失敗しました もう一度同じ設定で読み取って 送信してください。 ［確認］	• ネットワーク通信異常のために、画像データの送信に失敗しました。ネットワークケーブルがきちんと接続されているか確認して、もう一度同じ設定で読み取り、送信しなおしてください。 読み取り直しても同じメッセージが表示されるときは、ネットワークの混雑が原因として考えられますので、ネットワーク管理者に相談してください。 • ファイル送信（SMB)の場合は、保存先のコンピューター名やフォルダー名が変更されている可能性があります。Webステータスモニターの［設定の参照］-［ファイル送信パス］で登録したコンピュータ名や共有フォルダー名を、Windowsの「ネットワーク」で確認してください。 • ［任意ファイル送信入力］でファイル送信したときは、Webブラウザーの［戻る］ボタンをクリックして、［ログインパスワード］を入力し［テスト］ボタンをクリックしてみてください。“ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください”と表示された場合は、［ログインユーザー名］や［ログインパスワード］が間違っています。なお、［任意ファイル送信入力］では、［テスト］ボタンで指定したファイル送信パスに接続できるか確認してから、ファイル送信してください。
最大読取ページ数を超えました 続きを読み取ってください。 ［確認］	連続して読み取れる最大ページ数（100ページ）に達しました。［確認］を押してください。読み取った原稿が送信されます。指定したあて先と読取条件の設定は［確認］を押したあとも同じ内容で設定されていますので、続きの原稿をセットして**【スタート】**キーを押してください。

Webブラウザーの画面にエラーが表示されたとき

メッセージ	原因・対処方法・参照先
ログインユーザー名の値が不適切です。正しい値を設定してください。	• ［ログインユーザー名］がxx¥xxの形式で入力されていないときのメッセージです。［ログインユーザー名］は、「ワークグループ名¥ユーザー名」（ドメインに所属している場合は「ドメイン名¥ユーザー名」）の形式で入力します。 （例） ワークグループ名：abcd ユーザー名：aoki → abc¥aoki
ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください。	• ［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］のいずれかに入力ミスがあります。 • Windows 95/98/98 SE/Meの共有フォルダーでアクセスにパスワードが必要なフォルダーに送信する場合、［ログインパスワード］にはそのパスワードを入力します。それ以外の場合は、［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。 • Windows 2000/XP、Windows Server 2003、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーに送信する場合、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名とパスワードを、［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］に入力します。 • 小文字/大文字、半角/全角の別に注意して入力します。
スキャナー使用中のため、設定できません。しばらくしてから設定してください。	• ほかのクライアントPCからネットワークTWAINスキャナーとして使われています。 • ［任意ファイル送信入力］で送信後、送信条件などの設定を変えて新たな送信を行いたいときは、本体操作部の［戻る］を押して、メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面に戻ってください。新たな設定が可能になります。

その他

状態	原因・対処方法・参照先
（本製品を複数使っているため、）ネットワークTWAINドライバーやRidoc I/O Naviなどに表示される機器識別名を変更したい。 ファイル送信（SMB）やファイル送信（FTP）時に自動作成されるサブフォルダー名を変更したい。	• Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で変更します。半角の英数字47文字以内で、ネットワーク上の他の機器と重複しない識別名を設定します。工場出荷時は「RNP******」（******は物理アドレスの下6桁）となっていますが、ユーザーが個別に設定するときは、他の機器と重複する恐れがあるため、先頭の3文字が「RNP」（小文字が混ざっている場合も含む）で始まる識別名は設定できないようになっています。
Webブラウザーから本機にログインできない（「お気に入り」に登録したWebステータスモニターが、表示されない）。	• 本機の画面表示を確認してください。初期設定画面のときは、Webステータスモニターを利用できません。［終了］または**【初期設定】**キーを押して、Ridoc配信待機画面またはメール/ファイル送信待機画面に変更してください。⇒ P.20 「初期設定画面」 • 本機のIPアドレスが工場出荷時の値（11.22.33.44）に戻っていないか確認してください（**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［1.IPアドレス］で確認できます）。ご利用のネットワークで割り当てられたIPアドレスが正しく設定されていないと、本機へのアクセスはできません。また、IPアドレスが工場出荷時の値に戻っているときは、読取条件なども工場出荷時の値に戻っていますので、設定しなおしてください。 • DHCPで本機のIPアドレスが動的に割り付けられている場合は、IPアドレスが変わりますので、「お気に入り」への登録は意味がありません。本機にログインするたびに、**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［1.IPアドレス］で、本機に割り当てられたIPアドレスを確認して、アドレス欄に入力します。なお、DHCP環境であっても、本機のIPアドレスは静的に割り当てることをお奨めします。その場合も、［ネットワーク］の［6.ネットワークブート］は「DHCP」を選択し、［1.IPアドレス］は自動取得させるように設定します。
画面を押しても画面が変わらない、反応しない。	• 本機の画面はタッチパネルではありません。画面の位置に対応したファンクションキーを押してください。⇒ P.16 「画面に表示されるキーなどの選びかた」
操作している途中で、設定がクリアされる。	• 本機の操作をしてから一定時間たつと、入力したものがクリアされるように設定されています。［オートクリア時間］を長くするか、「しない」にしてください。⇒ P.45 「オートクリア時間」
Webブラウザーで設定した読取条件が本機に反映されない。	• Webブラウザーを使って読取条件を変更する場合、［OK］ボタンをクリックした後、本機操作部の**【リセット】**キーを押してください。［読取条件］の設定内容は、本機操作部の**【リセット】**キーで即時有効となります。

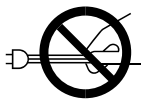
状態	原因・対処方法・参照先
登録したあて先が見当らない。	• 所属見出しが選択されていないか確認してください。下図の例のように画面右上に［か］と表示されている場合は、「か」行として登録されたあて名のみが表示されます。［全表示］にすると、すべてのあて先が表示されます。［全表示］のしかたはP.97「見出しを「全表示」に戻す」などを参照してください。 
ファイル名を指定したら、指定したメールのあて先やCc:が消えた。	• メール送信・ファイル送信（SMB）・ファイル送信（FTP）は排他利用です（同時に複数の機能を利用できません）。ファイル名を設定すると、ファイル送信（SMBまたはFTP）機能が有効になり、メール送信機能は無効になります。件名を設定すると、メール送信機能が有効になり、ファイル送信（SMBまたはFTP）機能は無効になります。また、To:またはCc:を設定すると、ファイル送信（SMBまたはFTP）機能は無効になります。SMBを設定すると、メール送信およびFTP送信機能は無効になります。FTPを設定すると、メール送信およびSMB送信機能は無効になります。

清掃

⚠警告

- 本書で指定している部分以外のカバーやねじは外さないでください。機械内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。機械内部の点検・調整・修理はサービス実施店に依頼してください。
- この機械を改造しないでください。火災や感電の原因になります。

⚠注意



- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

本機を良好な状態に保つために、定期的に清掃してください。

まず、やわらかい布で乾拭きします。乾拭きで汚れがとれないときは、やわらかい布を水で濡らし、固く絞ってから拭いてください。水でもとれない汚れは、外装部は中性洗剤を使い、ゴムローラ部はエチルアルコールを使って拭き、水拭きして、その後乾拭きし、水気を十分にとります。

重要

❒ ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品を使用したり、殺虫剤をかけたりしないでください。変形、変色、ひび割れの原因になります。

❒ ADF内部にホコリや汚れがあるときは、乾いた清潔な布で拭いてください。

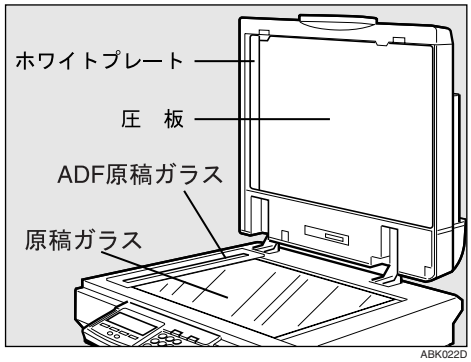
原稿ガラス、ADF原稿ガラス、圧板、ホワイトプレートを清掃するには

⚠注意

- ADFを閉じる場合は、指を挟まないようにご注意ください。

1 本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

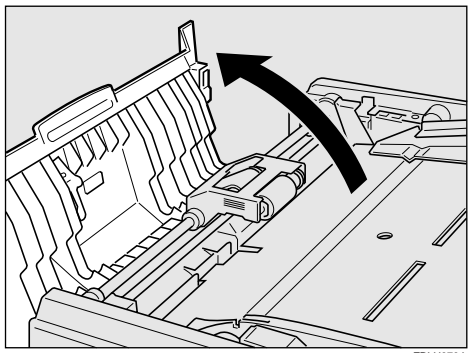
2 乾いたやわらかい布で空拭きしてください。



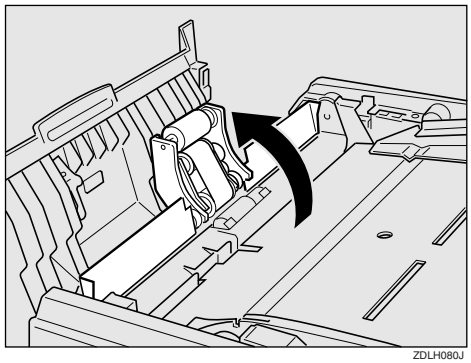
フィードローラーを清掃するには

1 本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ADFのカバーを開きます。


ZDLH070J

3 ローラー部を開き、フィードローラーを指で回しながら、水で濡らして固く絞った布で拭きます。


ZDLH080J

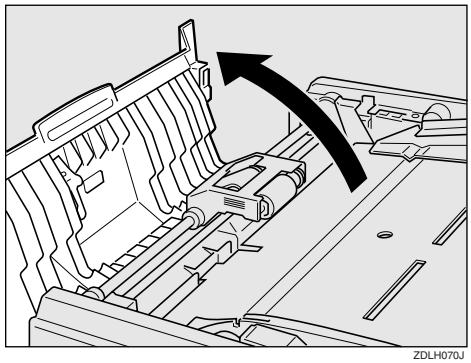
補足

❒ 鉛筆などの定着のよくないもので書かれた原稿を読み取った後は、必ずフィードローラーを清掃してください。清掃をしないと、次に読み込んだ原稿を汚すことがあります。

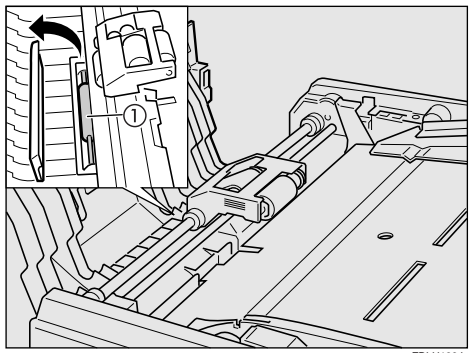
原稿ローラーを清掃するには

1 本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ADFのカバーを開きます。


ZDLH070J

3 原稿ローラーカバーを外し、原稿ローラー(①)を指で回しながら、水で濡らして固く絞った布で拭きます。



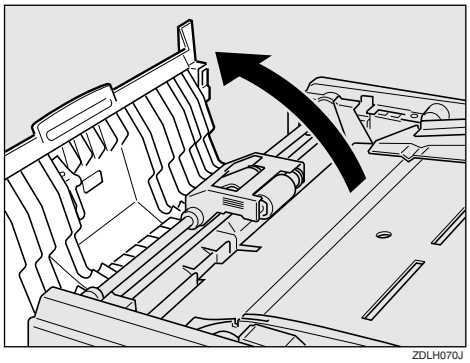
ZDLH190J

10

原稿コロを清掃するには

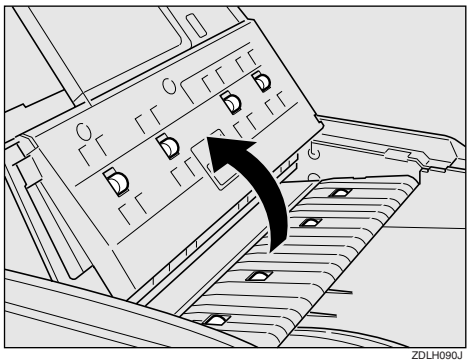
1 本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ADFのカバーを開きます。



ZDLH070J

3 原稿テーブルを開き、原稿コロを水で濡らして固く絞った布で拭きます。



ZDLH090J

移動・輸送

⚠注意

- 本機は約29kgあります。
- 本機を持ち上げるときは、２人以上で両側面の中央部分にある取っ手を持ち、ゆっくりと体に負担がかからない状態で持ち上げてください。無理をして持ち上げたり、乱暴に扱って落としたりすると、けがの原因になります。
- 長距離を移動するときは、サービス実施店に相談してください。

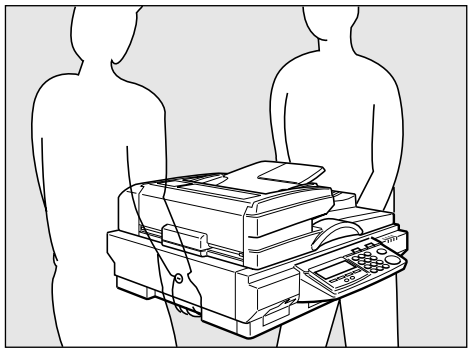
- 本機は日本国内向けに製造されており、電源仕様の異なる諸外国では使用できません。日本国外に移動するときは、保守サービスの責任は負いかねます。
- また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国で異なります。これらの規則に違反して本製品および消耗品などを諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。
- サービス実施店にご連絡いただくと、安全に輸送できるように措置をします。ただし、梱包と輸送についてはお客様で行ってください。

近くに移動するとき

1 本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 本機に接続されているケーブルをすべて抜きます。

3 本機を移動します。



ZDLH370

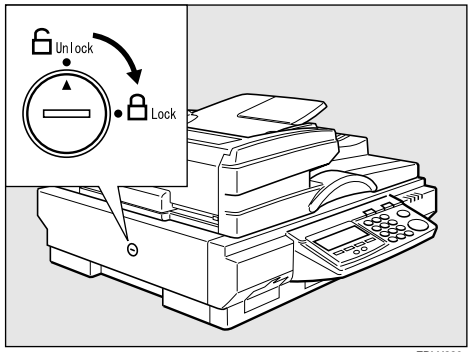
重要

❒ 移動するときは、なるべく水平を保ってください。

本機を輸送するとき

1 電源スイッチを入れて、20秒以上待ってから、切ります。

2 本体左側面の固定スイッチを「Lock」側にします。



ZDLH380

3 **操作部や、接続されているケーブル類を、すべて取り外します。**

4 **本機購入時の箱に入れ、輸送します。**

重要

- ❒ 精密機械ですので、輸送時に破損しないようご注意ください。
- ❒ 緩衝材は、ご購入時のものを使用してください。

廃棄

本機を廃棄したいときは、販売店またはサービス実施店に相談してください。

重要

❒ リチウム電池を火中に投入しないでください。破裂して、やけどの原因になります。

補足

❒ 不要となったネットワークボードは、販売店またはサービス実施店にお渡しいただき、当社の回収・リサイクル活動にご協力ください。

❒ ネットワークボードにはリチウム電池が搭載されています。お客様で処理される場合は、各自治体の規則に従って処理してください。

無線LANの設定をする

別売の「拡張無線LANボードタイプBⅡ」を使用する場合のネットワーク関連の設定方法を説明します。

操作の前に

事前に、10BASE-Tまたは100BASE-TXのクロスネットワークケーブルを1本、ご用意ください。なお、ハブ（Hub）などのネットワーク機器が利用できる場合は、10BASE-Tまたは100BASE-TXのストレートネットワークケーブルをご用意ください。

無線LANを使うための設定の概要

無線LANカードの設定は、Webステータスモニターの［設定］-［TCP/IP］で設定します。このため、Webステータスモニターにログインするための準備が必要になります。

Webステータスモニターにログインするための準備をします。

本機とPCを一時的にネットワークケーブル接続します。
本機の設定例：
IPアドレス：192.168.1.2
サブネットマスク：
255.255.255.0
PCの設定例：
IPアドレス：192.168.1.3
サブネットマスク：
255.255.255.0

↓

Webステータスモニターで、ご利用の無線LANネットワーク環境を設定します。

無線LANを使うための設定手順

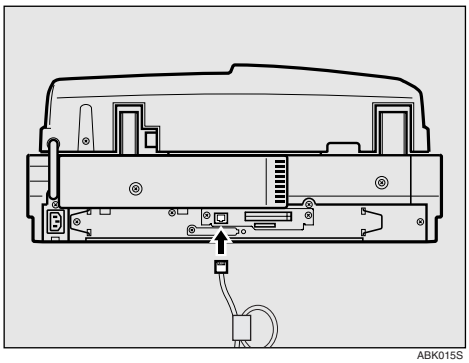
操作の前に

設定作業に使用するPCのネットワーク設定情報を変更します。作業完了後にPCのネットワーク設定を元に戻すために必要な情報を控えてください。

1 PCと本機を接続します。

クロスネットワークケーブルを使用する場合

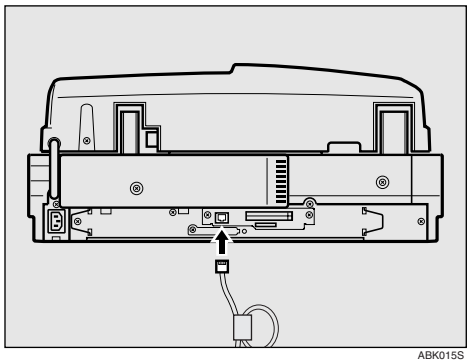
❶ 本機のネットワーク用インターフェースにクロスネットワークケーブルを接続します。



❷ クロスネットワークケーブルのもう片方のコネクターを、PCのネットワークインターフェースに接続します。

ハブが利用できる場合

❶ 本機のネットワーク用インターフェースにストレートネットワークケーブルを接続します。

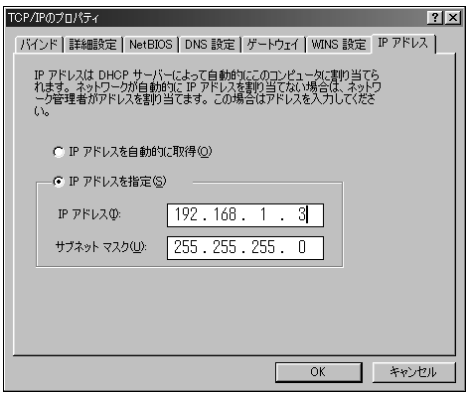

ABK015S

❷ ストレートネットワークケーブルのもう一方のコネクターを、ハブなどのネットワーク機器に接続します。

❸ PCが❷のネットワーク機器にケーブル接続されていることを確認します。

接続されていない場合は、10BASE-Tまたは100BASE-TXのストレートネットワークケーブルを使って接続してください。

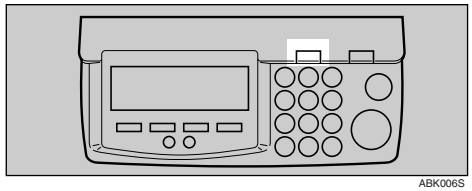
2 PCのIPアドレスを192.168.1.3、サブネットマスクを255.255.255.0に変更します。



3 PCを再起動します。

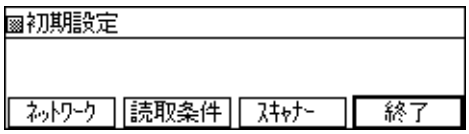
PCのIPアドレスが192.168.1.3に変更されます。

4 本機の【初期設定】キーを押します。


ABK006S

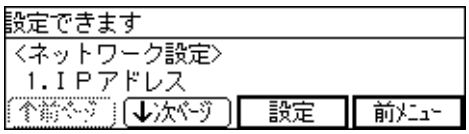
初期設定画面が表示されます。

5 [ネットワーク]を押します。



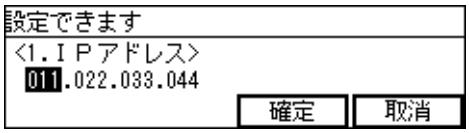
ネットワーク設定の項目選択画面「1.IPアドレス」が表示されます。

6 [設定]を押します。



「1.IPアドレス」入力画面が表示されます。

7 テンキーを使って「192.168.1.2」を入力します。



補足

- 数値は、3桁ずつ入力します。
- 3桁入力したら、【#】キーまたは【▷】キーを押します。次の3桁が入力できる状態になります。
- 間違えたときは【クリア/ストップ】キーを押します。入力した3桁の数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

8 [確定]を押します。

6の画面が表示されます。

9 [↓次ページ] を押します。

ネットワーク設定の項目選択画面「2. サブネットマスク」が表示されます。

10 **6～9と同様の手順で、[サブネットマスク] に255.255.255.0を設定します。**

ネットワーク設定の項目選択画面「3.デフォルトゲートウェイアドレス」が表示されます。

11 **[↓次ページ] を3回押し、[設定] を押します。**

「6. ネットワークブート」入力画面が表示されます。

12 **ネットワークブートが「NONE」になっていることを確認して、[取消] を押します。**

補足

- 現在、設定されている値には、*が付いています。
- 設定が異なる場合は、上記の値を表示させた状態で［確定］を押します。

13 **11～12と同様の手順で、[9.通信速度] が「自動設定」、[10.I/Fの切り替え] が「Ethernet」になっていることを確認します。**

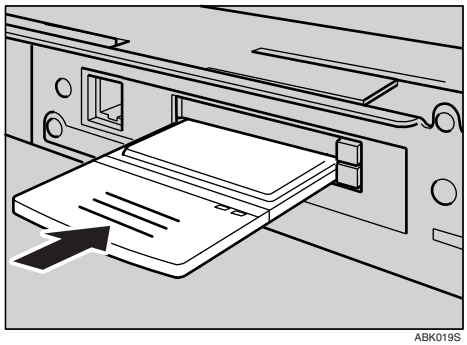
14 **[前メニュー] を押し、[終了] を押します。**

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

- 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

15 **本機の電源をOFFにし、背面のPCカードスロットに無線LANカードを挿入し、無線LANカードにカバーを取り付けます。**



参照

⇒ P.25 「無線LANカードを装着する」

16 **本機の電源をONにします。**

17 **PCのWebブラウザーを起動し、URL欄に「http://192.168.1.2/」を入力します。**

Webステータスモニターが起動します。

参照

WebステータスモニターについてはP.56「本機にアクセスする」を参照してください。

18 **メインメニューから [設定] をクリックします。**

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

- 一度設定をクリックしてパスワードを入力していれば、2回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は20に進んでください。

19 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

補足

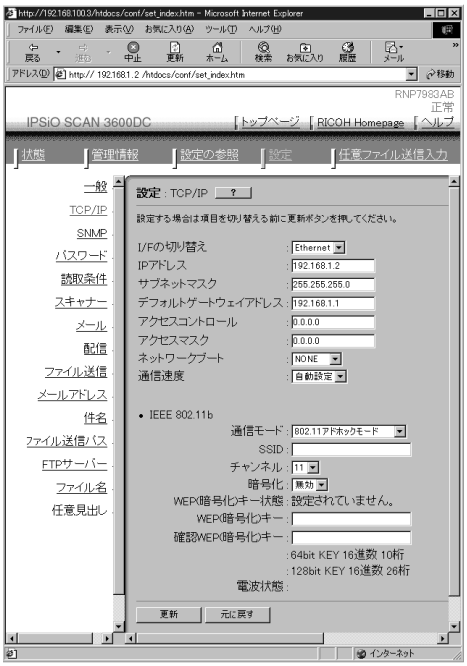
❒ ユーザー名は「ricoh」(半角小文字) に固定です。

❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。[設定]-[パスワード]で変更可能です。

設定画面が表示されます。

20 サブメニューの [TCP/IP] をクリックします。

21 各項目を設定します。



参照

⇒ P.40 「[ネットワーク] の設定項目」

❖ **I/Fの切り替え**

無線LANカードを有効にするには「IEEE 802.11b」に設定します。

❖ **ネットワークブート**

- NONE
  固定IPアドレスの場合に選択します。「NONE」を選択したときは、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイアドレス] も設定します。
- DHCP
  DHCP環境の場合に選択します。[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイアドレス] はDHCPサーバーから取得するため、入力しないでください。

❖ **通信モード**

- インフラストラクチャーモード
  ワイヤレスルーター (アクセスポイント) を介して有線ネットワークと無線ネットワークを統合し、1つのネットワークを構成するモードです。無線LAN を構成するすべてのパソコンや本機、ワイヤレスルーターなどを識別するために、同一ネットワーク内の機器に同じ [SSID] (ESS-ID) を設定します。
- アドホックモード
  ワイヤレスルーター (アクセスポイント) を介さずにネットワークを構成するモードです。無線LANカードを装着した機器のみのネットワークで、1 ～ 14 チャンネルの任意の同じ [チャンネル] (周波数帯) を設定して通信します。
- 802.11b アドホックモード
  アドホックモードの一種ですが、[チャンネル] のほかに [SSID] (ESS-ID) も設定します。

補足

❒ ネットワーク管理者から、SSID (ESS-ID)を渡されたときは「インフラストラクチャーモード」、チャンネル番号を渡されたときは「アドホックモード」、その両方を渡されたときは「802.11bアドホックモード」に設定します。

10

❖ SSID

インフラストラクチャーモードまたは802.11bアドホックモード選択時に、ネットワーク管理者から知らされたSSID(ESS-ID)を設定します。

補足

❒ SSIDは半角文字で入力します。大文字・小文字は区別されますので、注意してください。

❖ チャンネル

アドホックモードまたは802.11bアドホックモード選択時に使用するチャンネル（1～14）を設定します。

❖ 暗号化

通信データを暗号化するかしないかを設定します。ネットワーク管理者から、WEPキーを渡されたときは、「有効」を選択します。

❖ WEP（暗号化）キー

［暗号化］を「有効」にした場合に、暗号化に用いる秘密キーを入力します。秘密キーは16進数（半角の0～9、半角a～fまたは半角A～F）で10桁または26桁です。

❖ 確認WEP（暗号化）キー

入力ミスを防ぐために、もう一度、秘密キーを入力します。

22 ［更新ボタン］をクリックします。

設定した値が本機に書き込まれます。

23 1で接続したケーブル類を外します。

24 PCのネットワーク設定を元に戻します。

25 本機の電源を OFF/ON して再起動させます。

補足

❒ I/Fの切り替えを行ったときと、ネットワークブートをDHCPに変更したときは、設定内容を反映させるために必ず本機を再起動させてください。

❒ インフラストラクチャーモードの場合、再起動後に電波の強さが、Webステータスモニターの［設定］-［TCP/IP］の［電波状態］、または本機の操作部の**【初期設定】**キー-［ネットワーク］-［11.電波状態］に%で表示されます。電波の強さの目安は次のようになります。ただし、電波が強い状態であっても、ノイズなどの影響で通信できなかったり、通信不良となる場合があります。

- 100～76%：最良
- 75～41%：良
- 40～21%：不良
- 20～0%：通信不可

メールアドレス一括登録/書き出し時のフォーマット

登録エントリー情報

メール送信時に、あて先のTo:およびCc:に表示されるメールアドレスの情報が書き込まれたCSVファイルです。

登録エントリー情報ファイル例

1行目	#登録エントリ情報
2行目	#Format Version:3.1.1.0
3行目	#取得日時:12/09/2003　12:00:58
4行目	#機器名:RNP6219DA
5行目	#アドレス:192.168.1.15
6行目	#登録番号,種別,名前,表示名,常用,見出し1,見出し2,見出し3,E-mail,送信者,パスワード,ユーザーコード,所属グループ
7行目	[00001],[A],[ishihara],[石原],[1],[1],[7],[3],[ishihara@abcd.com],[1],[],[],[]
8行目	[00015],[A],[suzuki],[鈴木],[1],[1],[7],[3],[suzuki@xyz.co.jp],[1],[TIzMDQ==],[],[]

補足

- 1～6行目は認識用の固定行です。一括登録時は、まず書き出しを行って、これらの情報を取得することをお奨めします。書き出し時のデフォルトファイル名は“(識別名)_addr.csv”(例：RNP6219DA_addr.csv)です。
- 登録する情報は7行目以降に、各項目を「,」（カンマ）で区切って記入します。
- 各項目は[　]で囲んでください。

❖ 登録番号

Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［登録番号］に相当する項目です。半角数字00001～50000で、重複しないように設定してください。

❖ 種別

メールアドレスの種別ですが、本機では「A」（ユーザー）に固定です。

❖ 名前

Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［名前］に相当する項目です。半角で20文字（全角で10文字）まで設定できます。

❖ 表示名

本機の操作画面に表示される名前です。半角で13文字(全角で6文字）まで設定できます。

❖ 常用

常用見出しに表示するときは「1」、表示しないときは「0」を設定します。

❖ **見出し1、見出し2、見出し3**
各見出しの先頭から何番目の所属見出し(常用を除く)に所属するかを1～10の数字で表します。各見出しの所属見出しについては、機器タグ情報を参照してください。
例えば、見出し2が「常用」、「ABC」、「DEF」、「GHI」…の順に並んでいるときに、見出し2が「3」となっているユーザーは、「GHI」の所属見出しに所属します。

❖ **E-mail**
電子メールアドレスです。

❖ **送信者**
送信者として登録する場合は「1」、登録しない場合は「0」を設定します。

❖ **パスワード**
送信者として登録したときに、[パスワード保護]を「する」にした場合の保護パスワードで、暗号化されて表示されています。

補足

❒ パスワード保護をしたいユーザーを一括登録用にCSVファイルで加工するときは、パスワードをnullにして一括登録し、Webステータスモニターの[設定]-[メールアドレス]の[変更]で保護パスワードを設定してください。

❖ **ユーザーコード**
本システムでは使用しません。

❖ **所属グループ**
本システムでは使用しません。

機器タグ情報

メール/ファイル送信時のあて先の見出し情報のCSVファイルです。

補足

❒ 機器タグ情報ファイルの[取り込み]はできません。登録エントリー情報ファイルを表計算ソフトやテキストエディターで作成するときの参照用です。

CSVファイル例

1行目	#機器タグ情報
2行目	#取得日時:12/09/2003 12:01:32
3行目	#機器名:RNP6219DA
4行目	#アドレス:192.168.1.15
5行目	#常用見出し登録,しない=0,する=1,
6行目	見出し 1 登録,あ=1,か=2,さ=3,た=4,な=5,は=6,ま=7,や=8,ら=9,わ=10,
7行目	見出し 2 登録,ABC=1,DEF=2,GHI=3,JKL=4,MNO=5,PQRS=6,TUV=7,WXYZ=8,
8行目	見出し 3 登録,1=1,2=2,3=3,4=4,5=5,

補足

❒ 1～5行目は認識用の固定行です。

❒ 書き出し時のデフォルトファイル名は“(識別名)_taginfo.csv”(例:RNP6219DA_taginfo.csv)です。

❖ **6行目（見出し1登録）**
「かな」見出しの所属見出しです。

❖ **7行目（見出し2登録）**
「英数」見出しの所属見出しです。

❖ **8行目（見出し3登録）**
「任意見出し」の所属見出しです。

解像度、読み取り領域とデータサイズの関係

解像度と読み取り領域、データサイズは互いに次のように影響します。

- 解像度(dpi）を高く設定すると、データサイズが大きくなり、設定できる読み取り領域は小さくなります。
- 読み取り領域を大きく設定すると、データサイズが大きくなり、設定できる解像度は低くなります。

ネットワークTWAINドライバー使用時

補足

- ❒ 記載した表は、圧縮設定をしない場合です。
- ❒ ファイル形式（PDF、TIFFなど）によって、多少サイズが異なります。
- ❒ 数値の記載されていない欄の設定では、読み取りできません。
- ❒ TWAINドライバーで読み取れるデータサイズとアプリケーションで扱うことができるデータサイズは、異なります。アプリケーションで扱えるデータサイズについては、それぞれのアプリケーションの取扱説明書などを参照してください。

「白黒2値」、「白黒2値（ハーフトーン）」の場合

用紙サイズ	幅（mm）	高さ（mm）	解像度（dpi）						
			100	200	400	600	1200	2000	2400
A3	297	420	236	943	3772	8487	33968	94398	135942
A4	210	297	118	470	1886	4247	16991	47181	67969
A5	148	210	58	234	940	2117	8468	23511	33870
A6	105	148	29	117	469	1058	4233	11755	16935
B4	257	364	176	705	2827	6365	25475	70785	101948
B5	182	257	88	354	1415	3183	12734	35393	50972
B6	128	182	43	175	703	1583	6339	17619	25386
11×17	279	432	242	970	3880	8729	34938	97096	139823
LG	216	356	145	580	2327	5231	20940	58170	83800
LT	216	279	114	455	1823	4099	16412	45588	65676
5.5×8.5	140	216	56	227	913	2058	8231	22870	32955
長尺	297	2000	1123	4491	17963	40416	161755	—	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

「白黒256値（グレースケール）」の場合

用紙サイズ	幅（mm）	高さ（mm）	解像度（dpi）						
			100	200	400	600	1200	2000	2400
A3	297	420	1887	7551	30209	67965	—	—	—
A4	210	297	943	3774	15104	33979	135939	—	—
A5	148	210	469	1881	7525	16934	67742	188166	—
A6	105	148	235	940	3761	8467	33868	94077	135484
B4	257	364	1415	5662	22654	50967	20883	—	—
B5	182	257	707	2831	11327	25483	101942	—	—
B6	128	182	352	1409	5640	12691	50774	141033	203094
11×17	279	432	1941	7765	31072	69903	—	—	—
LG	216	356	1163	4653	18619	41897	167589	—	—
LT	216	279	911	3646	14590	32834	131347	—	—
5.5×8.5	140	216	457	1829	7320	16477	65907	183074	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

「カラー 8色」、「カラー 8色（ハーフトーン）」の場合

用紙サイズ	幅（mm）	高さ（mm）	解像度（dpi）						
			100	200	400	600	1200	2000	2400
A3	297	420	943	3775	15101	33977	135929	—	—
A4	210	297	471	1886	7550	16989	67963	188793	—
A5	148	210	235	939	3762	8467	33871	94075	135484
A6	105	148	117	470	1879	4233	16934	47033	67735
B4	257	364	707	2830	11324	25483	101933	—	—
B5	182	257	353	1415	5663	12739	50971	141593	203892
B6	128	182	176	704	2818	6344	25383	70516	101547
11×17	279	432	970	3883	15533	34947	139814	—	—
LG	216	356	581	2327	9307	20949	83794	—	—
LT	216	279	456	1823	7293	16417	65673	182416	—
5.5×8.5	140	216	228	915	3660	8236	32954	91529	131821

数値：データサイズ（単位＝KB）

「カラー 256色」の場合

用紙サイズ	幅 (mm)	高さ (mm)	解像度(dpi)						
			100	200	400	600	1200	2000	2400
A3	297	420	1887	7551	30209	67965	—	—	—
A4	210	297	943	3774	15104	33979	—	—	—
A5	148	210	469	1881	7525	16934	67742	—	—
A6	105	148	235	940	3761	8467	33868	—	—
B4	257	364	1415	5662	22654	50967	—	—	—
B5	182	257	707	2831	11327	25483	—	—	—
B6	128	182	352	1409	5640	12691	50774	—	—
11×17	279	432	1941	7765	31072	69903	—	—	—
LG	216	356	1163	4653	18619	41897	—	—	—
LT	216	279	911	3646	14590	32834	65907	—	—
5.5×8.5	140	216	457	1829	7320	16477	—	—	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

「カラー 1677万色」の場合

用紙サイズ	幅 (mm)	高さ (mm)	解像度(dpi)						
			100	200	400	600	1200	2000	2400
A3	297	420	5661	22652	90626	203894	—	—	—
A4	210	297	2829	11322	45313	101937	—	—	—
A5	148	210	1408	5642	22574	50801	203225	—	—
A6	105	148	704	2819	11284	25401	101603	—	—
B4	257	364	4244	16986	67961	152900	—	—	—
B5	182	257	2121	8493	33981	76450	—	—	—
B6	128	182	1055	4228	16919	38074	152321	—	—
11×17	279	432	5822	23296	93216	209710	—	—	—
LG	216	356	3489	13960	55857	125692	—	—	—
LT	216	279	2734	10937	43771	98502	—	—	—
5.5×8.5	140	216	1372	5488	21960	49431	197722	—	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

メール/ファイル送信（SMB、FTP）、Ridoc配信時

補足

- 記載した表は、圧縮設定をしない場合です。
- ファイル形式（PDF、TIFFなど）によって、多少サイズが異なります。
- 「×」と記載されている欄の条件では、読み取りできません。
- 「－」が記載されている欄は、圧縮をしない設定の場合は読み取りできませんが、圧縮設定をした場合は読み取り可能です。

「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」の場合

用紙サイズ	幅（mm）	高さ（mm）	解像度（dpi）				
			100	200	400	600	1200
A3	297	420	236	944	3773	8488	×
A4	210	297	118	471	1887	4248	×
A5	148	210	59	235	940	2117	8468
B4	257	364	177	706	2828	6365	×
B5	182	257	89	354	1416	3184	×
11×17	279	432	228	914	3653	8218	×
8.5×14（LG）	216	356	146	580	2325	5226	×
8.5×11（LT）	216	279	115	456	1827	4106	×
5.5×8.5	140	216	57	228	914	2053	8218

数値：データサイズ（単位＝KB）

「白黒：グレースケール」の場合

用紙サイズ	幅(mm)	高さ(mm)	解像度(dpi)				
			100	200	400	600	1200
A3	297	420	1888	7551	30209	—	×
A4	210	297	944	3775	15105	33980	×
A5	148	210	470	1881	7525	16934	—
B4	257	364	1416	5663	22654	50967	×
B5	182	257	708	2832	11328	25484	×
11×17	279	432	1827	7305	29219	—	×
8.5×14(LG)	216	356	1163	4649	18594	41837	×
8.5×11(LT)	216	279	914	3653	14610	32872	×
5.5×8.5	140	216	457	1827	7305	16436	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

「カラー：フルカラー」の場合

用紙サイズ	幅(mm)	高さ(mm)	解像度(dpi)				
			100	200	400	600	1200
A3	297	420	5662	22652	—	—	×
A4	210	297	2830	11323	45314	—	×
A5	148	210	1409	5643	22575	50802	—
B4	257	364	4245	16987	—	—	×
B5	182	257	2121	8494	33981	—	×
11×17	279	432	5479	21915	—	—	×
8.5×14(LG)	216	356	3487	13946	55782	—	×
8.5×11(LT)	216	279	2740	10958	43829	—	×
5.5×8.5	140	216	1370	5479	21915	49307	—

数値：データサイズ（単位＝KB）

オプション

❖ 拡張機能ボード

- IS画像プロセッシングユニット タイプ450
  自動2値化処理や自動像域分離など高度な画像処理を可能にします。

❖ 専用テーブル

- スキャナー専用テーブル　タイプS
  本機を設置するのに、最適な高さおよび大きさです。

❖ 無線LANカード

- 拡張無線LANボード タイプBⅡ
  本機を無線LANでネットワーク接続します。本機背面のPCカードスロットに装着して使用します。

仕様

形式		デスクトップ型フラットベッドカラースキャナー	
読み取り方式		原稿固定走査方式および原稿移動走査方式	
読み取り領域		• 原稿ガラス 主走査:最大300mm 副走査:最大432mm	• ADF 主走査：最大297mm 副走査：片面白黒読み取り時最大2000mm、 片面カラー読み取り時最大630mm、 両面読み取り時最大432mm
線密度		主走査:600dpi 副走査:600dpi	
読み取り階調		入力:各色12ビット/画素 出力:各色8ビット/画素	
カラーマッチング		出力:RGB、sRGB	
読み取り時間		白黒:0.605msec/line カラー :1.815msec/line	
インターフェース	画像出力	Ethernetインターフェース × 1 （10BASE-Tまたは100BASE-TX）	
	機能拡張	PCカードTypeⅡインターフェース × 2 SDカード用インターフェース × 1	
操作部	表示部	240×64ドット STN液晶（4行白黒表示）	
	操作キー	10キー、4選択、2方向、スタート、クリア/ストップ、初期設定、リセット、＃、＊	
	表示言語	日本語（漢字）	
メモリー		RAM：128MB（うち、画像処理用：64MB）	
自己診断機能		あり（ハングアップ時の電源OFF/ON復帰）	
主なスキャナー機能		ネットワークTWAINドライバー対応 Scan to E-mail機能 Scan to SMB機能 Scan to FTP機能 Ridoc配信対応機能	
耐久性		5年間	
使用環境		10～32℃、15～80％RH	
電源		AC100V (50/60Hz)	
消費電力		稼働時140W 待機時60W 省電力モード時12W	
ウォームアップタイム		最大35秒	

省電力への移行・省電力からの復帰時間	移行時間：15分 復帰時間：10秒以下
大きさ	幅590mm/奥行き647mm/高さ265mm（ADFおよび操作部含む）
重量	約29kg

電波障害について

他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

電波障害自主規制について
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波ガイドライン適合品

家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠

搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報

GPL/LGPL適用ソフトウェアについて

本製品に含まれるソフトウェアは、GPL/LGPL適用ソフトウエアを使用しております。

本製品をご利用、ご購入のお客様には、対象ソフトウエアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があります。本製品で使用しているGPL/LGPL 適用ソースコードの入手をご希望されるお客様は、http://www.ricoh.com/support/linux/にアクセスしてください。

BSDライセンス適用ソフトウェアについて

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

Copyright (c) 1985, 1989, 1990 The Regents of the University of California.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

   This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The Apache Software License 適用ソフトウェアについて

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

The Apache Software License, Version 1.1

Copyright (c) 2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/)."

   Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.

4. The names "Apache" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.

5. Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

JPEGソフトウェアについて

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)

2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.

3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.

All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.

(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".

(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config. guess, config. sub, ltconfig, ltmain. sh). Another support script, install-sh, is copyright by M. I. T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

> "The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated. "

TIFFソフトウェアについて

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

UCD-SNMPソフトウェアについて

-- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) --

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

-- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) --

Copyright (c) 2001, Networks Associates Technology, Inc

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the NAI Labs nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) --

Portions of this code are copyright (c) 2001, Cambridge Broadband Ltd..

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

MD5ソフトウェア使用許諾文について

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

索引

アルファベット索引

802.11b アドホックモード **144**
ADF **14**
　セットできない原稿 **80**
ADF薄紙モード **47**
ADF原稿ガラス **15**
ADFに原稿をセットしたとき **103**
ADFに原稿が詰まったとき **126**
Apacheライセンス **157**
BSDライセンス **157**
Cc:の指定 **97**
CD-ROMの構成 **72**
DHCP環境時の設定手順 **42**
FTPサーバーアドレス **66**
FTPサーバーに送信されたファイル **120**
FTPサーバーの指定 **118**
［FTPサーバー］の設定項目 **66**
［FTPサーバー］の操作手順　→
　［メールアドレス］の操作手順 **60**
FTPサーバーへのファイル送信 **117**
FTPサーバーへのファイル送信概要 **12**
FTPサーバー名 **66**
GPL/LGPLライセンス **157**
I/Fの切り替え **41, 144**
IPアドレス **40**
IS画像プロセッシングユニット タイプ450 **154**
JPEGライセンス **158**
MD5ライセンス **161**
PASVモード **67**
PCカードスロット **15**
Ridoc Desk 2000/Lt **8**
Ridoc Desk 2000 Ltのインストール **76**
Ridoc Document Router/Pro/Lt **8**
Ridoc Document Router Ltのインストール **74**
Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信 **123**
Ridoc I/O Adminのインストール **77**
Ridoc I/O Naviのインストール **77**
Ridoc配信
　概要 **13**
　設定の概要 **33**
　操作手順の流れ **123**
　待機画面 **19**
SDカードスロット **15**
SMB **11**
SMBの指定 **108**
sRGB設定 **46**
SSID **145**
TIFFライセンス **159**
To:の指定 **96**
TWAIN **9, 87**
UCD-SNMPライセンス **160**
Webステータスモニター **57**
Webステータスモニターの画面と操作方法 **58**
Webブラウザーを使う **56**
WEPキー **145**

あ行

アクセスコントロール **40**
アクセスマスク **40**
圧縮設定（2値）**45**
圧縮設定（多値）**45**
圧板 **15**
あて先の検索 **96**
あて先の指定
　Ridoc配信 **124**
　ファイル送信:FTP **118**
　ファイル送信:SMB **108**
　メール送信 **96**
あて名として登録する項目 **63**
アドホックモード **144**
アドレス帳自動更新 **46**
暗号化 **145**
一括登録 **62**
移動キー **14**
移動・輸送 **138**

インジケーター **14**
エラー発生時 **125**
正面のインジケーターの見かた **17**
ネットワーク用インターフェースのインジケーターの見かた **18**
インストール
Ridoc Desk 2000 Lt **76**
Ridoc Document Router Lt **74**
Ridoc I/O Admin **77**
Ridoc I/O Navi **77**
ネットワークTWAINドライバー **73**
インフラストラクチャーモード **144**
薄紙 **79**
エラーメッセージ
Ridoc配信・ファイル送信時の操作画面 **130**
Webブラウザー上 **132**
本体に関するエラー **128**
読み取り条件に関するエラー **128**
インジケーター（本体正面）**125**
オートクリア時間 **45**
オプション **154**
思いどおりに読み取れないとき **127**

か行

開始位置 **50**
解像度 **50**
解像度とデータサイズ **149**
各部の名称 **14**
片面原稿のセットと設定 **82**
紙厚 **79**
画面 **14**
画面上のキーの選びかた **16**
キー表示名
FTP **66**
SMB **64**
メール **63**
機器タグ情報 **147**
機能選択 **18, 46**
共有フォルダーに送信されたファイル **114**
共有フォルダーの指定 **108**
共有フォルダーへのファイル送信 **107**
共有フォルダーへのファイル送信概要 **11**
【クリア/ストップ】キー **14**
原稿ガラス **15**
原稿ガラスに原稿をセットしたとき **103**
原稿サイズ **50, 79**
原稿種類 **50**
原稿詰まりを取り除く **126**
原稿テーブル **14**
原稿のセット
原稿ガラスにセット **84**
ADFにセット **84**
原稿のセットのしかた **79**
原稿のセット場所 **95**
原稿の向き **81**
原稿の向きと読取面 **95**
原稿の向きの指定 **102**
言語切り替え **47**
件名の指定 **98**
固定スイッチ **15**
孤立点除去 **52**
コンタクトガラス　→原稿ガラスに原稿をセットしたとき **103**

さ行

作業エリア **58**
サブネットマスク **40**
サブメニュー **58**
時刻付きファイル名
ファイル送信（FTP）**120**
ファイル送信（SMB）**114**
時刻なしファイル名
ファイル送信（FTP）**120**
ファイル送信（SMB）**114**
指定色消去 **51**
自動原稿送り装置（ADF）**14**
自動検知サイズ **79**
自動的に読み取れる原稿サイズ **79**
終了 **91**
仕様 **155**
常用見出し
FTP **66**
SMB **65**
メール **64**
初期設定画面 **20**
【初期設定】キー **14**
所属見出し
FTP **66**
SMB **64**
メール **63**

白黒反転 **52**
スキャナー機能 **155**
［スキャナー］の設定項目 **45**
［スキャナー］の設定手順 **48**
【スタート】キー **14**
スムージング **52**
清掃 **135**
ADF原稿ガラス **135**
圧板 **135**
原稿ガラス **135**
原稿コロ **137**
原稿ローラー **136**
フィードローラー **136**
ホワイトプレート **135**
接続
オプション **24**
画像プロセッシングユニット **24**
操作部 **23**
電源コード **27**
ネットワーク **26**
無線LANカード **25**
設置環境 **21**
設定
Webブラウザーを使う **56**
項目一覧 **34**
スキャナー **45**
ネットワーク **40**
無線LAN **141**
読取条件 **50**
設定の確認 **68**
設定確認の操作手順 **68**
［設定］（Webステータスモニター）の操作手順 **59**
設定をクリア **47**
セットできる原稿のサイズと紙厚 **79**
選択画面を表示 **47**
専用テーブル **154**
操作部 **14**
送信/TWAIN優先設定 **45**
送信時接続禁止時間 **45**
送信者 **94**
送信者として使用 **64**
送信者の指定 **101**
送信の開始 **103**
送信の確認 **105**
ソースコード情報 **157**
ソフトウェアのインストール **72**

た行

待機画面 **18**
単位系設定 **46**
チャンネル **145**
通信速度 **41**
通信モード **144**
使いかたのいろいろ **9**
データサイズ **149**
ネットワークTWAIN時 **149**
メール/ファイル送信、Ridoc配信時 **152**
テストボタン
FTP **67**
SMB **65**
任意ファイル送信入力 **112**
バックアップ時 **70**
リストア時 **71**
デフォルトゲートウェイアドレス **40**
テンキー **14**
電源コネクター **15**
電源スイッチ **14**
電波障害 **156**
電波状態 **145**
登録エントリー情報 **146**
登録済みの共有フォルダーへのファイル送信 **107**
登録番号
FTP **66**
SMB **64**
メール **63**
トラブルシューティング→こんなときには **125**
取り込み
［設定］全体 **69**
メールアドレス **62**
ドロップアウトカラー　→指定色消去 **51**

な行

名前 **63**
並び順
FTP **67**
SMB **65**
メール **64**
任意の共有フォルダーへのファイル送信 **110**
［任意ファイル送信入力］の操作方法 **110**
任意ファイル送信
送信手順の流れ **110**

ネットワークTWAINスキャナー
概要 **9**
使用手順の流れ **87**
初期設定画面 **20**
設定の概要 **29**
待機画面 **20**
ドライバーのインストール **73**
読取例 **88**
主な機能一覧 **92**
ネットワークの設定項目 **40**
［ネットワーク］の設定手順 **41**
ネットワークブート **41, 144**
ネットワーク用インターフェース **15**
濃度 **51**

は行

廃棄 **140**
排紙テーブル **14**
配信サーバー IPアドレス **41**
配信先の指定 **124**
配信時の1文書最大サイズ **47**
パスワード保護 **64**
バックアップ
［設定］全体 **69**
メールアドレス **61**
バックアップファイル名
バックアップ時 **70**
リストア時 **71**
日付設定 **45**
秘密キー **145**
ファイル形式 **52**
ファイル送信（FTP）
概要 **12**
設定の概要 **32**
待機画面 **19**
ファイル名 **120**
保存場所 **120**
送信手順の流れ **117**
ファイル送信（SMB）
概要 **11**
設定の概要 **31**
送信手順の流れ **107**
待機画面 **19**
任意フォルダー **110**
ファイル名 **114**
保存場所 **114**
ファイル送信（SMB）の指定 **108**
ファイル送信パス
SMB **65**
任意ファイル送信入力 **111**
バックアップ時 **70**
リストア時 **71**
［ファイル送信パス］の設定項目 **64**
［ファイル送信パス］の操作手順 →
［メールアドレス］の操作手順 **60**
ファイル送信パス名 **64**
ファイル名
任意ファイル送信入力 **112**
ファイル送信（FTP）**120**
ファイル送信（SMB）**114**
ファイル名の指定 **109**
ファンクションキー **14**
フィルター **52**
復元
［設定］全体 **69**
メールアドレス帳 **62**
プレビュー **90**
ヘッダーエリア **58**
保護パスワード
FTP **67**
SMB **65**
メール **64**
保存 **91**
保存場所
ファイル送信（FTP）**120**
ファイル送信（SMB）**114**
本機にアクセスする **56**

ま行

マルチページTIFF **52**
見出しを使った検索 **96**
無線LANカード **154**
無線LANの設定 **141**
メインメニュー **58**
メールアドレス **64**
メールアドレス一括登録/書き出し時の
フォーマット **146**
メールアドレス帳の一括登録 **62**
メールアドレス帳の書き出し **61**
［メールアドレス］の設定項目 **63**
［メールアドレス］の操作手順 **60**

メール送信
概要 **10**
設定の概要 **30**
送信手順の流れ **93**
待機画面 **19**
メールの内容 **94**
メール/ファイル送信待機画面 **19**

や行

読取エリア **51**
読取時刻付き **114, 120**
読取終了後の動作 **47**
読取条件の確認 **100**
読取条件の指定 **99**
［読取条件］の設定項目 **50**
［読取条件］の設定手順 **52**
［読取条件］の操作手順 **59**
読み取りにくい原稿 **80**
読み取りの開始 **103**
読取面の指定 **102**
読取モード **89**
読み取り領域とデータサイズ **149**

ら行

ライセンス情報 **157**
リストア
［設定］全体 **69**
メールアドレス **62**
【リセット】キー **14**
略称・総称 **8**
両面原稿のセットと設定 **83**
ログインパスワード
FTP **67**
SMB **65**
任意ファイル送信入力 **112**
バックアップ時 **70**
リストア時 **71**
ログインユーザー名
FTP **66**
SMB **65**
任意ファイル送信入力 **112**
バックアップ時 **70**
リストア時 **71**

わ行

枠消去幅 **47**

MEMO

MEMO

商標

- Adobe、AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
- MS®、Microsoft®、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows® 95の製品名は、Microsoft® Windows® 95です。
* Windows® 98の製品名は、Microsoft® Windows® 98です。
* Windows® Meの製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition（Windows Me）です。
* Windows® 2000の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
  Microsoft® Windows® 2000 Server
* Windows® XPの製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® XP Professional
* Windows Server™ 2003の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Web Edition
* Windows NT® 4.0の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

重要

❒ 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
❒ 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

無断転載禁止 © 2003 RICOH CO., LTD.

株式会社リコー
東京都港区南青山1-15-5 リコービル 〒107-8544
（03）3479-3111（代表）

IPSiOSCAN 3600DC 使用説明書

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についての消耗品のご注文はお買い上げの販売店にご連絡ください。
故障・保守サービスのお問い合わせは最寄りのサービス実施店にご連絡ください。
転居の際は、販売店またはサービス実施店にご連絡ください。転居先の最寄りの販売店、サービス実施店をご紹介いたします。

リコープリンターコールセンター

製品の操作方法に関するお問い合わせは、
「IPSiO（イプシオ）ダイヤル」にご連絡ください。

0120 FreeDial **0120-56-1240**（コールはイプシオ）

● 受付時間：9～12時、13～17時（土、日、祝日、リコーの休業日を除く）

最新スキャナードライバーおよびユーティリティ情報

最新版のスキャナードライバーをインターネットのリコーホームページから入手できます。
● インターネット/リコーホームページ：http://www.ricoh.co.jp/

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

リコーは環境に配慮し、説明書の印刷に大豆から作られたインキの使用を推進しています。
この説明書はエコマーク商品に認定された再生紙を使用し、リサイクルに配慮し製本しています。この説明書が不要になったときは、資源回収、リサイクルに出しましょう。

Printed in Japan
2003年9月　G420-6650